

---

# JD Edwards EnterpriseOne 税処 理 9.0 製品ガイド

---

2008 年 12月

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

## 商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

## ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

## 保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

## 制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

## 危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

## 第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993-2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999-2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.  
Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.  
Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.  
This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.  
This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).  
This product includes cryptographic software written by Eric Young ([ey@cryptsoft.com](mailto:ey@cryptsoft.com)).  
This product includes software written by Tim Hudson ([tjh@cryptsoft.com](mailto:tjh@cryptsoft.com)). All rights reserved.  
This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

## Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.



# 目次

## はじめに

この PeopleBook について .....	xi
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xi
アプリケーションの基礎.....	xi
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xii
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xii
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xii
追加情報.....	xii
表記規則.....	xiv
表記規則.....	xiv
注意事項の表示.....	xv
国、地域、業種の表記.....	xv
通貨コード.....	xvi
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xvi
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xvi

## まえがき

JD Edwards EnterpriseOne税処理 – まえがき.....	xix
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xix
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xix

## 第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne税処理 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOne税処理の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOne税処理の導入.....	1
導入手順.....	1

## 第 2 章

税情報の設定.....	3
税目コードについて.....	3
売上税(S) – 購買オーダーから伝票へ.....	5
売上税(S) – 受注オーダーから請求書へ.....	7
売上税(S) – 伝票および請求書入力.....	8

使用税(U) - 購買オーダーから伝票へ.....	8
使用税(U) - 伝票入力.....	10
VAT税(V) - 購買オーダーから伝票へ.....	11
VAT税(V) - 受注オーダーから請求書へ.....	13
VAT税(V) - 伝票および請求書入力.....	14
VAT + 売上税(C) - 購買オーダーから伝票へ.....	15
VAT + 売上税(C) - 受注オーダーから請求書へ.....	18
VAT + 売上税(C) - 伝票および請求書入力.....	18
VAT + 使用税(B) - 購買オーダーから伝票へ.....	19
VAT + 使用税(B) - 伝票入力.....	22
免税(E).....	23
この章で使用する共通フィールド.....	23
納税先の設定.....	24
税UDCの設定.....	24
会社別税規則の設定.....	25
会社別税規則について.....	25
税規則の設定に使用するフォーム.....	30
税規則の設定.....	30
税のAAIの設定.....	31
税のAAIについて.....	31
税の会計AAIについて.....	32
税の流通AAIについて.....	33
税率/税域の設定.....	35
税率/税域について.....	35
還付不可VATについて.....	36
事前設定.....	38
税率/税域の設定に使用するフォーム.....	38
税率/税域(P4008)の処理オプションの設定.....	38
税率/税域の設定.....	39
税のデフォルト値の設定.....	40
税のデフォルト値について.....	41
ビジネスユニット、仕入先および顧客レコードのデフォルト税情報の設定に使用するフォーム.....	42
税ID番号の検証.....	43
税ID検証について.....	43
税ID検証を有効にする方法について.....	45
税ID検証を一時変更する方法について.....	45
総勘定元帳勘定科目への税情報の割当.....	46
総勘定元帳勘定科目の税情報について.....	46
総勘定元帳勘定科目への税情報の割当に使用するフォーム.....	46
総勘定元帳勘定科目への税情報の割当.....	46

総勘定元帳転記レポート・プログラムの設定による税情報の更新.....	46
総勘定元帳への転記プログラムと税情報の更新について.....	47
総勘定元帳への転記プログラムの実行.....	47
<b>第 3 章</b>	
<b>オーダーおよび取引の税情報の入力および改訂.....</b>	<b>49</b>
総勘定元帳勘定科目別の税のトラッキングについて.....	49
外貨金額の税の計算方法について.....	50
外貨建ての請求書、伝票および購買オーダーの税計算.....	50
外貨建て受注オーダーの税計算について.....	52
事前設定.....	53
この章で使用する共通フィールド.....	53
購買オーダーおよび受注オーダーへの税情報の入力.....	54
購買オーダーおよび受注オーダーの税情報について.....	54
事前設定.....	55
購買オーダーおよび受注オーダーへの税情報の入力に使用するフォーム.....	56
購買オーダーへの税情報の入力.....	56
受注オーダーへの税情報の入力.....	57
請求書および伝票への税情報の入力.....	57
請求書および伝票の税情報について.....	57
丸めとソフト丸めについて.....	58
事前設定.....	58
税込みの請求書および伝票の入力に使用するフォーム.....	59
税込みの請求書の入力.....	59
税込みの伝票の入力.....	61
VATを含む仕訳の入力.....	63
VATを含む仕訳について.....	63
事前設定.....	65
VATを含む仕訳の入力に使用するフォーム.....	65
VAT付き仕訳(P09106)の処理オプションの設定.....	65
VATを含む仕訳の入力.....	66
税込みの請求書および伝票の改訂.....	66
税込みのバッチ請求書および伝票の処理.....	67
税込みの請求書および伝票のバッチ処理について.....	67
VATを含むオフライン仕訳およびバッチ仕訳の処理.....	70
VATを含むオフライン仕訳およびバッチ仕訳について.....	70

**第 4 章**

<b>税テーブルの処理</b> .....	<b>73</b>
税テーブルの更新処理について.....	73
税テーブルへの取引の追加.....	73
税テーブルの改訂プログラムについて.....	73
税テーブルへの取引の追加に使用するフォーム.....	74
税テーブルへの取引の追加.....	74
税テーブルの取引の除去.....	76
税テーブルの取引の除去.....	76

**第 5 章**

<b>税調整リポジトリの更新</b> .....	<b>77</b>
税調整リポジトリの更新.....	77
税調整リポジトリの更新処理について.....	77
税調整リポジトリの更新プログラムの実行.....	83
税調整リポジトリの更新(R0018R)の処理オプションの設定.....	84
税調整リポジトリの検討.....	84
税調整リポジトリの検討方法について.....	84
税調整リポジトリのレコードの検討に使用するフォーム.....	84

**第 6 章**

<b>VATの処理</b> .....	<b>85</b>
VATの用語および原則について.....	85

**付録 A**

<b>Vertex Sales Tax Q SeriesシステムからJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアへのフィールドのマッピング</b> .....	<b>87</b>
JD Edwards EnterpriseOne買掛管理.....	87
住所選択階層.....	89
JD Edwards EnterpriseOne売掛管理.....	90
住所選択階層.....	92
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理およびJD Edwards EnterpriseOneサービス管理.....	92
住所選択階層.....	94
JD Edwards EnterpriseOne受注管理.....	97
住所選択階層.....	98
JD Edwards EnterpriseOne調達管理.....	99

住所選択階層.....	101
<b>付録 B</b>	
<b>JD Edwards EnterpriseOne税処理レポート.....</b>	<b>103</b>
JD Edwards EnterpriseOne税処理のすべてのレポート.....	103
JD Edwards EnterpriseOne税処理の主なレポート.....	104
R0018P – 税明細/集計レポート.....	104
データ選択およびデータ順序.....	104
税明細/集計 (R0018P) の処理オプション.....	104
R0018P1 – 税集計レポート/付加価値税.....	105
税集計レポート/付加価値税 (R0018P1) の処理オプション.....	105
R0018P2 – 売上税.....	106
売上税 (R0018P2) の処理オプション.....	106
R0018P7 – 付加価値税例外レポート (納税先別).....	106
データ選択.....	107
付加価値税例外レポート (納税先別) (R0018P7) の処理オプション.....	107
R00320 – 税仕訳.....	107
税仕訳 (R00320) の処理オプション.....	108
<b>JD Edwards EnterpriseOne用語集.....</b>	<b>111</b>
<b>索引 .....</b>	<b>127</b>



# この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要となる情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

---

**注意:** 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

---

## JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお勧めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

---

## アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

---

## 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)
- ドキュメンテーションのダウンロード

### 最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

---

**重要:** アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

---

#### 関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: [http://www.oracle.com/support/support\\_peoplesoft.html](http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html)

### ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

---

## 追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

## 表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

## 表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせて使う操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒( )で区切られています。
[ ] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。  また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

## 注意事項の表示

表記規則

### 注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

---

**注意:** 注意事項は、このような形式で示しています。

---

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

---

**重要:** 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

---

### 警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

---

**警告:** 警告は、このような形式で示しています。

---

### 相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

## 国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

### 国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の国コード」

### 地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

### 業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF (米国連邦政府)
- E&G (教育/公的機関)

## 通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の通貨コード」

---

## ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn\_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

---

## 製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合があります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されません。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/IC)のコードが表示されます。値は次のとおりです。 空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。 A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。 D: バッチが正常に転記されています。 E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。

	<p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p> <p>U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。</p>
<b>事業所</b>	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
<b>ビジネスユニット</b>	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
<b>カテゴリ・コード</b>	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
<b>会社</b>	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
<b>通貨コード</b>	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
<b>伝票会社</b>	伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。
	<p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
<b>伝票番号</b>	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
<b>伝票タイプ</b>	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票</p> <p>R: 売掛金伝票</p> <p>T: 時間および給与伝票</p> <p>I: 在庫伝票</p> <p>O: 購買オーダー伝票</p> <p>S: 受注オーダー伝票</p>
<b>有効日付</b>	住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。

- 住所の変更が有効になる日付
- 賃貸契約が有効になる日付
- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

**会計期間、会計年度**

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

**元帳日付**

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

# JD Edwards EnterpriseOne税処理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

---

## JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne基本設定 – 住所録
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne調達管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理

---

## JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。



# 第 1 章

## JD Edwards EnterpriseOne税処理 – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne税処理の概要
- JD Edwards EnterpriseOne税処理の導入

---

### JD Edwards EnterpriseOne税処理の概要

各種の納税先により、税が課税および徴収されます。政府の税法に対応するため、税情報を設定する必要があります。この情報の設定後、次の操作が可能になります。

- 様々な税率および税域に応じた税のトラッキング
- 顧客または仕入先へのデフォルト税率の割当
- 取引全体または取引支払項目への税率の適用
- 税額の入力または自動計算
- 別のテーブルの税履歴のトラッキング

---

### JD Edwards EnterpriseOne税処理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne税処理の導入に必要な手順について説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOneに関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne税処理について、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

### 導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne税処理の導入手順を示します。

手順	参照
1. 会社、会計期間パターンおよびビジネスユニットを設定します。	
2. 勘定科目と勘定科目表を設定します。	
3. 一般会計固定情報を設定します。	
4. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「多通貨処理の一般会計の設定」</li> <li>• JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「為替レートの設定」</li> </ul>
5. 元帳タイプ規則を設定します。	
6. 住所録レコードを入力します。	
7. 税目コード、納税先、ユーザー定義コード(UDC)、会社別税規則、AAI、税率/税域などの税関連情報を設定します。	第 2 章、「 <u>税情報の設定</u> 」、3 ページ

## 第 2 章

# 税情報の設定

この章では、税目コードの概要と、次の方法について説明します。

- 納税先の設定
- 税ユーザー定義コード(UDC)の設定
- 会社別税規則の設定
- 税のAAI(自動仕訳)の設定
- 税率/税域の設定
- 税のデフォルト値の設定
- 税ID番号の検証
- 総勘定元帳勘定科目への税情報の割当
- 総勘定元帳への転記プログラムの設定による税情報の更新

---

**注意:** 税処理用の国固有の追加設定が必要な国が多数あります。

---

## 税目コードについて

仕入先から受け取った請求書や顧客に送付する請求書上の税の計算、支払、徴収およびトラッキングが必要な場合があります。これが必要な場合、取引の税目コードを入力する必要があります。税目コードは取引入力フォームに入力します。または、顧客レコードや仕入先レコードに設定したデフォルトの税目コードを自動的に使用することもできます。

税目コードはハードコード化されており、税目コード(00/EX)ユーザー定義コード(UDC)テーブルに設定されています。これらのコードにより、税額の計算に使用されるアルゴリズムが指定され、税情報の記録に使用される総勘定元帳勘定科目がある場合はその勘定科目も指定されます。各税目コードにより、総勘定元帳で配賦される金額に影響を与える特定のアルゴリズムが指定されます。独自の税目コードを作成できますが、その税目コードがB、C、E、S、UまたはVで始まる場合、そのコードは標準の税目コードと同じアルゴリズムを使用し、機能は完全に同じになります。たとえば、S1の機能はSと完全に同じであり、V7の機能はVと完全に同じです。他の文字または数値の税目コードを作成すると、税の計算と金額の配賦に売上税アルゴリズムが使用されます。

一部の税目コードの末尾には、文字Tが付加されます。このタイプの税目コードは、取引の税部分のみを入力する場合に使用します。たとえば、伝票を入力し、税情報は入力しない場合は、別の伝票を入力し、文字Tが末尾に付加された適切な税目コードを使用して、その伝票自体が税額を表すことを示すことができます。

すべての税目コードがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェア内の各システムに適用されるわけではありません。

次の表に、使用できる税目コード、各コードを使用するシステム、および課税対象額の入力時に計算される総額と総勘定元帳の配賦金額を示します。

税目コード	説明	使用システム*	総額および総勘定元帳の配賦金額
S	売り手申告売上税	AP、AR、PO、SO	総額 = 商品金額 + 売上税、配賦金額 = 商品金額 + 売上税
ST	Sと同様、ただし税のみ	AP、AR	総額 = 売上税、配賦金額 = 売上税
U	自己申告売上税	AP、PO	総額 = 商品金額、配賦金額 = 商品金額 + 使用税
UT	Uと同様、ただし税のみ	AP	総額 = 0、配賦金額 = 使用税
V	付加価値税 (VAT)	AP、AR、GA、PO、SO	総額 = 商品金額 + VAT、配賦金額 = 商品金額
VT	Vと同様、ただし税のみ	AP、AR、GA	総額 = VAT、配賦金額 = 0
V+	Vと同様、ただし複合税として計算	AP、AR、PO、SO	総額 = 商品金額 + VAT、配賦金額 = 商品金額
B	VAT + 使用税	AP、PO	総額 = 商品金額 + VAT、配賦金額 = 商品金額 + 使用税
BT	Bと同様、ただし税のみ	AP	総額 = VAT、配賦金額 = 使用税
C	VAT + 売上税	AP、AR、PO、SO	総額 = 商品金額 + VAT + 売上税、配賦金額 = 商品金額 + 売上税
CT	Cと同様、ただし税のみ	AP、AR	総額 = VAT + 売上税、配賦金額 = 売上税
E	免税	AP、AR、PO、SO	総額 = 商品金額、配賦金額 = 商品金額

\*AP = JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理

AR = JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理

GA = JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 (仕訳)

PO = JD Edwards EnterpriseOne 調達管理

SO = JD Edwards EnterpriseOne 受注管理

**注意:** 税目コードARは、JD Edwards EnterpriseOne 資産 (不動産) 管理で使用されます。

## 売上税(S) - 購買オーダーから伝票へ

売上税(税目コードS)を含む購買オーダーを入力すると、流通AAIを使用して税が記録されます。在庫品目の購買の場合は、在庫勘定を更新します。AAIは、在庫品目の購買かどうかと、2方向と3方向のどちらの照合を使用するかで異なります。

次の各例では、指定のプログラムの実行時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。すべての例では、金額が1,000 USD、売上税率が10%の購買オーダーを想定しています。システムの事前設定により、仕訳は明細形式で作成されます。

### 在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

在庫品目の購買では、3方向伝票照合を使用する必要があります。購買オーダー入荷を入力すると、購入税累計勘定と入荷請求仮税勘定の2つの総勘定元帳勘定科目に税が記録されます。伝票の作成時に、入荷請求仮税勘定が相殺されます。購入税累計勘定は、品目の税部分のトラッキングに使用します。売上税は売り手(仕入先)が支払うため、納税先へは売上税を支払いません。

例: 在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
入荷確認(購買オーダー別) (P4312)  仕訳の作成	DM - 4310	F0911	在庫資産	1,000	.
	DM - 4350		購入税累計(資産)	100	.
	DM - 4320		入荷請求仮		1,000
	DM - 4355		入荷請求仮税		100
伝票照合 (P4314)  伝票の作成	.	F0411	課税対象(1,000)	.	.
	.	.	税(100)	.	.
	DM - 4320	F0911	総額(1,100)	.	.
	DM - 4355		入荷請求仮	1,000	
			入荷請求仮税	100	
総勘定元帳への 転記(R09801)  総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PC	F0911	買掛金勘定	.	1,100

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

**注意:** 伝票照合処理中に購買オーダーではなく税情報を入力すると、DM AAI 4355に関連する勘定への入力が行われません。そのかわりに、伝票の転記時に、DM AAI 4350の勘定および入荷請求仮勘定の借方と、買掛金勘定の貸方への記入が行われます。

### 非在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

非在庫品目の購買では、2方向または3方向伝票照合を使用できます。3方向伝票照合を使用し、購買オーダー入荷を入力すると、入荷請求仮税勘定に税が記録され、伝票の作成時に相殺されます。売上税は伝票にのみ記録され、費用勘定の金額に含まれます。売上税は仕入先が支払うため、納税先への支払がなく、売上税は別の勘定に記録されません。

例: 非在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
入荷確認(購買オーダー別) (P4312) 仕訳の作成	. DM - 4320 DM - 4355	F0911	購買オーダー行の費用勘定 入荷請求仮 入荷請求仮税	1,100	. . 1,000 100
伝票照合 (P4314) 伝票の作成	. DM - 4320 DM - 4355	F0411 F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,100) 入荷請求仮 入荷請求仮税	. . . 1,000 100	. . . . .
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PC	F0911	買掛金勘定	.	1,100

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

### 非在庫品目の購買 - 2方向伝票照合

2方向伝票照合を使用すると、購買オーダー入荷を入力しないため、入荷請求仮勘定は使用されません。この場合、購買オーダーを入力し、伝票を作成します。この処理中は、どの総勘定元帳勘定科目にも売上税は記録されません。売上税は伝票にのみ記録され、費用勘定の金額に含まれます。売上税は仕入先が支払うため、納税先への支払がなく、売上税は別の勘定に記録されません。

例: 非在庫品目の購買 - 2方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
伝票照合 (P4314)  伝票の作成	.	F0411  F0911	課税対象(1,000)  税(100)  総額(1,100)  購買オーダー行 の費用勘定	.  .  .  1,100	.
総勘定元帳への 転記(R09801)  総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PC	F0911	買掛金勘定	.	1,100

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

## 売上税(S) - 受注オーダーから請求書へ

売上税(税目コードS)を含む受注オーダーを入力して顧客売上の更新(R42800)を実行すると、流通AAIを使用して売上高、未払税、売上原価(COG)および在庫の勘定への記録が行われます。納税先への支払時に、未払税勘定を相殺します。

次の例では、指定のプログラムの実行時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。この例では、金額が1,000 USD、売上税率が10%の受注オーダーを想定しています。

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
顧客売上の更新 (R42800)  請求書の作成	.  DM - 4230  DM - 4250  DM - 4220  DM - 4240	F03B11  F0911	課税対象(1,000)  税(100)  総額(1,100)  売上高  未払税  売上原価  在庫	.  .  .  .  900	.  .  .  1,000  100  .  900
総勘定元帳への 転記(R09801)  総勘定元帳への 請求書の転記	FIN - RC	F0911	売掛金勘定	1,100	.

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

## 売上税(S) - 伝票および請求書入力

売上税を含む伝票または請求書を入力すると、税額が計算されますが、総勘定元帳への個別の入力は作成されません。売上税は、伝票または請求書レコードにのみ表示されます。伝票の場合、税は経費の一部となるため、税を特定の勘定に入力する必要はありません。ただし、請求書の場合は、売上税を支払う必要があるため、売上税を別の勘定でトラッキングする必要が生じる場合があります。この場合、売上税額を収益から差し引き、別々に入力する必要があります。

または、税目コードSを使用するかわりに、税目コードVを使用すると、PTxxxx(買掛の場合)またはRTxxxx(売掛の場合)で指定される勘定に税を記録できます(xxxxは税率/税域に入力されている相手勘定)。

次の例では、伝票または請求書の入力および転記時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。この例では、課税対象額が1,000 USD、売上税率が10%と想定しています。

例: 伝票入力

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
標準伝票入力 (P0411) 伝票の作成		F0411  F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,100) 費用	1,100	
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PC	F0911	買掛金勘定		1,100

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

## 使用税(U) - 購買オーダーから伝票へ

使用税(税目コードU)を含む購買オーダーを入力すると、取引の転記時に税額が計算され、総勘定元帳へ個別の入力が行われます。

次の各例では、指定のプログラムの実行時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。すべての例では、金額が1,000 USD、使用税率が10%の購買オーダーを想定しています。システムの事前設定により、仕訳は明細形式で作成されます。

### 在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

在庫品目の購買では、3方向伝票照合を使用する必要があります。購買オーダー入荷を入力すると、購入税累計勘定と入荷請求仮税勘定の2つの総勘定元帳勘定科目に税が記録されます。伝票の作成時に、入荷請求仮税勘定が相殺され、トラッキングを目的としてのみ、税が購入税累計資産勘定に記録されます。伝票を転記すると、税が未払使用税勘定に記録されます。納税先への支払時に、未払使用税勘定を相殺する伝票を入力します。

例: 在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
入荷確認(購買オーダー別) (P4312) 仕訳の作成	DM - 4310 DM - 4350 DM - 4320 DM - 4355	F0911	在庫資産 購入税累計(資産) 入荷請求仮 入荷請求仮税	1,000 100	. . . 1,000 100
伝票照合 (P4314) 伝票の作成	. . . DM - 4320 DM - 4355	F0411 . F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,000) 入荷請求仮 入荷請求仮税	. . . 1,000 100	. . . . .
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PT FIN - PC	F0911	未払使用税、買 掛金勘定	. .	100 1,000

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

### 非在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

非在庫品目の購買では、2方向または3方向伝票照合を使用できます。3方向伝票照合を使用し、購買オーダー入荷を入力すると、入荷請求仮税勘定に税が記録され、伝票の作成時に相殺されます。使用税は伝票の総額には含まれず、費用勘定の金額にも含まれません。この税は、納税先への税の支払時に相殺される別の勘定に記録されます。

例: 非在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
入荷確認(購買オーダー別) (P4312) 仕訳の作成	. . DM - 4320 DM - 4355	F0911	購買オーダー行 の費用勘定 入荷請求仮 入荷請求仮税	1,100	. . 1,000 100

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
伝票照合 (P4314)	.	F0411	課税対象(1,000)	.	.
伝票の作成	.	.	税(100)	.	.
	.	F0911	総額(1,000)	.	.
	DM - 4320		入荷請求仮	1,000	
	DM - 4355		入荷請求仮税	100	
総勘定元帳への 転記(R09801)	FIN - PT、FIN - PC	F0911	未払使用税、買 掛金勘定	.	100
総勘定元帳への 伝票の転記					1,000

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

### 非在庫品目の購買 - 2方向伝票照合

2方向伝票照合を使用すると、購買オーダー入荷を入力しないため、入荷請求仮勘定は使用されません。この場合、購買オーダーを入力し、伝票を作成します。伝票の作成時には、使用税は伝票の総額には含まれず、費用勘定の金額にも含まれません。この税は、納税先への税の支払時に相殺される別の勘定に記録されます。

例: 非在庫品目の購買 - 2方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
伝票照合 (P4314)	.	F0411	課税対象(1,000)	.	.
伝票の作成	.	.	税(100)	.	.
	.	F0911	総額(1,000)	.	.
			購買オーダー行 の費用勘定	1,000	
総勘定元帳への 転記(R09801)	FIN - PT	F0911	未払使用税、買 掛金勘定	.	100
総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PC				1,000

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

### 使用税(U) - 伝票入力

使用税を含む伝票を入力すると、取引の転記時に税額が計算され、未払使用税勘定に対する個別の入力が作成されます。この勘定は、納税先への支払時に相殺します。

次の例では、課税対象額が1,000 USD、使用税率が10%の伝票の入力および転記時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。

例: 伝票入力

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
標準伝票入力 (P0411) 伝票の作成		F0411 F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,000) 費用	1,100	
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 伝票の転記	FIN-PT FIN-PC	F0911	未払使用税、買 掛金勘定		100 1,000

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

## VAT税(V) - 購買オーダーから伝票へ

付加価値税(VAT)(税目コードV)を含む購買オーダーを入力すると、取引の転記時に税額が計算され、総勘定元帳へ個別の入力が行われます。

次の各例では、指定のプログラムの実行時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。すべての例では、金額が1,000 USD、VAT税率が10%の購買オーダーを想定しています。システムの事前設定により、仕訳は明細形式で作成されます。

### 在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

在庫品目の購買では、3方向伝票照合を使用する必要があります。購買オーダー入荷を入力すると、税の見越は行われず、税は入荷請求仮税勘定にのみ記録され、伝票の作成時に相殺されます。伝票を転記すると、税がVAT還付可能税勘定に記録されます。納税先に支払うのではなく、売り手(仕入先)に商品と税の金額を支払い、後で納税先から税額の還付を受けます。

例: 在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
入荷確認(購 買オーダー別) (P4312) 仕訳の作成	DM-4310 DM-4320	F0911	在庫資産 入荷請求仮	1,000	1,000

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
伝票照合 (P4314)	.	F0411	課税対象(1,000)	.	.
伝票の作成	.	.	税(100)	.	.
	.	F0911	総額(1,100)	.	.
	DM - 4320		入荷請求仮	1,000	
総勘定元帳への 転記(R09801)	FIN - PTxxxx	F0911	VAT還付可能税	100	.
総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PC		買掛金勘定		1,100

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

### 非在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

非在庫品目の購買では、2方向または3方向伝票照合を使用できます。3方向伝票照合を使用し、購買オーダー入荷を入力すると、入荷請求仮税勘定に税が記録され、伝票の作成時に相殺されます。伝票を転記すると、税がVAT還付可能税勘定に記録されます。納税先に支払うのではなく、売り手(仕入先)に商品と税の金額を支払い、後で納税先から税額の還付を受けます。

例: 非在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
入荷確認(購 買オーダー別) (P4312)	.	F0911	購買オーダー行 の費用勘定	1,000	.
仕訳の作成	.		入荷請求仮		1,000
	DM - 4320		入荷請求仮税		100
	DM - 4355				
伝票照合 (P4314)	.	F0411	課税対象(1,000)	.	.
伝票の作成	.	.	税(100)	.	.
	.	F0911	総額(1,100)	.	.
	DM - 4320		入荷請求仮	1,000	
総勘定元帳への 転記(R09801)	FIN - PTxxxx	F0911	VAT還付可能税	100	.
総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PC		買掛金勘定		1,100

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

## 非在庫品目の購買 - 2方向伝票照合

2方向伝票照合を使用すると、購買オーダー入荷を入力しないため、入荷請求仮勘定は使用されません。この場合、購買オーダーを入力し、伝票を作成します。伝票の作成時には、VAT税は伝票の総額に含まれますが、費用勘定には含まれません。伝票を転記すると、税がVAT還付可能税勘定に記録されます。納税先に支払うのではなく、売り手(仕入先)に商品と税の金額を支払い、後で納税先から税額の還付を受けます。

例: 非在庫品目の購買 - 2方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
伝票照合 (P4314)		F0411	課税対象(1,000)		
伝票の作成		F0911	税(100)		
			総額(1,100)		
			購買オーダー行 の費用勘定	1,000	
総勘定元帳への 転記(R09801)	FIN - PTxxxx	F0911	VAT還付可能税	100	
総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PC		買掛金勘定		1,100

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

## VAT税(V) - 受注オーダーから請求書へ

VAT税(税目コードV)を含む受注オーダーを入力して顧客売上の更新(R42800)を実行すると、流通AAIを使用して売上原価(COG)および在庫の勘定への記録が行われます。VAT額は売上更新レポートに表示されますが、請求書を転記するまで未払VAT勘定には記録されません。納税先への支払時に、未払VAT勘定を相殺します。

次の例では、指定のプログラムの実行時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。この例では、金額が1,000 USD、VAT税率が10%の受注オーダーを想定しています。

例: 受注オーダーから請求書へ

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
顧客売上の更新 (R42800) 請求書の作成	DM - 4230 DM - 4220 DM - 4240	F03B11 F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,100) 売上高 売上原価 在庫	. . . . 900	. . . 1,000 . 900
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 請求書の転記	FIN - RTxxxx FIN - RC	F0911	未払VAT 売掛金勘定	. 1,100	100

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

## VAT税(V) - 伝票および請求書入力

VAT税を含む伝票または請求書を入力すると、取引の転記時に税額が計算され、総勘定元帳に対する個別の入力が作成されます。買掛管理では、還付金の受取り時にVAT還付可能税勘定を相殺します。売掛管理では、税の支払時に未払VAT勘定を相殺します。

次の例では、伝票または請求書の入力および転記時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。この例では、課税対象額が1,000 USD、VAT税率が10%と想定しています。

例: 伝票入力

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
標準伝票入力 (P0411) 伝票の作成		F0411 F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,100) 費用	. . . 1,000	. . . .
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PTxxxx FIN - PC	F0911	VAT還付可能税 買掛金勘定	100	. 1,100

例: 請求書入力

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
標準請求書入力 (P03B11) 請求書の作成		F03B11  F0911	課税対象(1,000)  税(100)  総額(1,100)  収益		     1,000
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 請求書の転記	FIN - RTxxxx  FIN - RC	F0911	未払VAT  売掛金勘定	  1,100	100

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

## VAT + 売上税(C) - 購買オーダーから伝票へ

VAT + 売上税を表す税目コードCを使用して購買オーダーを入力すると、取引の転記時に税額が計算され、税のVAT部分について総勘定元帳へ個別の入力が行われます。

次の各例では、指定のプログラムの実行時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。すべての例では、金額が1,000 USD、VAT税率が7%、売上税率が3%の購買オーダーを想定しています。システムの事前設定により、仕訳は明細形式で作成されます。

**注意:** 税込金額への課税の計算を使用するには、税率/税域で「複合税」フィールドを有効にします。この場合、次の計算式を使用して税額が計算されます。

(課税対象 + VAT) × 売上税率 = 税

$(1,000 + 70) \times 0.03 = 32.10$

### 在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

購買オーダー入荷を入力すると、購入税累計勘定と入荷請求仮税勘定の2つの総勘定元帳勘定科目に売上税が記録されます。伝票の作成時に、入荷請求仮税勘定が相殺されます。購入税累計勘定は、品目の売上税部分のトラッキングに使用します。売上税は売り手(仕入先)が支払うため、納税先へは売上税を支払いません。伝票の総額には売上税とVAT税の両方が含まれ、総勘定元帳の配賦金額には商品金額 + 売上税のみが含まれます。伝票を転記すると、VATがVAT還付可能税勘定に記録されます。納税先に支払うのではなく、売り手(仕入先)に商品とVATの金額を支払い、後で納税先からVAT税額の還付を受けます。

例: 在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
入荷確認(購買オーダー別) (P4312) 仕訳の作成	DM - 4310 DM - 4350 DM - 4320 DM - 4355	F0911	在庫資産 購入税累計(資産) 入荷請求仮 入荷請求仮税	1,000 . . 30	. 1,000 . . 30
伝票照合 (P4314) 伝票の作成	. . . DM - 4320 DM - 4350 DM - 4355 DM - 4350	F0411 . F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,100) 入荷請求仮 購入税累計(資産) 入荷請求仮税 購入税累計(資産)	. . . . 1,000 . 30 30	. . . . . . 30 .
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PTxxxx FIN - PC	F0911	VAT還付可能税 買掛金勘定	70	. 1,100

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

### 非在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

非在庫品目の購買では、2方向または3方向伝票照合を使用できます。3方向伝票照合を使用し、購買オーダー入荷を入力すると、入荷請求仮税勘定に売上税が記録され、伝票の作成時に相殺されます。伝票の作成時には、売上税とVAT税の両方が総額に含まれますが、費用勘定には売上税のみが含まれます。伝票を転記すると、VATがVAT還付可能税勘定に記録されます。納税先に支払うのではなく、仕入先に商品とVATの金額を支払い、後で納税先からVAT税額の還付を受けます。

例: 非在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
入荷確認(購買オーダー別) (P4312) 仕訳の作成	. . DM - 4320 DM - 4355	F0911	購買オーダー行 の費用勘定 入荷請求仮 入荷請求仮税	1,030	. . 1,000 30

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
伝票照合 (P4314) 伝票の作成	. . . DM - 4320 . . DM - 4355	F0411 . . F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,100) 入荷請求仮 費用勘定 入荷請求仮税 費用勘定	. . . 1,000 . . 30 30	. . . . . . . 30
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PTxxxx FIN - PC	F0911	VAT還付可能税 買掛金勘定	70	. 1,100

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

### 非在庫品目の購買 - 2方向伝票照合

2方向伝票照合を使用すると、購買オーダー入荷を入力しないため、入荷請求仮勘定は使用されません。この場合、購買オーダーを入力し、伝票を作成します。伝票の作成時には、売上税とVAT税の両方が伝票の総額に含まれますが、費用勘定には売上税のみが含まれます。伝票を転記すると、VATがVAT還付可能税勘定に記録されます。納税先に支払うのではなく、仕入先に商品とVATの金額を支払い、後で納税先からVAT税額の還付を受けます。

例: 非在庫品目の購買 - 2方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
伝票照合 (P4314) 伝票の作成	. . . DM - 4315* DM - 4315*	F0411 . . F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,100) 費用勘定 費用勘定	. . . 1,000 30	. . . . .
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PTxxxx FIN - PC	F0911	VAT還付可能税 買掛金勘定	70	. 1,100

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

## VAT + 売上税(C) - 受注オーダーから請求書へ

VAT + 売上税を表す税目コードCを使用して受注オーダーを入力してから顧客売上の更新(R42800)を実行すると、流通AAIを使用して売上高、未払税、売上原価(COG)および在庫の勘定への記録が行われます。VAT額は売上更新レポートに表示されますが、請求書を転記するまで未払VAT勘定には記録されません。納税先への支払時に、未払VAT勘定を相殺します。

次の例では、指定のプログラムの実行時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。この例では、金額が1,000 USD、VATが7%、売上税率が3%の受注オーダーを想定しています。

例: 受注オーダーから請求書へ

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
顧客売上の更新 (R42800)		F03B11	課税対象(1,000)	.	.
請求書の作成		F0911	税(100)	.	.
			総額(1,100)	.	.
			売上高	.	1,000
	DM - 4230		未払税	.	30
	DM - 4250		売上原価	900	.
	DM - 4220		在庫		900
	DM - 4240				
総勘定元帳への 転記(R09801)	FIN - RTxxxx	F0911	未払VAT	.	70
総勘定元帳への 請求書の転記	FIN - RC		売掛金勘定	1,100	

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

**注意:** 税込金額への課税の計算を使用するには、税率/税域で「複合税」フィールドを有効にします。この場合、売上税率にVAT税率が掛けられ、この税額が売上税に加算されます。この例では、税込金額への課税を使用するように税率/税域が設定されている場合、売上税は  $30 + [(0.03 \times 0.07) \times 100]$  で30.21になります。

## VAT + 売上税(C) - 伝票および請求書入力

VAT + 売上税を表す税目コードCを使用して伝票または請求書を入力すると、売上税額が計算されますが、総勘定元帳への個別の入力は作成されません。伝票の場合、売上税は経費の一部となるため、税を特定の勘定に入力する必要はありません。ただし、請求書の場合は、売上税を支払う必要があるため、売上税を別の勘定でトラッキングする必要が生じる場合があります。この場合、売上税額を収益から差し引き、別々に入力する必要があります。取引を転記すると、VAT額が記録されます。買掛管理では、還付金の受取り時にVAT還付可能税勘定を相殺します。売掛管理では、税の支払時に未払VAT勘定を相殺します。

次の例では、伝票または請求書の入力および転記時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。この例では、課税対象額が1,000 USD、VAT税率が7%、売上税率が3%と想定しています。

例: 伝票入力

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
標準伝票入力 (P0411) 伝票の作成		F0411 F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,100) 費用	1,030	
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 伝票の転記	FIN-PTxxxx FIN-PC	F0911	VAT還付可能税 買掛金勘定	70	1,100

例: 請求書入力

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
標準請求書入力 (P03B11) 請求書の作成		F03B11 F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,100) 収益 売上税		1,000 30
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 請求書の転記	FIN-RTxxxx FIN-RC	F0911	未払VAT 売掛金勘定	1,100	70

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

**注意:** 税込金額への課税の計算を使用するには、税率/税域で「複合税」フィールドを有効にします。この場合、次の計算式を使用して税額が計算されます。

(課税対象 + VAT) × 売上税率 = 税

$(1,000 + 70) \times 0.03 = 32.10$

## VAT + 使用税(B) - 購買オーダーから伝票へ

VAT + 使用税を表す税目コードBを使用して購買オーダーを入力すると、取引の転記時に税額が計算され、総勘定元帳へ使用税部分とVAT税部分のそれぞれについての2つの入力が行われます。

次の各例では、指定のプログラムの実行時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。すべての例では、金額が1,000 USD、VAT税率が7%、使用税率が3%の購買オーダーを想定しています。システムの事前設定により、仕訳は明細形式で作成されます。

**注意:** 税込金額への課税の計算を使用するには、税率/税域で「複合税」フィールドを有効にします。この場合、次の計算式を使用して税額が計算されます。

$$(\text{課税対象} + \text{VAT}) \times \text{使用税率} = \text{税}$$

$$(1,000 + 70) \times 0.03 = 32.10$$

### 在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

在庫品目の購買では、3方向伝票照合を使用する必要があります。購買オーダー入荷を入力すると、購入税累計勘定と入荷請求仮税勘定の2つの総勘定元帳勘定科目に税が記録されます。伝票の作成時に、入荷請求仮税勘定が相殺され、トラッキングを目的としてのみ、税が購入税累計資産勘定に記録されます。伝票を転記すると、税がVAT還付可能税勘定と未払使用税勘定に記録されます。納税先への支払時に、未払使用税勘定を相殺する伝票を入力します。

例: 在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
入荷確認(購買オーダー別) (P4312)  仕訳の作成	DM - 4310	F0911	在庫資産	1,000	.
	DM - 4350		購入税累計(資産)	30	.
	DM - 4320		入荷請求仮		1,000
	DM - 4355		入荷請求仮税		30
伝票照合 (P4314)  伝票の作成	.	F0411	課税対象(1,000)	.	.
	.	.	税(100)	.	.
	.	F0911	総額(1,070)	.	.
	DM - 4320		入荷請求仮	1,000	.
	DM - 4355		入荷請求仮税	30	.
	DM - 4350		購入税累計(資産)	30	.
	DM - 4350		購入税累計(資産)		30
総勘定元帳への 転記(R09801)  総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PTxxxx	F0911	VAT還付可能税	70	.
	FIN - PT		未払使用税		30
	FIN - PC		買掛金勘定		1,070

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

### 非在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

非在庫品目の購買では、2方向または3方向伝票照合を使用できます。3方向伝票照合を使用し、購買オーダー入荷を入力すると、入荷請求仮税勘定に税が記録され、伝票の作成時に相殺されます。伝票の総額にはVAT税のみが含まれますが(使用税は除外)、費用勘定には使用税のみが含まれます。この税は、納税先への税の支払時に相殺される別の勘定に記録されます。

例: 非在庫品目の購買 - 3方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
入荷確認(購買オーダー別) (P4312) 仕訳の作成	DM - 4320 DM - 4355	F0911	購買オーダー行の費用勘定 入荷請求仮 入荷請求仮税	1,030	1,000 30
伝票照合 (P4314) 伝票の作成	DM - 4320 DM - 4355 DM - 4350 DM - 4350	F0411 F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,070) 入荷請求仮 入荷請求仮税 購入税累計(資産) 購入税累計(資産)	1,000 30 30	30
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 伝票の転記	FIN - PTxxxx FIN - PT FIN - PC	F0911	VAT還付可能税 未払使用税 買掛金勘定	70	30 1,070

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

### 非在庫品目の購買 - 2方向伝票照合

2方向伝票照合を使用すると、購買オーダー入荷を入力しないため、入荷請求仮勘定は使用されません。この場合、購買オーダーを入力し、伝票を作成します。伝票の総額にはVAT税のみが含まれますが(使用税は除外)、費用勘定には使用税のみが含まれます。この税は、納税先への税の支払時に相殺される別の勘定に記録されます。

例: 非在庫品目の購買 - 2方向伝票照合

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
伝票照合 (P4314) 伝票の作成		F0411  F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,070) 購買オーダー行 の費用勘定	1,030	
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 伝票の転記	FIN-PTxxx FIN-PT FIN-PC	F0911	VAT還付可能税 未払使用税 買掛金勘定	70	30 1,070

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

## VAT + 使用税(B) - 伝票入力

VAT + 使用税を表す税目コードBを使用して伝票を入力すると、使用税額が計算され、費用勘定に含まれます。伝票を転記すると、次に対する入力を作成されます。

- 未払使用税勘定: 納税先への支払時に相殺します。
- VAT還付可能税勘定: 還付金の受取り時に相殺します。

次の例では、伝票の入力および転記時に使用されるAAIと、更新されるテーブルおよび勘定を示します。この例では、課税対象額が1,000 USD、VAT税率が7%、使用税率が3%と想定しています。

例: 伝票入力

プログラム	AAI*	テーブル	更新される勘定 およびフィールド	F0911 DR	F0911 CR
標準伝票入力 (P0411) 伝票の作成		F0411  F0911	課税対象(1,000) 税(100) 総額(1,070) 費用	1,030	
総勘定元帳への 転記(R09801) 総勘定元帳への 伝票の転記	FIN-PT FIN-PTxxx FIN-PC	F0911	未払使用税 VAT還付可能税 買掛金勘定	70	30 1,070

\* DM - AAI = 流通/製造AAI(F4950)、FIN - AAI = 会計AAI(F0012)

**注意:** 税込金額への課税の計算を使用するには、税率/税域で「複合税」フィールドを有効にします。この場合、次の計算式を使用して税額が計算されます。

(課税対象 + VAT) × 使用税率 = 税

$(1,000 + 70) \times 0.03 = 32.10$

## 免税 (E)

購買オーダーまたは受注オーダーの行品目、あるいは伝票または請求書の支払項目を免税にするには、税目コードEを使用します。税目コードEを使用すると、税目コードと税率/税域の値は保持されますが、課税対象額および税額は伝票または請求書から削除されます。

免税の購買オーダーまたは伝票を入力するには、PTのAAIを設定しておく必要があります。免税の受注オーダーまたは請求書を入力するには、RTのAAIを設定しておく必要があります。

すべての税目コードに関して税 (F0018) テーブルを更新するように総勘定元帳転記レポート・プログラム (R09801) の処理オプションを設定している場合、免税の取引は除外されます。

## この章で使用する共通フィールド

### 会社番号

特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードは F0010 テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。このレベルでは、企業間取引を行うことができません。

**注意:** 日付やAAI(自動仕訳)などのデフォルト値には会社00000を使用できます。取引の入力には会社00000は使用できません。

### 税率/税域

共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、F4008 テーブルに対して検証されます。請求書または伝票を作成すると、税目コードおよび税規則とともに税率/税域を使用して、税額と総勘定元帳の配賦金額が計算されます。

### 有効開始日付

取引、契約、義務、優先情報、ポリシー規則が有効になる日付を入力します。

### 有効期限

取引、契約、制約、優先情報、ポリシー規則が終了する日付を入力します。

### 品目 No.

品目に割り当てられる番号を入力します。略式、詳細形式、第3品目番号形式があります。

税を適用する品目または品目グループの番号です。

品目グループの有効値は3から8です。品目グループに値を指定した場合、品目番号の検証を行うように処理オプションを選択する必要があります。この処理オプションは「編集」タブにあり、0(オフ)に設定します。この処理オプションを正しく設定しないと、品目グループ番号が実際の品目番号として検証されます。

**伝票タイプ**

取引の発生元と目的を示すユーザー定義コード(00/DT)を入力します。伝票、請求書、入荷確認書、タイムシートなどの伝票タイプ用に、いくつかのプレフィックスがあらかじめ予約されています。

**納税先の設定**

納税先とは、税を課税および徴収する行政機関のことです。トラッキングおよびレポート作成のため、組織では税の支払先の各納税先に対して住所録レコードを設定する必要があります。必要に応じて、TAXなど、納税先の住所録レコードに割当可能な新しい検索タイプのユーザー定義コードをUDC(01/ST)に設定すれば、他の住所録レコードと区別できます。

**注意:**「税処理およびレポート」メニュー(G0021)の「納税先」オプションで住所録プログラム(P01012)のセルフサービス処理オプションを有効にしていないことを確認してください。有効にしている場合、新しい納税先(住所録レコード)は追加できません。

**税UDCの設定**

JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアには、ユーザー定義コードのみ入力可能なフィールドが多くあります。ビジネス環境に応じて設定したユーザー定義コードを使用して、システムをカスタマイズできます。

**注意:** JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアによる税処理の対象となる国の多くでは、国固有のUDCの入力が必要です。

**税ID検証(70/TI)**

JD Edwards EnterpriseOne住所録システムで設定した税ID番号をその使用国に応じて検証するには、国コードをUDC 70/TIに設定する必要があります。

次の表に、UDC 70/TIに設定されている国コードの例を示します。

コード	記述01	記述02	特殊取扱
.	デフォルトの国	US	1
AU	オーストリア共和国	AU	1
AUS	オーストリア共和国	AU	1
BE	ベルギー王国	BE	1
BEL	ベルギー王国	BE	1
DE	ドイツ連邦共和国	DE	1
DEU	ドイツ連邦共和国	DE	1

特定の国コードに対して税ID検証を有効にするには、その国コードの「特殊取扱」フィールドに「1」を入力します。特定の国コードに対して税ID検証を無効にするには、「特殊取扱」フィールドの「1」を削除します。

UDCテーブル(70/TI)にリストされていない国コードに対して税ID検証を有効にする、または既存の国コードの意味を変更するには、フィールドに次のとおり入力します。

1. 「コード」フィールドに国コードを入力します。

国コードは、国コード(00/CN)UDCテーブルにも設定されている必要があります。

2. 「記述02」フィールドにその国の標準の2桁のISOコードを入力します。

新しい国コードとシステムでハードコード化されている国コードを相互参照するには、「記述02」フィールドに2桁のISOコードが必要です。

たとえば、デンマークにDEを使用する場合、国コードDEに対して「記述02」フィールドに「DN」(デンマークの2桁のISOコード)と入力します。この後、国コードDEで入力された税IDは、ドイツではなくデンマークが指定されて検証されます。

3. 「特殊取扱」フィールドに「1」を入力します。

デフォルト(空白)の国コードに対して税ID検証を有効にするには、前述のとおりフィールドに入力しますが、「コード」フィールドは空白にします。

たとえば、空白の国コードをデンマークに使用する場合、空白の国コードに対して「記述02」フィールドに「DN」(デンマークの2桁のISOコード)と入力します。

---

## 会社別税規則の設定

この項では、税規則の概要と、会社別税規則の設定方法について説明します。

### 会社別税規則について

税込みの取引を入力する際は、税規則を設定し、適用可能な税が計算されるようにします。会社別およびシステム別に異なる税規則を定義するには、税規則(P0022)プログラムを使用します。これらの規則を使用して、次の処理が行われます。

- VAT税目コード(V、CおよびB)の使用時の税額に対する変更の許容限度を設定します。
- 自動計算された税と異なる税額が入力されるたびに、警告メッセージを表示します(または取引を却下します)。
- 取引金額の計算の対象を総額にするか、総額から割引額を差し引いたものにするかを決定します。
- 割引額の計算の対象を総額(税込み)にするか、正味額(税別)にするかを決定します。
- 受注オーダーの税の計算をオーダー・レベルで行うか、明細レベルで行うかを決定します。
- 自動計算された金額未満の税額を許可します。

---

**注意:** 特定の会社に対して規則を設定しない場合は、会社00000に対して定義した規則が使用されません。会社00000に対して規則を設定しない場合は、次のデフォルトの規則のみが使用されます。

許容限度をゼロに設定する。

割引を含む総額に対して税額を計算する。

---

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの税規則を設定する場合は、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムの規則も設定します。JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムの税規則を設定する場合は、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムの規則も設定します。

システムに設定する税規則は、許容範囲と計算規則で構成されます。すべての税規則が全システムに適用されるわけではありません。

## 許容規則

許容規則により、取引に対して手動で入力する税額と、自動で計算される税額との間で許容される差異金額が指定されます。自動計算の税額とは異なる税額を入力すると、VATを除くすべての税タイプで自動的に警告メッセージが表示されます。

VAT税の場合は、設定した許容規則により、警告またはエラー・メッセージが表示される状況が決定されます。手動で入力した税額と自動で計算された税額の差が警告用に設定した許容限度を超えるまで、警告メッセージは表示されません。許容情報を設定すると、表示されるメッセージのタイプを制御できます。

許容規則の機能は次のとおりです。

- 自動計算された金額未満および金額超過の税額の両方に適用されます。
- VAT税のみに適用され、パーセントまたは金額で定義できます。

売掛管理では、自動計算された金額を下回る税額を許可するオプションも有効にしないかぎり、定義した許容規則はVAT税に適用されません。

たとえば、税規則の許容範囲を金額で次のように指定するとします。

- 警告の許容限度額は2
- エラーの許容限度額は10

課税対象額に税率が掛けられて税額が決定されます。取引の課税対象額が1000で税率が10%の場合、税額は100と計算されます。許容範囲に基づき、警告またはエラーの範囲は次のように決定されます。

許容範囲	計算
警告の範囲	<p>警告の許容限度額は2(次を参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>100 + 2 = 102</math></li> <li>• <math>100 - 2 = 98</math></li> </ul> <p>入力した税額が102より大きい、または98より小さい場合(つまり、98から102の許容範囲外の場合)、警告メッセージが表示されます。</p> <p><b>注意:</b> 98.01または101.99の税額を入力すると、警告メッセージは表示されません。この金額は、許容範囲内です。</p>
エラーの範囲	<p>エラーの許容限度額は10(次を参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>100 + 10 = 110</math></li> <li>• <math>100 - 10 = 90</math></li> </ul> <p>入力した税額が110より大きい、または90より小さい場合(つまり、90から110の許容範囲外の場合)、エラーメッセージが表示されます。</p> <p><b>注意:</b> 109.99または90.01の税額を入力すると、エラーメッセージは表示されません。</p>

### 割引額および税額に対する計算規則

割引と課税の対象となる取引を入力する場合、割引額および税額の計算方法を指定する必要があります。割引額と税額の両方を算出するように指定されている場合、金額の計算に使用される方法が計算規則によって指定されます。この規則により、取引の合計金額に基づいて、正しい税額の検証方法が制御されます。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムを選択すると、計算規則は表示されません。

### 例: 税の計算規則

設定した税規則を使用して、総額および割引額が計算されます。次の各例では、規則を様々な組み合わせで次の値を計算します。

- 割引額を含む、または除く総額に対する税
- 税額を含む、または除く総額に対する割引

例で使用する金額は次のとおりです。

- 課税対象額: 1,000
- 総額: 可変
- 税率: 10%
- 税額: 100
- 割引: 1%

## 例1

次の表に、「割引を含む総額に対する税額計算」および「税込み総額に対する割引」オプションを選択している場合の割引額、総額および課税対象額の計算方法を示します。

計算式	計算
割引額計算式	(課税対象額 + 税額) × 割引率 = 割引可能額 $(1,000 + 100) \times 0.01 = 11.00$
総額計算式	課税対象額 + 税額 = 総額 $1,000 + 100 = 1,100$
課税対象額計算式	総額 / (1 + 税率) = 課税対象額 $1,100 / 1.1 = 1,000$

## 例2

次の表に、「割引を含む総額に対する税額計算」オプションおよび税別総額に対する割引のオプションを選択している場合の割引額、総額および課税対象額の計算方法を示します。

計算式	計算
割引額計算式	課税対象額 × 割引率 = 割引可能額 $1,000 \times 0.01 = 10.00$
総額計算式	課税対象額 + 税額 = 総額 $1,000 + 100 = 1,100$
課税対象額計算式	総額 / (1 + 税率) = 課税対象額 $1,100 / 1.1 = 1,000$

## 例3

次の表に、「割引を含めない総額に対する税額計算」および「税込み総額に対する割引」オプションを選択している場合の割引額、総額および課税対象額の計算方法を示します。

計算式	計算
割引額計算式	(税額 / [(1 - 割引率) × 税率] + 税額) × 割引率 = 割引可能額 $(100 / [(1 - 0.01) \times 0.1] + 100) \times 0.01 = 11.10$

計算式	計算
総額計算式	課税対象額 + 税額 + 割引額 = 総額 1,000 + 100 + 11.10 = 1,111.10
課税対象額計算式	総額 - 税額 - 割引額 = 課税対象額 1,111.10 - 100 - 11.10 = 1,000

**例4**

次の表に、「割引を含めない総額に対する税額計算」オプションおよび税別総額に対する割引のオプションを選択している場合の割引額、総額および課税対象額の計算方法を示します。

計算式	計算
割引額計算式	(課税対象額 × 割引率) / (1 - 割引率) = 割引可能額 (1,000 × 0.01) / (1 - 0.01) = 10.10
総額計算式	課税対象額 + 税額 + 割引額 = 総額 1,000 + 100 + 10.10 = 1,110.10
課税対象額計算式	総額 - 税額 - 割引額 = 課税対象額 1,110.10 - 100 - 10.10 = 1,000

**(GBR) 例5**

イギリスでは、計算規則のオプションを次のように設定する必要があります。

- 割引を含む総額に対する税額計算 - 選択解除
- 税込み総額に対する割引 - 選択解除

割引額および総額は次のように計算されます。

計算式	計算
割引額計算式	(課税対象額 × 割引率) / ((1 - 割引率) × 税率) (1,000 × 0.01) / ((1 - 0.01) × 0.10) = 10.10
総額計算式	課税対象額 + 税 + 割引 1,000 + 100 + 10.10 = 1,110.10

**(DEU) 例6**

ドイツでは、計算規則のオプションを次のように設定する必要があります。

- 割引を含む総額に対する税額計算 - 選択
- 税込み総額に対する割引 - 選択

割引額および総額は次のように計算されます。

計算式	計算
割引額計算式	(課税対象額 + 税額) × (割引率) = 割引可能額 (1,000 + 100) × 0.01 = 11.00
総額計算式	課税対象額 + 税 = 1,000 + 100 = 1,100

### 編集規則

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムを選択した場合にのみ、税額を自動計算された金額未満にすることが可能です。

編集規則により、VATの許容規則がJD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムのみで有効になります。自動計算された金額未満の税額を許可しない場合、設定した許容規則は売上税のみに適用されます。

## 税規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
税規則の処理	W0022A	「税処理およびレポート」(G0021)、「税規則」	会社別税規則を検討および選択します。
税規則の改訂	W0022B	「税規則の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	会社別税規則を追加および改訂します。

## 税規則の設定

「税規則の改訂」フォームにアクセスします。

### 会社番号

税規則を定義する会社を入力します。特定の会社に対して規則を定義しない場合は、会社00000に対して定義した規則が使用されます。

### 許容限度 - 警告

請求書、伝票または仕訳の税額に対し、警告メッセージが表示されるまでに可能な変更の最大率を指定する値を入力します。たとえば、「5.00」と指定すると、取引の税額を最大5%まで変更しても、警告メッセージは表示されません。変更率が「警告」フィールドに指定した率と「エラー」フィールドに指定した率の間にある場合、税額の変更に対して警告メッセージが表示されます。

許容限度は、税目コードV、BおよびCにのみ使用されます。他のすべての税目コードでは、変更内容にかかわらず警告が表示されます。

AR請求書の税額を自動計算された税額より指定の率まで少なくできるようにするには、「自動計算された金額未満の税額の許可」オプションを選択する必要があります。

比率は整数で入力してください。たとえば、5%に設定するには、「.05」ではなく「5.00」と入力します。

(COL)コロンビアの会社には「1」を入力します。

### 許容限度 - エラー

請求書、伝票または仕訳の税額に対し、エラー・メッセージが表示されるまでに可能な変更の最大率を指定する値を入力します。たとえば、「10.00」と指定すると、取引の税額を最大10%まで変更できます。変更率が指定した許容限度を超えると、変更は不可能になります。変更率が「警告」フィールド

ドに指定した率と「エラー」フィールドに指定した率の間にある場合、税額の変更に対して警告メッセージが表示されます。

許容限度は、税目コードV、BおよびCにのみ使用されます。他のすべての税目コードでは、変更内容にかかわらず警告が表示されます。

AR請求書の税額を自動計算された税額より指定の率まで少なくできるようにするには、「自動計算された金額未満の税額の許可」オプションを選択する必要があります。

比率は整数で入力してください。たとえば、10%に設定するには、「.1」ではなく「10.00」と入力します。

(COL)コロンビアの会社には「0」を入力します。

## 金額

警告またはエラー・メッセージの生成に使用する許容限度がパーセントか金額のどちらに基づくかを指定します。

## %

警告またはエラー・メッセージの生成に使用する許容限度がパーセントか金額のどちらに基づくかを指定します。

## 割引を含む総額に対する税額計算、割引を含めない総額に対する税額計算

割引を含む総額に対して税額を計算するよう指定するには、このオプションを選択します。

(COL)「割引を含む総額に対する税額計算」オプションを選択します。

## 税込み総額に対する割引

税額を含む総額に対して割引を計算するかどうかを指定するには、このオプションを選択します。

## 受注オーダー・レベルでの税額計算

受注オーダーの税計算と丸め処理を明細レベルとオーダー・レベルのどちらで行うかを指定するには、このオプションを選択します。

税は明細レベルで計算されます。明細行の各品目の税が計算された後、オーダーの明細行品目が合計されます。

このフィールドはARのオプションを選択した場合にのみ表示されます。

## 自動計算された金額未満の税額の許可

AR請求書の税額を一時変更し、自動計算された税額より少なくできるかどうかを指定するには、このオプションを選択します。このフィールドはARのオプションを選択した場合にのみ表示されます。このオプションは税目コードVおよびBにのみ適用され、自動計算された金額未満の税額は定義されている許容限度内である必要があります。

税額を自動計算された金額未満にすることは許可されません。この場合、エラーが表示されます。

**注意:** 税目コードSでは、このオプションの設定にかかわらず、定義されている許容限度内であれば、税額を自動計算された税額未満にすることが可能です。

## 税のAAIの設定

この項では、会計AAIや流通AAIなどの税AAIの設定の概要について説明します。

### 税のAAIについて

税を徴収する、または支払う必要がある場合、税額が適切な総勘定元帳勘定科目に適用されるようにシステムを設定する必要があります。税額は、AAI(自動仕訳)で指定した勘定科目に自動的に適用されます。

VATなどの特定タイプの税に対してAAIを設定する際、税額の仕訳で使用する勘定科目を指定します。税を複数の通貨で支払う場合は、税AAIを会社ごとに設定する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOneの会計システム(買掛管理、売掛管理および一般会計)では、JD Edwards EnterpriseOneの流通管理システム(JD Edwards EnterpriseOne受注管理およびJD Edwards EnterpriseOne調達管理)とは異なるAAIを使用します。

## 税の会計AAIについて

税は請求書、伝票、仕訳、購買オーダーおよび受注オーダーに入力できます。VATまたは使用税を入力する場合、次の各システムで適切な税科目に仕訳が行われるようにAAIを設定する必要があります。

- JD Edwards EnterpriseOne買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne調達管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理

AAIの設定には、AAI(自動仕訳)(P0012)プログラムを使用します。

アルゼンチン、ブラジル、チリおよびロシアには、税のAAIに関する国固有の設定が用意されています。

### AAIの階層

AAIは会社別、または会社00000に対してのみ設定できます。会社固有のAAIを設定しない場合は、会社00000に対して設定したAAIが使用されます。相手勘定を使用しない場合は、AAI項目(PT、RT、GT)に関連する勘定科目のみが使用されます。

税率/税域に相手勘定が指定されている場合、同じ相手勘定でAAIを設定する必要があります。PTxxxx、RTxxxxまたはGTxxxxがない場合は(xxxxは税率/税域で指定されている相手勘定)、取引を処理しようとするとエラー・メッセージが表示されます。

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムとJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムの税AAIを設定する際は、ビジネスユニットおよび主科目を指定する必要があります。補助科目フィールドは任意です。JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムでは、税AAIのビジネスユニットを指定しないと、仕訳に入力されている勘定科目のビジネスユニットが使用されます。

次の表に、税額の転記先の勘定科目を決定する際に使用される階層を示します。

階層	会社	JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理	JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計
1	会社固有	PT + 相手勘定	RT + 相手勘定	GT + 相手勘定
2	会社00000	PT + 相手勘定	RT + 相手勘定	GT + 相手勘定

## JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システム、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムのVAT税AAI(PTxxxx、RTxxxx、GTxxxx)

VAT税を含む取引を転記すると、AAIを使用して、税額の転記に使用する総勘定元帳勘定科目が検索されません。各納税先には別々の勘定科目が必要な場合があるため、税率/税域に設定した各納税先に相手勘定の値を指定してから、その値を含む対応するAAIを設定できます。相手勘定の長さは最大4文字で、AAI項目の後に付加されます。たとえば、PTVATA、RTVATB、GTTXTXなどです。「相手勘定」フィールドに値を指定すると、VAT税額を各会社で相手勘定別(または納税先別)に異なる勘定科目に振り分けることができ、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでVAT税科目と使用税科目が区別されます。

**注意:** GTxxxx AAIは、VAT取引を含む仕訳の転記時ではなく入力時に使用されます。

## JD Edwards EnterpriseOne調達管理のVAT税AAI(PTVATD)

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムと同じAAI項目(PT)を使用しますが、留保金を含む購買オーダーがあり、VATを繰り延べる場合は除きます。この場合は、伝票照合プログラム(P4314)を使用して伝票を入荷と照合する際、AAI項目PTVATDを使用して繰延VATの勘定科目が検索されます。このAAIは、次の場合にのみ使用されます。

- 伝票照合プログラム(P4314)の処理オプション(「留保金」タブ)が、留保金額に税を適用するように設定されている場合
- 税タイプCまたはVを使用している場合

留保金をリリースすると、このAAIにより、未払VAT(PCVATP)AAIを使用して借方と貸方が逆仕訳されます。

このAAIを設定しないと、エラーが表示されます。

## 使用税AAI(PT) – JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne調達管理システム

使用税(税目コードUおよびB)では、税科目の指定に相手勘定は使用せず、常にPT(ブランク)が使用されます。AAIは会社別、または会社00000に対してのみ設定できます。会社固有のAAIを設定しない場合は、会社00000に対して設定したAAIが使用されます。

VAT税とは異なり、使用税科目は税率/税域別に指定できます。複数のAAIを使用して異なる税科目を指定するのではなく、勘定科目の補助科目部分を税率/税域として定義することで、それぞれの税率/税域に異なる税科目を設定します。たとえば、税科目が1.4433で税率/税域がONT(オンタリオ)の場合、F0901テーブルに「1.4433.ONT」と設定します。これにより、各税率/税域に固有の勘定科目コードが設定されます。

PTのAAIを設定する場合、補助科目は指定せず、ビジネスユニットと主科目のみを指定します。補助科目が存在する場合、その補助科目は無視されます。伝票を転記すると、AAIで指定されている勘定科目コードが、伝票で指定されている税率/税域と組み合わせて検索されます。その勘定科目コードが存在する場合、そのコードが使用されます。税率/税域を含む勘定科目コードが存在しない場合、勘定科目コードが単独で使用されます。たとえば、1.4433のPTを設定し、税率/税域として「DEN」を伝票に入力すると、1.4433.DENが検索されます。この勘定科目コードが見つからない場合、1.4433が使用されます。

## 税の流通AAIについて

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムとJD Edwards EnterpriseOne調達管理システム内の取引では、流通AAIと会計AAIの両方を使用します。流通AAIは複数のテーブルに設定されており、それぞれが特定のタイプの取引に適用されます。税込みのすべての取引で流通AAIを使用するわけではありません。流通管理システムのAAIの設定には、流通AAI(P40950)プログラムを使用します。

次の表に、指定の税目コードに対して税込みの購買オーダーおよび受注オーダーを入力する際に設定する必要がある流通AAIテーブルを示します。他の税目コードをオーダーに入力すると、会計AAI(RT、PT、GT)に戻されます。

システム	AAIテーブル	記述	税目コード	取引タイプ
JD Edwards EnterpriseOne 受注管理	4250	未払税	S	.
JD Edwards EnterpriseOne 調達管理	4350	購入税累計	S	3方向照合(在庫)
JD Edwards EnterpriseOne 調達管理	4350	購入税累計	U	3方向照合(在庫)
JD Edwards EnterpriseOne 調達管理	4355	入荷請求仮税	S	3方向照合(在庫) 3方向照合(非在庫)
JD Edwards EnterpriseOne 調達管理	4355	入荷請求仮税	U	3方向照合(在庫) 3方向照合(非在庫)

**注意:** 流通AAIは税目コードBおよびCにも使用され、税額の売上税および使用税部分を表します。

各AAIテーブルでは、入力する会社、伝票タイプおよび元帳カテゴリ・コード(相手勘定)に基づき、別々の総勘定元帳勘定科目を設定できます。税率/税域の「相手勘定」フィールドに設定したものと同じ値をAAIの「元帳クラス」フィールド(データ項目GLPT)に入力します。たとえば、相手勘定TXTXを含むCOという税率/税域が設定されており、相手勘定TXYを含む別の税率/税域ONTがある場合、2つの流通AAIを設定します。この例は、流通AAIと税率/税域の関連を示しています。

### 税率/税域の設定

次の表に、税率/税域、相手勘定および税率を示します。

税率/税域	相手勘定	税率
CO	TXTX	7.3
ONT	TXTY	5.0

### 流通AAIの設定

次の表に、AAIテーブル4250の流通AAIの設定を示します。

会社	伝票タイプ	元帳カテゴリ	事業所	主科目	補助科目
00001	SD	TXTX	1	4551	.
00001	SD	TXTY	1	4552	.

会社	伝票タイプ	元帳カテゴリ	事業所	主科目	補助科目
00002	SO	TXTX	1	4553	.
00002	SO	TXTY	1	4554	.

**注意:** AAIテーブル4250には、任意の勘定科目コードを定義できます。このAAIテーブルに基づき、F4096の勘定科目コードが検索されます。このAAIテーブルが任意勘定科目を使用するように定義されていない場合、4095に設定されている勘定科目コードが使用されます。

## 税率/税域の設定

この項では、税率/税域および還付不可VATの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 税率/税域 (P4008) の処理オプションの設定
- 税率/税域の設定

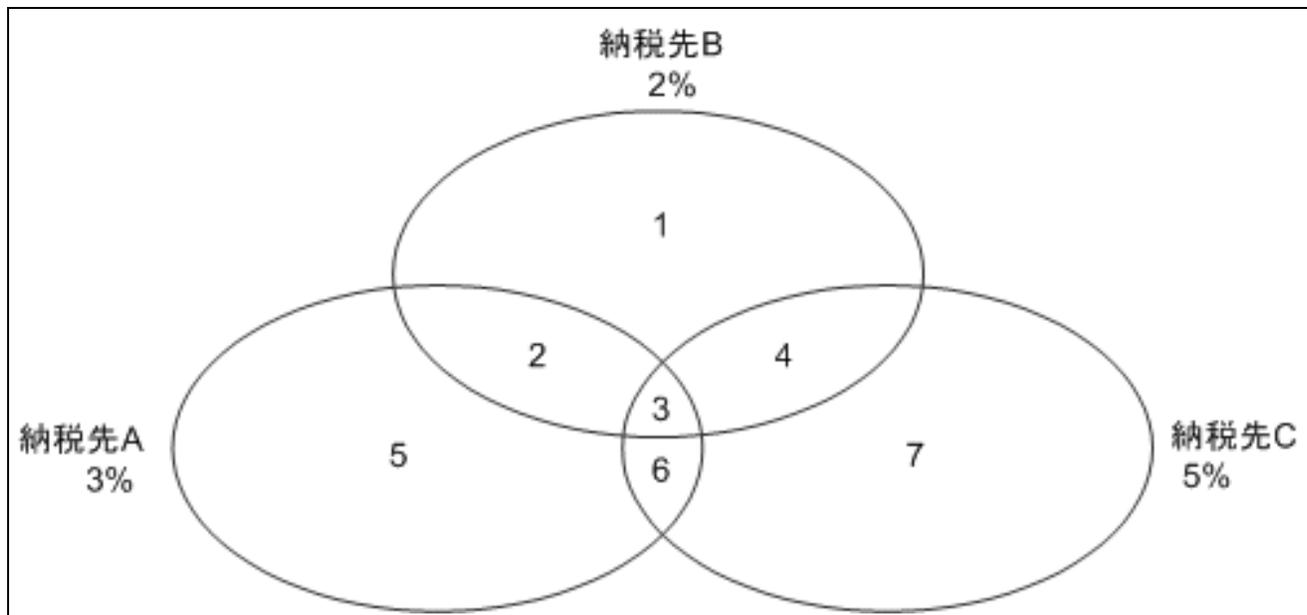
### 税率/税域について

仕入先に対して、または顧客にかわって支払う様々な税を計算およびトラッキングするには、税率/税域を設定する必要があります。各税域は、都道府県や市町村などの物理的な地域です。それぞれの納税先が、各地域に各種の税を課税しています。また、1つの税域内の各納税先で、異なる税率を設定している場合もあります。

税率/税域を設定するには、有効日付を指定する必要があります。税率/税域情報が重複しているかどうかはチェックされないため、同じ税率/税域に対して異なる税率および有効日付範囲を設定できます。システムにより重複する開始日付範囲がチェックされます。重複が見つかったらエラーが表示されます。

税率/税域 (P4008) プログラムには、特別な状況に対する機能もあります。たとえば、税が税込金額への課税として計算されるかどうか、税の一部が還付可能かどうか (貸方に記入できるかどうか)、特定の品目に最高単位原価が関連しているかどうかなどを指定できます。

次の図は、複数の税域の構成方法を示しています。



税率/税域

3つの円は、3つの納税先を表します。番号付きの7つの地域は、税域を表します。

納税先の管轄は重複する場合があります、1つの税域に複数の納税先から課税される場合があることに注意してください。単一の納税先の税率は、税域ごとに異なることはありません。納税先Aは、税域2、3、5および6に3%の税を課税しています。

ただし、税域ごとに税負担の合計が異なる場合があります。これは、単一の税域に対して複数の納税先があり、税域によって税負担の累積が異なるためです。たとえば、税域5にある会社は、1つの納税先（のみ）税を支払う必要があります（納税先Aに3%）。税域2にある会社は2つの納税先に税を支払い（納税先Aに3%、Bに2%）、税域3にある会社は3つの全納税先に税を支払います。

レポートを実行すると、設定されているすべての税域を確認できます。

### 品目の税率/税域

品目または品目グループに対して税情報を指定できます。品目の税情報を指定するには、情報を事業所品目 (F4102) テーブルに対して検証するように処理オプションを設定し、品目番号を税率/税域に入力します。

品目グループの税率を指定するには、事業所品目 (P41026) プログラムの「品目/事業所情報」フォームの「販売時課税対象」フィールドに有効なオプションのいずれかを入力します。オプション3から8は、品目を税率に基づいてグループ化する際に使用します。オプションのいずれかに対して税率を地域別に設定してから、「品目/事業所情報」フォームで類似品のオプションを指定します。

### 税率/税域の改訂

税率/税域の情報は、有効期限以外はすべて改訂できます。税率/税域の有効期限を延長する必要がある場合は、新しい税率/税域レコードを入力する必要があります。

### 還付不可VATについて

VATを支払うほとんどの国では、商品の販売時に、支払済のVAT全額が還付されます。つまり、買掛金で支払われたVATは、売掛金で還付されたVATに対して相殺され、政府に納税する金額が減らされるか、場合によっては税金が払い戻されます。この規則の例外としては、食費や交際費などの経費があり、これらの経費では50%のみ還付可能となる場合があります。

支払ったVATの全額の還付を受けられない場合は、還付不可(つまり貸方に記入不可)の税率を示すように税率/税域を設定する必要があります。この税率/税域を取引で使用すると、還付可能な金額のみがVAT勘定に貸方記入されます。還付不可の金額に対する個別の入力は勘定科目に作成されませんが、その金額は買掛金元帳(F0411)および売掛金元帳(F03B11)テーブルに保存されます。

還付不可VATは、税目コードV、BおよびCを使用した場合にのみ認識されます。

### 例: 還付不可VATの使用方法

還付不可VATのある税率/税域を設定するには、還付不可税の率を別の行に入力します。納税先は必須ですが、レポート作成には使用されません。50などの還付不可の率を指定すると、その率が税率/税域の税合計に適用されます。ただし、その税率/税域を複数の納税先に対して設定している場合、還付不可税は最初に定義された納税先に適用されます。

たとえば、次の税率/税域には、還付不可の率に加えて、2つの納税先が指定されています。

**税率/税域 - 税率/税域の改訂** i ?

税率/税域の処理    **税率/税域の改訂**

OK(O) 取消(L) フォーム(F)    前    次    ツール(D)

---

税率/税域 \*        有効開始日付   

記述        有効期限   

**納税先**

住所No.	納税先	相手勘定	税率	
<input type="text" value="4090"/>	Revenue of Canada	<input type="text"/>	<input type="text" value="7.000"/>	
<input type="text" value="4030"/>	Treasurer of Ontario	<input type="text"/>	<input type="text" value="8.000"/>	<input type="checkbox"/> 複合税
<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/> VAT費用
<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/> VAT費用
<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/> VAT費用
税合計			<input type="text" value="15.000"/>	

**在庫/購買/受注オーダー**

品目No.	<input type="text"/>	最高単位原価	<input type="text"/>
-------	----------------------	--------	----------------------

「税率/税域の改訂」フォーム

伝票または請求書を入力し、この税率/税域(ONT)を使用すると、相手勘定GSTに関連する勘定科目に50%がすべて適用されます。

この例では、税率/税域に関連するAAIは次の勘定科目を示します。

- RTGSTは1.4444
- RTPSTは1.4445

課税対象額が1,000 USDの請求書を入力すると、税額は150 USD(1,000 × 0.15)と計算され、総額は1,150(1,000 + 150)と計算されます。請求書を転記すると、次の入力を作成されます。

伝票タイプ	勘定科目	勘定科目名	借方	貸方	計算
RI	3.5010	売上高	.	1,075	課税対象+(税×50%)
AE	1.1210	売掛金勘定	1,150	.	課税対象+税
AE	1.4444	未払VAT(GST)	5*	.	(1,000×7%)-75=-5
AE	1.4445	未払VAT(PST)	.	80	1,000×8%=80

\*通常、未払VATに対する入力は貸方ですが、-5(貸方)と計算されるため、勘定科目の借方に記入されます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 住所録に納税先を設定します。
- 必要な税AAIを設定します。

## 税率/税域の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
税率/税域の処理	W4008A	「税処理およびレポート」(G0021)、「税率/税域」	税率/税域レコードを検討および選択します。
税率/税域の改訂	W4008B	「税率/税域の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	税率/税域情報を追加および改訂します。

## 税率/税域(P4008)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

1. 品目番号および最高単  
位原価 「品目No.」フィールドと「最高単  
位原価」フィールドの表示または非表示を  
指定します。値は次のとおりです。  
1: 表示する。  
0: 表示しない。

### 編集

1. 品目番号の検証 品目番号を検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
1: 検証する。  
0: 検証しない。

## 税率/税域の設定

「税率/税域の改訂」フォームにアクセスします。

<b>税率/税域</b>	共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、F4008テーブルに対して検証されます。請求書または伝票を作成すると、税目コードおよび税規則とともに税率/税域を使用して、税額と総勘定元帳の配賦金額が計算されます。
<b>有効開始日付、有効期限</b>	取引、契約、制約、優先情報、ポリシー規則が有効になる日付と終了する日付を入力します。
<b>納税先</b>	この税域を管轄する納税先の住所録番号を入力します。この納税先に売上税、使用税またはVATを申告および納税します。たとえば、都道府県、市町村、地区などを入力します。また、1つの税域に最大5つまでの納税先を指定できます。
<b>相手勘定</b>	<p>元帳入力の税科目を検索する方法を示すコードを入力します。このフィールドは、税科目を示すAAIを示します。次に例を示します。</p> <p>買掛管理の場合はPTyyyy (VATのみ)          売掛管理の場合はRTyyyy (VATのみ)          一般会計の場合はGTyyyy (VATのみ)          受注オーダーの場合は4320          購買オーダーの場合は4400および4410</p> <p>VATおよびカナダGSTを設定する場合、使用できる値はPTyyyy、RTyyyy、GTyyyyのみです。買掛管理システムで、税の設定にVATと使用税(税目コードB)が関連する場合は、2つ目の相手勘定(PT_ _ _ )が必要です。設定の使用税部分を指定するには、AAI PT_ _ _ を使用します。</p> <p>2つ目以降の納税先に「相手勘定」を使用するのは、税目コードVのみです。他のすべての税目コードでは、このフィールドは無視されます。</p> <p>売上税の場合、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムでこのフィールドの値は無視されます。ただし、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムとJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、このフィールドの値が必要です。</p>
<b>税率</b>	<p>税域に基づいて課税される税率または該当する納税先に支払う税率を入力します。</p> <p>税率のパーセントは整数で入力し、小数に換算した値では入力しません。たとえば、7%に設定するには、「.07」ではなく「7」と入力します。</p> <p>税目コードB(VAT + 使用税)またはC(VAT + 売上税)を使用する場合は、VATの納税先と税率を、税率/税域の最初の行に入力する必要があります。税目コードCおよびBを使用している場合にのみ、還付不可の率が最初の税率に適用されます。他の税目コードでは、還付不可の率に税合計が掛けられますが、これは最初の納税先のみにも適用されます。</p> <p>カナダの税では、税のGST部分の納税先と税率を最初の行で必ず指定してください。</p>
<b>複合税</b>	このオプションはカナダで使用され、選択すると、GSTが製品金額に加算された後にPST税を計算するかどうかを指定できます。

システムでは、GSTが製品金額に加算される前にPSTが計算されます。

たとえば、GSTが7%、PSTが8%の税域があるとします。ここで、税込金額への課税の計算オプションを選択したとします。課税対象が1000 CADの伝票を入力すると、GSTが70 CADとして計算されます。この値は課税対象額に加算され、その結果(1070 CAD)にPSTが掛けられます。複合税を使用しない場合、課税対象額のみに対してPSTが計算されます。

---

**注意:** このオプションは、BまたはCで始まる税目コードにのみ有効です。税目コードVの複合税を計算するには、税目コードV+を使用してください。

---

このコードは、2番目の納税先にのみ適用されます(このフォームの2行目)。また、GST以外の納税先を確認する必要もあります。

#### VAT費用

このオプションを選択すると、還付不可のVATのパーセントを指定できます。このオプションの左側にある「税率」フィールドに還付不可の率を入力します。

---

**注意:** このオプションは、税目コードがC、BまたはVで始まる場合にのみ有効です。

---

このコードは、3番目、4番目または5番目の納税先にのみ有効です(3行目から5行目)。

#### 品目No.

品目に割り当てられる番号を入力します。略式、詳細形式、第3品目番号形式があります。

税を適用する品目または品目グループの番号です。

品目グループの有効値は3から8です。品目グループに値を指定した場合、品目番号の検証を行うように処理オプションを選択する必要があります。この処理オプションは「編集」タブにあり、0(オフ)に設定します。この処理オプションを正しく設定しないと、品目グループ番号が実際の品目番号として検証されます。

#### 最高単位原価

品目の最高課税額を指定する数値を入力します。品目の単位原価がこのフィールドに指定した金額よりも大きい場合は、最高単位原価が課税対象になります。

---

**注意:** このフィールドは、受注オーダーおよび購買オーダーの処理でのみ使用されます。このフィールドは、テネシー州の税処理では必須です。

---

## 税のデフォルト値の設定

この項では、税に設定できるデフォルト値の概要と、次の方法について説明します。

- ビジネスユニットのデフォルト税情報の設定
- 仕入先レコードのデフォルト税情報の設定
- 顧客レコードのデフォルト税情報の設定

## 税のデフォルト値について

税込みの取引を入力する際は、取引の税情報の入力や、入力処理中に使用されるデフォルト値の設定が可能です。税のデフォルト値としては、税率/税域や税目コードなどがあり、顧客または仕入先レコードへの設定や、ビジネスユニット・レコードへの設定(税率/税域のみ)が可能です。デフォルト値を設定するかどうかにかかわらず、取引の入力時には税情報を一時変更できます。

次の表に、デフォルトの税率/税域および税目コードの取得元を、入力する取引のタイプ別に示します。

入力する取引	使用される税率/税域	使用される税目コード
購買オーダー	仕入先レコード	仕入先レコード 購買オーダーの入力時には、仕入先レコードに設定した税のデフォルト値が使用されず、購買オーダーを入力する際は、処理オプションを使用して、税率/税域を出荷先と仕入先のどちらの住所録番号から取得するかを指定します。システムでは、仕入先レコードの税目コードが常に使用されます。
受注オーダー	顧客レコード(出荷先住所)	顧客レコード(販売先住所) 受注オーダーの入力時には、顧客レコードに設定した税のデフォルト値が使用されます。販売先または出荷先の住所が異なる直送オーダー、転送オーダーまたは受注オーダーを入力すると、税率/税域は出荷先住所から、税目コードは販売先住所から取得されます。
伝票	ビジネスユニット、次に仕入先レコード	仕入先レコード 伝票の入力時には、ビジネスユニットに関連する税率/税域が存在する場合、その税率/税域が使用されます。ビジネスユニットに税率/税域が設定されていない場合は、仕入先レコードの税率/税域が使用されます。ビジネスユニットの税率/税域が使用されるかどうかにかかわらず、税目コードは仕入先レコードのコードが使用されます。

入力する取引	使用される税率/税域	使用される税目コード
請求書	ビジネスユニット、次に顧客レコード	顧客レコード  請求書の入力時には、ビジネスユニットに関連する税率/税域が存在する場合、その税率/税域が使用されます。ビジネスユニットに税率/税域が設定されていない場合は、顧客レコードの税率/税域が使用されます。ビジネスユニットの税率/税域が使用されるかどうかにかかわらず、税目コードは顧客レコードのコードが使用されます。
仕訳	なし	なし  VATを含む仕訳の入力時には、デフォルト税情報は使用されません。

## ビジネスユニット、仕入先および顧客レコードのデフォルト税情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ビジネスユニットの処理	W0006B	「組織と勘定科目の設定」(G09411)、「ビジネスユニットの検討と改訂」	ビジネスユニットを会社別に検討および選択します。
ビジネスユニットの改訂	W0006A	「ビジネスユニットの処理」でビジネスユニット・レコードを選択します。	デフォルト税情報(特に「詳細」タブの「税率/税域」フィールド)を追加および改訂します。
仕入先マスターの処理	W04012D	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「仕入先マスター情報」	仕入先レコードを検討および選択します。
仕入先マスターの改訂	W04012A	「仕入先マスターの処理」で仕入先レコードを選択します。	デフォルト税情報(特に「税情報」タブの「税目コード」および「税率/税域」フィールド)を追加および改訂します。
顧客マスターの処理	W03013A	「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「顧客マスター情報」	顧客レコードを検討および選択します。
顧客マスターの改訂	W03013B	「顧客マスターの処理」で顧客レコードを選択します。	デフォルト税情報(特に「税情報」タブの「税目コード」および「税率/税域」フィールド)を追加および改訂します。

## 税ID番号の検証

この項では、税ID検証プロセス、税IDを有効にする方法、および税IDを一時変更する方法の概要について説明します。

### 税ID検証について

税IDは、各種の納税先に情報を申告する際に使用するID番号です。会社、顧客または仕入先に関して行われる取引ごとに、関連する税ID番号を入力する必要があります。税IDは、VATコード、VAT登録番号または会計コードとも呼ばれます。

付加価値税(VAT)なしで商品を輸出するには、他の欧州連合(EU)の国の顧客の税IDまたはVAT登録番号が必要であり、自社の税IDまたはVAT登録番号を仕入先に送付する必要があります。これらの番号の長さや形式は国によって異なります。

各会社、顧客または仕入先の住所録レコードを作成する際は、税ID番号を「住所録の改訂」フォームの「税ID」フィールドに入力します。入力した税IDが正しいことを確認するには、「住所録の改訂」フォームの「郵送」タブの「国」フィールドにUDCテーブル(00/CN)の国コードを入力します。国コードが「郵送」タブに表示されている場合、その国の税IDが検証されます。

指定した国コードがUDCテーブル(70/TI)に設定されていて、検証が有効化されている場合にのみ、税IDは検証されます。

(ESP) 国外と国内の会社(CIF)および個人(NIF)が検証されます。

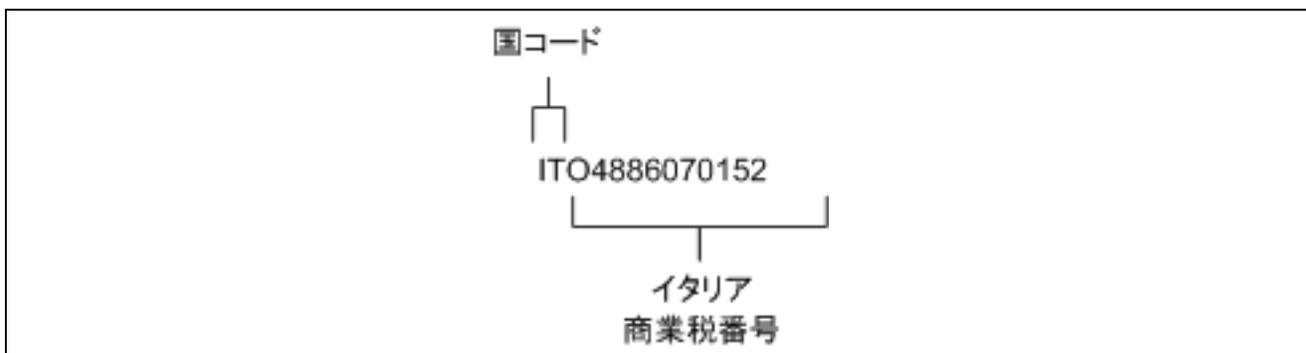
**注意:** スペインの税IDの長さは9文字です。

### 税IDまたはVAT登録番号の国別の例

次の各例では、各国で検証される税IDまたはVAT番号を示します。

#### (ITA) イタリアの税IDまたはVAT登録番号

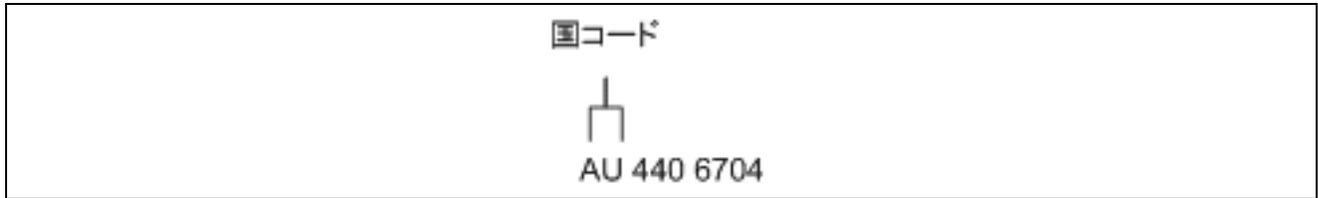
イタリアの例は次のとおりです。



イタリアの税IDまたはVAT登録番号

#### (AUT) オーストリアの税IDまたはVAT登録番号

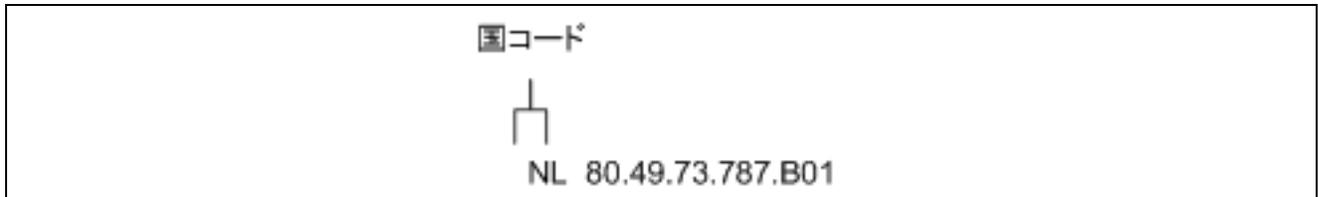
オーストリアの例は次のとおりです。



オーストリアの税IDまたはVAT登録番号

### (NLD)オランダの税IDまたはVAT登録番号

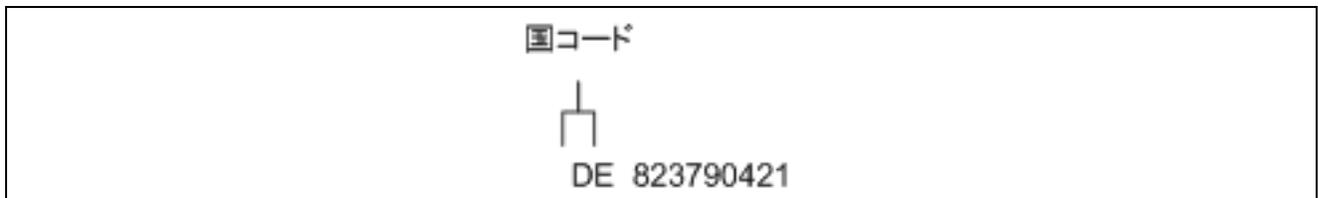
オランダの例は次のとおりです。



オランダの税IDまたはVAT登録番号

### (DEU)ドイツの税IDまたはVAT登録番号

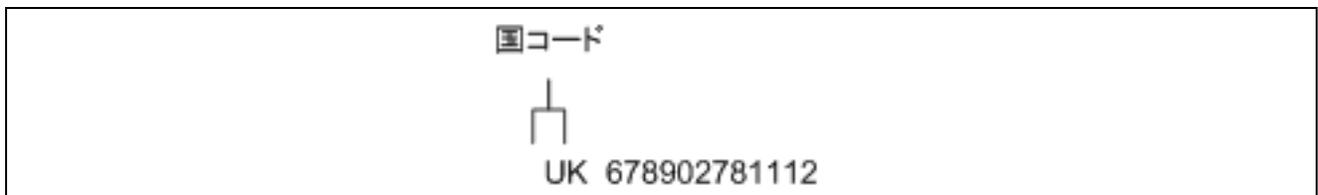
ドイツの例は次のとおりです。



ドイツの税IDまたはVAT登録番号

### (GBR)イギリスの税IDまたはVAT登録番号

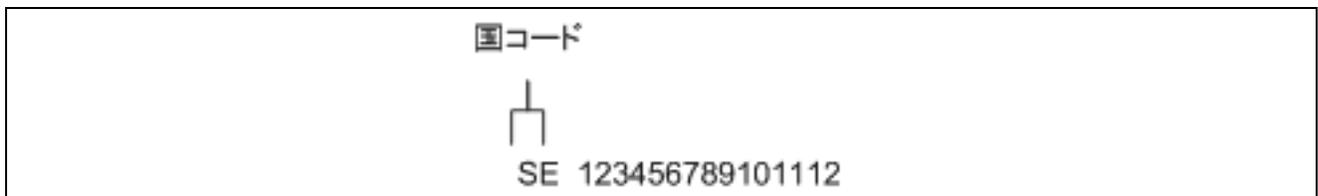
イギリスの例は次のとおりです。



イギリスの税IDまたはVAT登録番号

### (SWE)スウェーデンの税IDまたはVAT登録番号

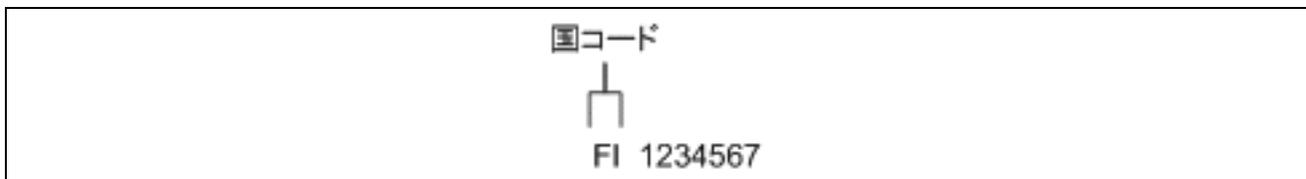
スウェーデンの例は次のとおりです。



スウェーデンの税IDまたはVAT登録番号

### (FIN)フィンランドの税IDまたはVAT登録番号

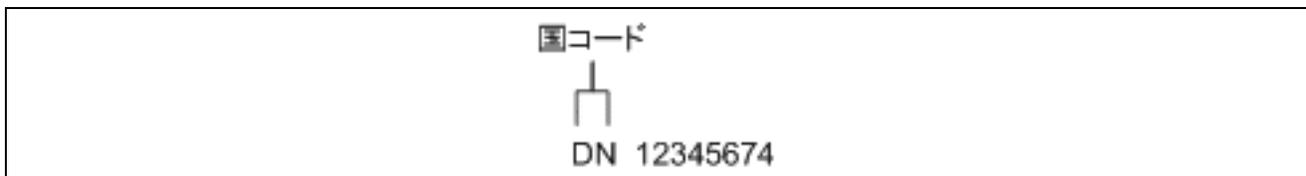
フィンランドの例は次のとおりです。



フィンランドの税IDまたはVAT登録番号

### (DNK) デンマークの税IDまたはVAT登録番号

デンマークの例は次のとおりです。



デンマークの税IDまたはVAT登録番号

## 税ID検証を有効にする方法について

特定の国に対して税ID検証ルーチンを有効にするには、ユーザー・プロファイルにローカライゼーション国コードを設定し、UDC (70/TI) に国コードを設定します。

参照: [第 2 章、「税情報の設定」、「税UDCの設定」、24ページ](#)

### ユーザー表示設定

「ユーザー・プロファイルの改訂」フォームの「ローカライゼーション国コード」フィールドに値を指定すると、税IDの検証ルーチンが自動的に検索されますが、使用する検証ルーチンは指定されません。たとえば、「ローカライゼーション国コード」フィールドに「UK」を指定しても、他の国の税IDを検証できます。「住所録の改訂」フォームの「郵送」タブの「国」フィールドの値によって、各住所録レコードに対して使用される検証が決定されます。

## 税ID検証を一時変更する方法について

特定の国に対して税ID検証ルーチンを有効にするには、税ID検証UDCテーブル (70/TI) に国コードを設定します。特定の国に対して特殊取扱コードを1に設定すると、その国の税IDが検証されます。

(ESP、FRA、ITA) フランス、イタリアおよびスペインでは、税検証ルーチンを顧客/仕入先ごとに一時変更できます。特定の顧客または仕入先に対して税検証ルーチンを一時変更すると、その顧客または仕入先の税IDは検証されませんが、その国の他のすべての顧客および仕入先の税IDは引き続き検証されます。

(ESP、FRA、ITA) これらの国で税検証ルーチンを一時変更するには、仕入先または顧客の「個人/法人コード」フィールドに「0」(ゼロ)を入力します。「個人/法人コード」フィールドは住所録 (P01012) プログラムの「住所録の改訂」フォームにあります。

(BEL) ベルギーでは、認可された医療サービス提供者などの一部の顧客のVAT IDは不明な場合があります。対象の顧客または仕入先の「住所録の改訂」フォームの「税ID」フィールドで「99\_unknown」または「99\_onbekend」を指定すると、単一の顧客または仕入先に対して税検証ルーチンを一時変更できます。

他の国では、税ID検証ルーチンを一時変更するには、その国のコードをUDC (00/CN) およびUDC (70/TI) に設定し、そのコードのうちの1つにUDC (70/TI) の「特殊取扱」フィールドで「1」を指定します (他のコードには指定しません)。税IDを検証する住所録レコードを作成するには、「特殊取扱」フィールドに1が設定されている国コードを使用します。税IDを検証しない住所録レコードを作成するには、「特殊取扱」フィールドに1が設定されていない国コードを使用します。

## 総勘定元帳勘定科目への税情報の割当

この項では、総勘定元帳勘定科目に割り当てる税情報の概要と、総勘定元帳勘定科目に税情報を割り当てる方法について説明します。

### 総勘定元帳勘定科目の税情報について

税を総勘定元帳勘定科目別にトラッキングするには、勘定科目の「課税対象勘定科目」オプションを選択し、その勘定科目が課税対象であることを指定する必要があります。勘定科目を課税対象に指定すると、使用するデフォルト税率/税域を指定できます。この税率/税域は、自動的に生成された仕訳の勘定科目に使用されます。または、伝票あるいは請求書の配賦フォームで対応するフィールドが空白であり、税をトラッキングすると指定した場合に使用されます。

### 総勘定元帳勘定科目への税情報の割当に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
勘定科目の処理	W0901H	「組織と勘定科目の設定」(G09411)、「勘定科目の検討と改訂」	主科目を会社別に検討および選択します。
単一勘定科目の改訂	W0901A	「勘定科目の処理」で勘定科目を選択します。	「追加」タブを選択して税情報を追加および改訂します。

### 総勘定元帳勘定科目への税情報の割当

「単一勘定科目の改訂」フォームにアクセスします。

#### 追加

「追加」タブを選択します。

#### 課税対象勘定科目

勘定科目が課税対象かどうかを指定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、勘定科目は課税対象になります。また、このオプションを選択すると、F0901テーブルのレコードが1で更新されます。

#### デフォルト税率/税域

共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、F4008テーブルに対して検証されます。請求書または伝票を作成すると、税目コードおよび税規則とともに税率/税域を使用して、税額と総勘定元帳の配賦金額が計算されます。

勘定科目が課税対象である場合、使用するデフォルト税率/税域を指定できます。この値は、ユーザーが総勘定元帳勘定科目の税をトラッキングすると指定し、税率/税域を入力しなかった場合に、伝票および請求書の入力中のみ使用されます。

## 総勘定元帳転記レポート・プログラムの設定による税情報の更新

この項では、税(F0018)テーブルへの税情報の更新に関連する総勘定元帳への転記プログラムの概要と、総勘定元帳への転記プログラムの実行方法について説明します。

## 総勘定元帳への転記プログラムと税情報の更新について

支払対象、または徴収対象の税額のレポートを作成するには、F0018テーブルを更新する必要があります。税込みの請求書、伝票および仕訳の転記に使用する総勘定元帳転記レポート・プログラム(R09801)のバージョンに該当の処理オプションを設定している場合、これらの取引の転記時にF0018テーブルが自動的に更新されます。

---

**注意:** 顧客売上の更新プログラム(R42800)の実行時に請求書の作成を省略すると、税テーブルは更新されません。

---

税調整リポジトリ(F0018R)テーブルを自動更新するには、F0018テーブルを更新する必要があります。F0018Rテーブルは、総勘定元帳勘定科目別の税情報のレポート作成に使用されます。

使用される総勘定元帳転記レポート・プログラムのデフォルトのバージョンは次のとおりです。

- ZJDE0001 (総勘定元帳の転記)

VAT税を含む仕訳を入力する場合、F0018テーブルを更新するにはこのバージョンの処理オプションを設定する必要があります。

- ZJDE0002 (伝票の転記)

税込みの請求書を入力する場合、F0018テーブルを更新するにはこのバージョン処理オプションを設定する必要があります。

- ZJDE0006 (請求書の転記)

税込みの請求書を入力する場合、F0018テーブルを更新するにはこのバージョン処理オプションを設定する必要があります。

別バージョンの総勘定元帳転記レポート・プログラムを使用して税込みの取引を転記する場合、F0018テーブルを更新するにはそのバージョンの処理オプションを設定する必要があります。

このテーブルでは、すべての税目コード、すべての税額、または使用税およびVATに関連する税目コードのみを更新できます。

---

**注意:** 税込みの取引を転記し、F0018テーブルを更新するように処理オプションを設定していない場合は、税情報をF0018テーブルに手動で入力する必要があります。取引を再転記してこのテーブルを更新することはできません。

---

参照: [第 4 章、「税テーブルの処理」、73ページ](#)

## 総勘定元帳への転記プログラムの実行

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)の「総勘定元帳への転記」を選択します。

「仕入先および伝票の入力」(G0411)の「伝票の転記」を選択します。

「顧客および請求書の入力」(G03B11)の「請求書の転記」を選択します。



## 第 3 章

# オーダーおよび取引の税情報の入力および改訂

この章では、総勘定元帳勘定科目別の税のトラッキングの概要、外貨金額の税の計算方法の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 購買オーダーおよび受注オーダーへの税情報の入力
- 請求書および伝票への税情報の入力
- VATを含む仕訳の入力
- 税込みの請求書および伝票の改訂
- 税込みのバッチ請求書および伝票の処理

---

## 総勘定元帳勘定科目別の税のトラッキングについて

VATが課税される国では、収益勘定と費用勘定のVAT額を税率/税域別にトラッキングおよび調整することが一般的なビジネス要件となっています。一部の国では、税額と総勘定元帳勘定科目との関係を検証し、行政上の規定に準拠しているか確認することが監査人に義務付けられています。

伝票または請求書の勘定科目情報を手動で入力するか、総勘定元帳への入力が自動で作成されるかにかかわらず、次の状況では、税が総勘定元帳勘定科目別に自動でトラッキングされます。

- 伝票(F0411)または請求書(F03B11)の支払項目に税目コードおよび税率/税域が含まれている場合
- 税をトラッキングするように配賦勘定が設定されている場合
- 手動で入力した伝票および請求書では、「勘定科目情報」フォームの「税トラッキング」フィールドの値が1の場合

---

**注意:** 流通AAIから生成された仕訳など、自動生成された仕訳では、勘定科目が課税対象の場合、「税トラッキング」は自動的に1に更新されます。

---

手動の入力では、次の規則を使用して、税情報をF0911テーブルに書き込むかどうかと、書き込む税情報が決定されます。

- 税情報がF0411またはF03B11テーブルに存在せず、税情報を総勘定元帳勘定科目に追加した場合は、「OK」をクリックすると税情報がレコードから削除されます。
- 総勘定元帳勘定科目が課税対象で、「勘定科目情報」フォームの「税率/税域」フィールドが未入力の場合は、F0901テーブルに設定されているデフォルト税率/税域が使用されます。税目コードの入力は必須です。
- 総勘定元帳勘定科目が課税対象でも、取引の税をトラッキングしない場合は、「税トラッキング」フィールドを「0」に一時変更できます。

F0911テーブルが税情報で更新された後、F0018テーブルを更新するには、取引を転記する必要があります。F0018テーブルの更新後、税調整リポジトリの更新プログラム(R0018R)を実行してF0018Rテーブルを更新します。このテーブルの情報は、税レポートの作成に使用できます。

標準の請求書および伝票入力プログラムに加えて、次のプログラムで税がトラッキングされます。

- スピード請求書入力(P03B11SI)
- スピード伝票入力(P0411SV)
- 次のバージョンを含む、標準伝票入力(P0411)の全バージョン
  - 仮伝票入力
  - 前払伝票の入力
  - 複数伝票 - 単一仕入先
  - 複数伝票 - 複数仕入先
  - 複数会社 - 単一仕入先

#### 関連項目:

第 5 章、「税調整リポジトリの更新」、77ページ

第 4 章、「税テーブルの処理」、73ページ

---

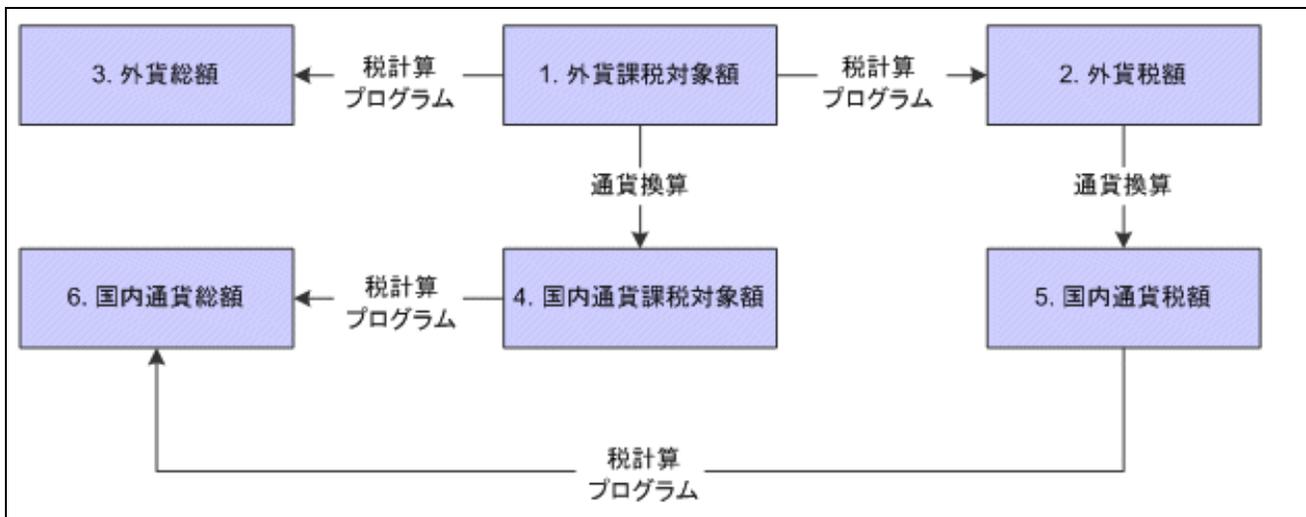
## 外貨金額の税の計算方法について

別のシステムから請求書および伝票を生成するときに国内通貨金額の計算に使用されるアルゴリズムは、請求書および伝票の手動入力時に使用されるアルゴリズムとは異なります。計算の差異はわずかですが、国内通貨金額の算出方法と、別のシステムから生成された税込みの外貨建て取引の改訂時に発生する可能性のある問題について、理解しておくことが重要です。

### 外貨建ての請求書、伝票および購買オーダーの税計算

税込みの外貨建ての請求書または伝票の入力時、あるいは税込みの外貨建ての購買オーダーの処理時には、税率/税域を使用して外貨税額が計算された後、外貨課税対象額が外貨税額に加算されて外貨総額が算出されます。(外貨課税対象額のかわりに外貨総額を入力すると、外貨税額が計算され、その額を外貨総額から差し引いて外貨課税対象額が算出されます。)その後、為替レートを使用して国内通貨課税対象額および税額が計算され、この2つの額が加算されて国内通貨総額が算出されます。

次の図は、請求書、伝票および購買オーダーに入力された外貨金額から国内通貨金額を計算する方法を示しています。



請求書入力の税計算

### 外貨建て請求書の税計算の例

次の例では、外貨建て請求書の税の計算方法を示します。

#### 設定

設定は次のとおりです。

- 基本通貨: USD
- 取引通貨: CAD
- 為替レート: 0.6633
- 税目コード: S
- 税率/税域: ONT (17%)
- 外貨課税対象額: 1,200.38

#### 計算

外貨課税対象額 (1,200.38) × 税率 (0.17) = 外貨税額 (204.06)

外貨課税対象額 (1,200.38) + 外貨税額 (204.06) = 外貨総額 (1,404.44)

外貨課税対象額 (1,200.38) × 為替レート (0.6633) = 国内通貨課税対象額 (796.21)

外貨税額 (204.06) × 為替レート (0.6633) = 国内通貨税額 (135.35)

国内通貨課税対象額 (796.21) + 国内通貨税額 (135.35) = 国内通貨総額 (931.56)

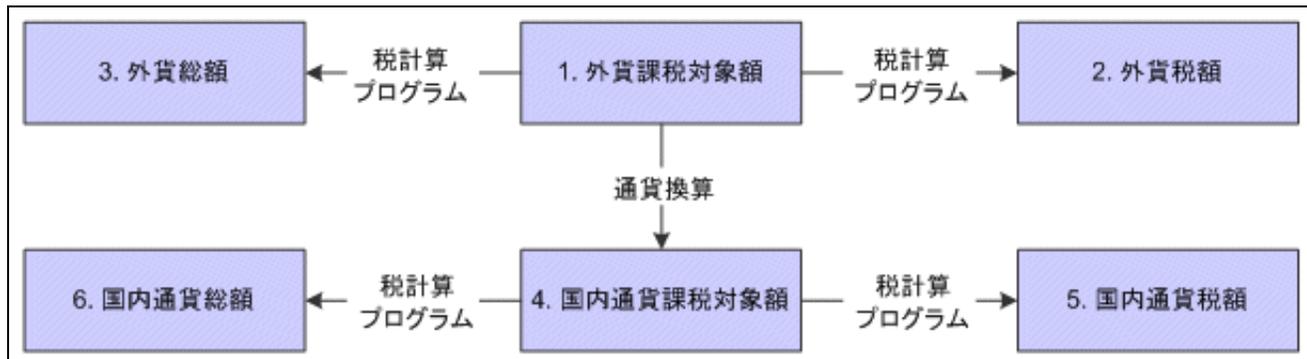
**注意:** 請求書または伝票に複数の支払項目がある場合は、ソフト丸めを使用して金額が調整されます。

購買オーダーに複数の行がある場合は、ソフト丸めは実行されず、各行が個別に丸められ、計算結果が伝票に反映されます。

## 外貨建て受注オーダーの税計算について

税込みの外貨建て受注オーダーを入力した後に日次締め処理(顧客売上の更新)を実行して請求書を作成すると、入力した税率/税域に基づいて外貨税額および外貨総額が計算されます。ただし、国内通貨課税対象額を計算する場合のみ為替レートが使用され、その後、税率/税域を再び使用して国内通貨税額および総額が計算されます。

次の図は、受注オーダーに入力された外貨金額から国内通貨金額を計算する方法を示しています。



顧客売上の更新の税計算

**注意:** 受注オーダーに複数の行がある場合は、ソフト丸めは実行されず、各行が個別に丸められ、計算結果が請求書に反映されます。

### 外貨建て受注オーダーの税計算の例

次の例では、外貨建て受注オーダーの税の計算方法を示します。

#### 設定

設定は次のとおりです。

- 基本通貨: USD
- 取引通貨: CAD
- 為替レート: 0.6633
- 税目コード: S
- 税率/税域: ONT (17%)
- 外貨課税対象額: 1,200.38

#### 計算

外貨課税対象額 (1,200.38) × 税率 (0.17) = 外貨税額 (204.06)

外貨課税対象額 (1,200.38) + 外貨税額 (204.06) = 外貨総額 (1,404.44)

外貨課税対象額 (1,200.38) × 為替レート (0.6633) = 国内通貨課税対象額 (796.21)

国内通貨課税対象額 (796.21) × 税率 (0.17) = 国内通貨税額 (135.36、丸め処理後)

国内通貨課税対象額 (796.21) + 国内通貨税額 (135.36) = 国内通貨総額 (931.57)

## 事前設定

「税目コードについて」を参照し、総勘定元帳の配賦金額が税タイプに基づいてどのように計算されるかを確認してください。

## この章で使用する共通フィールド

### 会社番号

特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードは F0010 テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。このレベルでは、企業間取引を行うことができません。

**注意:** 日付や AAI (自動仕訳) などのデフォルト値には会社 00000 を使用できません。取引の入力には会社 00000 は使用できません。

このコードにより、伝票を担当する会社が識別されます。このコードは、転記プログラムによって作成される仕訳に影響を与えます。AAI では会社番号を使用して買掛金勘定、現金勘定、税勘定およびデフォルトの費用勘定が決定されます。

### 元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。会計期間は、会社レコードに割り当てられる会計期間パターン・コードで定義します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号が取得されると同時に、日付検証が実行されます。14 期間まで使用できます。

### 総額

請求書または伝票の支払項目の合計金額を指定する値を入力します。税目コードの値によって、総額は税込みの金額になる場合もあります。消込のときもこの総額は変わりません。取引を無効にすると、「総額」フィールドの金額はクリアされます。総額を入力すると、課税対象額が計算されます。

### 税率/税域

共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、F4008 テーブルに対して検証されます。請求書または伝票を作成すると、税目コードおよび税規則とともに税率/税域を使用して、税額と総勘定元帳の配賦金額が計算されます。

このフィールドを空白にした場合、「OK」をクリックすると仕入先レコードの値で更新されます。処理オプションにより、仕入先と出荷先のどちらのレコードの値を使用するかが指定されます。

### 税目コード

税額や総勘定元帳の配賦金額の計算に使用されるアルゴリズムを制御する、ハードコード化されたユーザー定義コード (00/EX) を入力します。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせて税計算の方法が決まります。取引支払項目ごとに異なる税目コードを指定できます。

このフィールドを空白にした場合、「OK」をクリックすると仕入先レコードの値で更新されます。処理オプションにより、仕入先と出荷先のどちらのレコードの値を使用するかが指定されます。

### 課税対象額

課税対象となる金額を入力します。このフィールドに金額を入力して税額を自動的に計算することも、「税額」フィールドに金額を入力することもでき

## 税トラッキング

ます。「課税対象額」フィールドに金額を入力すると、会社別税規則で設定した税規則に従って金額が検証されます。

Vertex Sales Tax Q Seriesシステムを使用している場合は、「総額」フィールドではなく「課税対象額」フィールドに値を入力する必要があります。

総勘定元帳勘定科目の税をトラッキングするためにF0911テーブルを税情報で更新するかどうかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

1: 更新する。

0: 更新しない。

このフィールドに1の値を入力するには、勘定科目がF0901テーブルで課税対象として設定されている必要があります。

## 購買オーダーおよび受注オーダーへの税情報の入力

この章では、購買オーダーおよび受注オーダーの税情報の概要と、次の方法について説明します。

- 購買オーダーへの税情報の入力
- 伝票照合時の税情報の入力
- 受注オーダーへの税情報の入力

### 購買オーダーおよび受注オーダーの税情報について

ほとんどのビジネス環境で、購買または販売する品目に対して税金を支払うことが要求されます。税込みの購買オーダーまたは受注オーダーを入力する際は、税率/税域および税目コードをオーダーに入力するか、仕入先または顧客に設定されているデフォルト税情報を使用する必要があります。

オーダー入力中に、顧客または仕入先レコードから税目コードと税率/税域が取得されます。販売先と出荷先が異なる直送オーダー、転送オーダーまたは受注オーダーの場合には、販売先住所から税目コードが、出荷先住所から税率/税域が取得されます。

処理オプションで指定した見出しフォームを使用して購買オーダーまたは受注オーダーを入力すると、入力した税情報は、明細フォームに入力した全品目に適用されます。この税情報は、各品目またはサービスに応じて個々のオーダーで一時変更できます。

また、購買オーダーを入荷と照合して伝票を作成する際に、「伝票照合」フォームの詳細グリッドで税情報を入力することも可能です。

**注意:** 作成される仕訳は、伝票照合処理中に税を入力した場合と、購買オーダー入力中に税情報を入力した場合で異なります。

参照: [第 2 章、「税情報の設定」、「税目コードについて」、3 ページ](#)

明細行が課税対象であると指定した場合にのみ、その品目またはサービスに対して税が適用されます。販売または購買対象の品目は事業所品目プログラム(P41026)で課税対象として指定しますが、明細行の「課税対象」フィールドは一時変更できません。

オーダーの税額は保存されませんが、オーダーから作成された伝票または請求書レコードの税額は保存されます。

## 税込みの購買オーダーの留保金のリリース

購買オーダーを照合して伝票を作成する際、契約またはサービスの完了まで、あるいはオーダーの全品目を受け取るまで、仕入先への支払の一部を留保することを選択する場合があります。留保する金額は留保金と呼ばれます。購買オーダーに付加価値税(VAT)(税目コードVまたはC)が適用されていない場合、伝票照合時の伝票の全額に基づいて税額が自動的に計算および適用されます。たとえば、購買オーダーの金額が1,000で10%を留保する場合、税は全額(1,000)に対して計算されます。

ただし、購買オーダーにVAT税(税目コードVまたはC)が適用されている場合は、税を伝票の全額に適用するか、伝票の金額から留保金額を差し引いた金額に適用するかを指定できます。伝票照合(P4314)プログラムの「留保金」タブの「税」処理オプションにより、税の適用方法が指定されます。この処理オプションに「1」を入力すると(留保金額に適用)、留保金がリリースされるまで、留保金額の税は繰り延べられます。たとえば、1,000の購買オーダーを入力し、10%(100)を留保する場合、伝票照合時に、1,000ではなく900(1,000 - 100)に基づいて税が計算されます。その後、留保金をリリースすると、残額(100)に対する税が計算されます。

## 受注オーダーから生成される課税対象および非課税の請求書支払項目

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、顧客の請求指示に適切なオプションを設定することで、行品目を請求書支払項目別に集計できます。たとえば、50の行品目があるオーダーを入力すると、次の項目別に行品目を集計できます。

- 税目コード
- 税率/税域

税情報が同じすべての行品目は、1つの請求書支払項目に集計できます。行品目を課税対象として指定しなくても、オーダーは集計できます。

たとえば、税情報を各行品目に追加するのではなく、顧客に設定されている情報を自動的に使用して、行を非課税として指定することが可能です。顧客売上の更新(R42800)プログラムを実行すると、税目コードおよび税率/税域が行品目に書き込まれ、税情報が同じ他の行品目と集計されますが、金額は請求書支払項目の「非課税額」フィールド(ATXN)に書き込まれます。このように、請求書支払項目には課税対象額と非課税額の両方が含まれる場合があります。このシナリオでは、“課税対象 + 税”は総額に等しくならず、“課税対象 + 非課税 + 税”が総額に等しくなります。

手動で入力した請求書には非課税額を指定できませんが、入力した総額と、支払項目の課税対象額と税額の合計との差異が、「非課税額」フィールドに自動的に反映されます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 購買オーダーを入力するタスクを確認します。
- 伝票を未処理入荷と照合するタスクを確認します。
- 受注オーダーを入力するタスクを確認します。

## 購買オーダーおよび受注オーダーへの税情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの処理	W4310I	「購買オーダー処理」(G43A11)、「購買オーダーの入力」	購買オーダーを検討および選択します。
オーダー見出し	W4310B	「オーダー見出しの処理」で、「追加」をクリックします。	オーダー見出し情報(特に「税目コード」および「税率/税域」フィールド)を追加または改訂します。
オーダー明細	W4310A	「オーダー見出し」で、「OK」をクリックします。	オーダー明細情報(特に「課税対象」、「税目コード」および「税率/税域」フィールド)を追加または改訂します。
仕入先元帳照会	W0411G	「入金照合/転記」(G43A15)、「未処理入荷と伝票の照合」	伝票を検討および選択します。
伝票照合	W4314A	「仕入先元帳照会」で、「追加」をクリックします。	購買オーダーを入荷と照合することで、生成された伝票(フォームの詳細グリッド)に税情報を追加します。
受注見出しの処理	W4210H	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注見出し」	受注オーダーを検討および選択します。
受注オーダー見出し	W4210G	「受注見出しの処理」で、「追加」をクリックします。	オーダー見出し情報(特に「税域/コード」フィールド)を追加または改訂します。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注オーダー見出し」で、「OK」をクリックします。	オーダー明細情報の追加または改訂(特に「課税対象」フィールドの一時変更)を行い、「受注オーダー入力-追加情報」フォームにアクセスします。
受注オーダー入力-追加情報	W4210B	「受注オーダー明細の改訂」フォームで、オーダー明細行を選択し、「ロー」メニューの「受注オーダー入力-追加」を選択します。	「追加情報2」タブをクリックし、税情報(特に「販売時課税対象」、「税目コード」および「税率/税域」フィールド)を確認および一時変更します。

### 購買オーダーへの税情報の入力

「オーダー見出し」フォームにアクセスします。

**注意:** 見出しフォームを表示するには、「処理」タブの「見出し表示」の処理オプションに1の値が入力されている必要があります。

#### オーダー日付

オーダーが入力された日付を指定します。この日付によって、在庫価格設定に使用される有効レベルが決まります。

このフィールドには現在の日付が自動的に入力されます。

<b>税目コード、税率/税域</b>	このフィールドを空白にした場合、「OK」をクリックすると仕入先レコードの値で更新されます。処理オプションにより、仕入先と出荷先のどちらのレコードの値を使用するかが指定されます。
<b>課税対象</b>	<p>購買時に品目が課税対象になるかどうかを示すコードを入力します。仕入先も課税対象である場合にのみ、品目の税額が計算されます。</p> <p>品目をオーダーすると、F4102テーブルの購買時課税対象フィールドの値が使用されます。この値は、明細行レベルで一時変更できます。伝票の税を計算するには、この値がYである必要があります。</p>

## 受注オーダーへの税情報の入力

「受注オーダー見出し」フォームにアクセスします。

**注意:** 見出しフォームを表示するには、「処理」タブの「見出しまたは明細の表示」の処理オプションに1の値が入力されている必要があります。

<b>税域/コード</b>	<p>「税域/コード」フィールドの右側にあるラベルのないフィールドに税目コードを入力します。このフィールドを空白にすると、オーダーに入力されている販売先住所の顧客マスター・レコードに指定されているデフォルト値が使用されます。</p> <p>税率/税域が未指定の場合、オーダーに入力されている出荷先住所の顧客マスター・レコードに指定されているデフォルト値が使用されます。</p>
<b>販売時課税対象</b>	<p>販売時に品目が課税対象になるかどうかを示すコードを入力します。顧客も課税対象である場合にのみ、品目の税額が計算されます。</p> <p>請求書の税を計算するには、この値がYである必要があります。</p>

## 請求書および伝票への税情報の入力

この項では、税込みの請求書および伝票の入力の概要、ソフト丸め、および次の方法について説明します。

- 税込みの請求書の入力
- 税込みの伝票の入力

### 請求書および伝票の税情報について

税込みの請求書および伝票を入力すると、入力した情報に応じて金額が次のように計算されます。

- 総額を入力すると、課税対象額および税額が計算されます。
- 課税対象額を入力すると、総額および税額が計算されます。
- 課税対象額と総額の両方を入力すると、課税対象額に基づいて税額が計算されます。課税対象額と税額の合計と、入力した総額が等しくない場合、その差異が「非課税額」(ATXN)フィールドに反映されます。

---

**注意:** 「非課税額」フィールドの更新は自動でのみ行われます。取引入力プログラムを使用してこのフィールドに値を入力することはできません。

---

税のみの取引を入力する際は、取引の合計金額に対して「税」フィールドに値を入力します。

請求書に使用する税目コードはST、VTおよびCTで、伝票に使用する税目コードはST、UT、VT、BTおよびCTです。税目コードSTまたはCTを使用しないかぎり、総勘定元帳の配賦金額の入力は不要です。売上税の税のみの取引(ST)を入力している場合、配賦する金額は税額のみです。カナダ売上税の税のみの取引(CT)を入力している場合、配賦する金額は売上税(PST)額のみです。

総勘定元帳で配賦する金額は、使用する税目コードによって異なります。税率/税域および税目コードが異なる複数の支払項目がある場合、配賦金額の決定が困難なことがあります。配賦する合計金額が表示されるだけでなく、「計上税額」ウィンドウも表示されます。このウィンドウには「フォーム」メニューからアクセスでき、税目コードおよび税率/税域に基づいて配賦する税額が表示されます。金額は取引のモードに基づくため、取引を外貨で入力すると、配賦する税額は外貨で表示されます。

請求書または伝票を入力する際は、必要に応じて、税を総勘定元帳勘定科目別にトラッキングできます。この機能を使用するには、勘定科目を課税対象として設定する必要があります。取引がF0018テーブルに転記されてからF0018Rテーブルに反映されるまで、勘定科目に税情報は反映されません。

参照: [第 3 章、「オーダーおよび取引の税情報の入力および改訂」、「総勘定元帳勘定科目別の税のトラッキングについて」、49ページ](#)

#### 関連項目:

[第 2 章、「税情報の設定」、「会社別税規則の設定」、25ページ](#)

[第 2 章、「税情報の設定」、「税目コードについて」、3ページ](#)

## 丸めとソフト丸めについて

割引または税、あるいはその両方を含む請求書や伝票を大量に処理すると、丸めによる差異が急激に増大する場合があります。丸めは、計算が行われるあらゆる取引で実行されます。支払項目が1つの取引では丸めが使用され、支払項目が複数の取引ではソフト丸めが使用されます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 請求書入力MBF処理オプション・プログラム(P03B0011)の処理オプションで、サービス/税日付が適切であり(「デフォルト」タブ)、VATを含む請求書を入力できること(「税」タブ)を確認します。
- 伝票入力MBF処理オプション・プログラム(P0400047)の処理オプションで、サービス/税日付が適切であり(「デフォルト値」タブ)、VATを含む伝票を入力できること(「通貨」タブ)を確認します。
- 適切な税AAIを設定します。
- 適切な税率/税域を設定します。
- 税規則を設定します。
- 税を総勘定元帳勘定科目別にトラッキングするには、対象の勘定科目で課税対象オプションを選択します。

参照: [第 2 章、「税情報の設定」、「総勘定元帳勘定科目への税情報の割当」、46ページ](#)

## 税込みの請求書および伝票の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
売掛金元帳照会の処理	W03B2002A	「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「請求書入力」	請求書レコードを検討および選択します。
請求書の入力	W03B11A	「売掛金元帳照会の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	税込みの請求書レコードを追加および改訂します。
勘定科目情報	W03B11C	「請求書の入力」フォームで「OK」をクリックします。	請求書の金額を複数の勘定科目に配賦します。 税を総勘定元帳勘定科目別にトラッキングします。
計上税額	W0000209A	「勘定科目情報」フォームで、「フォーム」メニューから「計上金額」を選択します。	入力した税目コードに基づき、配賦する税額を税率/税域別または課税対象品目番号別に検討します。
仕入先元帳照会	W0411G	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「標準伝票入力」	伝票レコードを検討および選択します。
伝票入力-支払情報	W0411A	「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	税込みの伝票レコードを追加および改訂します。
勘定科目情報	W0411K	「伝票入力-支払情報」フォームで「OK」をクリックします。	伝票の金額を複数の勘定科目に配賦します。 税を総勘定元帳勘定科目別にトラッキングします。
計上税額	W0000209A	「勘定科目情報」で、「フォーム」メニューから「計上金額」を選択します。	入力した税目コードに基づき、配賦する税額を税率/税域別または課税対象品目番号別に検討します。

## 税込みの請求書の入力

「請求書の入力」フォームにアクセスします。

### 請求書の入力

#### 顧客

住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。詳細住所や税IDなど、住所録番号(AN8)以外の値を入力した場合は、住所録固定情報で定義した特殊文字を前に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。

たとえば、住所録番号4100(Total Solutions)の詳細住所がTOTALで、住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が\*(アスタリスク)の場合、このフィールドに「\*TOTAL」と入力して検索すると、4100が表示されます。

<b>会社番号</b>	<p>特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードは F0010 テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。このレベルでは、企業間取引を行うことができます。</p> <hr/> <p><b>注意:</b> 日付や AAI (自動仕訳) などのデフォルト値には会社 00000 を使用できます。取引の入力には会社 00000 は使用できません。</p> <hr/>
<b>請求書日付</b>	<p>請求書または伝票に手動または自動で割り当てる日付を入力します。仕入先からの請求書または顧客への請求書の日付です。</p>
<b>元帳日付</b>	<p>取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。会計期間は、会社レコードに割り当てられる会計期間パターン・コードで定義します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号が取得されると同時に、日付検証が実行されます。</p>
<b>総額</b>	<p>請求書または伝票の支払項目の合計金額を指定する値を入力します。税目コードの値によって、総額は税込みの金額になる場合もあります。消込のときもこの総額は変わりません。取引を無効にすると、「総額」フィールドの金額はクリアされます。</p>
<b>課税対象額</b>	<p>課税対象となる金額を入力します。</p> <p>このフィールドに金額を入力して税額を自動的に計算することも、「税額」フィールドに金額を入力することもできます。「課税対象額」フィールドに金額を入力すると、会社別税規則で設定した税規則に従って金額が検証されます。</p> <p>Vertex Sales Tax Q Series システムを使用している場合は、「総額」フィールドではなく「課税対象額」フィールドに値を入力する必要があります。</p>
<b>税域</b>	<p>共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、F4008 テーブルに対して検証されます。請求書または伝票を作成すると、税目コードおよび税規則とともに税率/税域を使用して、税額と総勘定元帳の配賦金額が計算されます。</p>
<b>税目コード</b>	<p>税額や総勘定元帳の配賦金額の計算に使用されるアルゴリズムを制御する、ハードコード化されたユーザー定義コード (00/EX) を入力します。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせて税計算の方法が決まります。取引支払項目ごとに異なる税目コードを指定できます。</p>
<b>勘定科目情報</b>	
<b>金額</b>	<p>関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナスの符号 (-) を付けて入力します。</p>
<b>税トラッキング</b>	<p>指定した勘定科目の税情報で税レポート用リポジトリ・テーブルを更新するかどうかを指定します。このフィールドに情報を入力するには、総勘定元帳勘定科目を課税対象として設定する必要があります。1 は、勘定科目を税のトラッキングに使用できることを示します。0 は、勘定科目が考慮されないことを示します。</p> <p>勘定科目が課税対象として設定され、請求書の 1 つ以上の支払項目に税が含まれる場合、このフィールドは 1 (税をトラッキングする) に自動的に変更されます。勘定科目の税をトラッキングしない場合は、値を「0」に変更します。勘定科目が課税対象として設定されていない場合にこのフィールドに「1」を入力すると、値は 0 に自動的に変更されます。</p>

<b>税率/税域</b>	<p>「税トラッキング」フィールドに「1」を入力した場合、このフィールドも入力する必要があります。</p> <p>請求書に入力されているいずれかの税率を入力します。このフィールドを空白にすると、総勘定元帳勘定科目に割り当てられている税率/税域が使用されます。割り当てられている税率/税域が請求書の税率/税域と一致しない場合、F0018Rテーブルは更新されません。</p>
<b>税目コード</b>	<p>「税トラッキング」フィールドに「1」を入力した場合、このフィールドも入力する必要があります。</p>

## 税込みの伝票の入力

「伝票入力 - 支払情報」フォームにアクセスします。

### 伝票入力 - 支払情報

<b>会社番号</b>	<p>特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。このレベルでは、企業間取引を行うことができません。</p>
-------------	--

---

**注意:** 日付やAAI(自動仕訳)などのデフォルト値には会社00000を使用できます。取引の入力には会社00000は使用できません。

---

このコードにより、伝票を担当する会社が識別されます。このコードは、転記プログラムによって作成される仕訳に影響を与えます。AAIでは会社番号を使用して買掛金勘定、現金勘定、税勘定およびデフォルトの費用勘定が決定されます。

<b>仕入先No.</b>	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。詳細住所や税IDなど、住所録番号(AN8)以外の値を入力した場合は、住所録固定情報で定義した特殊文字を前に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。</p> <p>たとえば、住所録番号4100(Total Solutions)の詳細住所がTOTALで、住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が*(アスタリスク)の場合、このフィールドに「*TOTAL」と入力して検索すると、4100が表示されます。</p>
---------------	---

<b>請求書No.</b>	<p>伝票入力に使用する仕入先請求書番号を入力します。各伝票には1つだけ請求書番号を入力できます。1件の伝票に対して複数の請求書番号がある場合は、複数伝票にするか、請求書をまとめて1件の伝票にする必要があります。JD Edwards EnterpriseOne買掛管理の固定情報の設定に応じて、次の処理が可能です。</p> <p>エラーや警告を表示せずに、重複する請求書番号の入力を許可する。</p> <p>警告メッセージを表示しても、重複する請求書番号の入力を可能にする。</p> <p>エラー・メッセージを表示する。</p> <p>空白の値は、すべての請求書番号と同じように扱われます。空白の請求書番号が2つある場合は重複として扱われます。</p> <p>誤って重複した請求書番号が入力されていないかを調べるには、重複と考えられる支払レポート(R04601)を実行します。</p>
---------------	--

**注意:** 重複する請求書番号の検証は、伝票タイプNOの伝票では実行されません。タイプNOの伝票は、払戻しの作成プログラム (R03B610) によって作成されます。

<b>元帳日付</b>	取引を転記する会計期間を決定する日付を入力します。一般会計の会社固定情報テーブルにより、各会計期間の日付範囲が指定されます。14期間まで使用できます。
<b>請求書日付</b>	仕入先からの請求書の日付を入力します。 伝票のデフォルト日付は元帳日付です。
<b>総額</b>	請求書または伝票の支払項目の合計金額を指定する値を入力します。税目コードの値によって、総額は税込みの金額になる場合もあります。消込のときもこの総額は変わりません。取引を無効にすると、「総額」フィールドの金額はクリアされます。
<b>課税対象額</b>	課税対象となる金額を入力します。 このフィールドに金額を入力して税額を自動的に計算することも、「税額」フィールドに金額を入力することもできます。「課税対象額」フィールドに金額を入力すると、会社別税規則で設定した税規則に従って金額が検証されます。
<b>税目</b>	税額や総勘定元帳の配賦金額の計算に使用されるアルゴリズムを制御する、ハードコード化されたユーザー定義コード (00/EX) を入力します。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせて税計算の方法が決まります。取引支払項目ごとに異なる税目コードを指定できます。
<b>税率/税域</b>	共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、F4008テーブルに対して検証されます。請求書または伝票を作成すると、税目コードおよび税規則とともに税率/税域を使用して、税額と総勘定元帳の配賦金額が計算されます。
<b>勘定科目情報</b>	
<b>勘定科目コード</b>	総勘定元帳の勘定科目を識別する値を入力します。勘定科目コードの入力には、次のいずれかの形式を使用します。 標準勘定科目コード (ビジネスユニット.主科目.補助科目または任意形式)。 第3勘定科目 (最大25桁)。 略式ID。8桁の数字です。 スピード・コード (AAI項目SPに付ける2文字のコード)。勘定科目コードのかわりにこのコードを入力できます。 最初の文字は勘定科目コードの形式を示します。勘定科目コードの形式は、一般会計固定情報で定義します。
<b>配賦値</b>	関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナスの符号 (-) を付けて入力します。
<b>税トラッキング</b>	勘定科目が課税対象として設定され、請求書の1つ以上の支払項目に税が含まれる場合、このフィールドは1 (税をトラッキングする) に自動的に変更されます。勘定科目の税をトラッキングしない場合は、値を「0」に変更します。

税目コード	「税トラッキング」フィールドに「1」を入力した場合、このフィールドも入力する必要があります。
税率/税域	「税トラッキング」フィールドに「1」を入力した場合、このフィールドも入力する必要があります。  伝票に入力されているいずれかの税率を入力します。このフィールドを空白にすると、総勘定元帳勘定科目に割り当てられている税率/税域が使用されます。割り当てられている税率/税域が伝票の税率/税域と一致しない場合、F0018Rテーブルは更新されません。

## VATを含む仕訳の入力

この項では、VATを含む仕訳の入力の概要と、次の方法について説明します。

- VAT付き仕訳(P09106)の処理オプションの設定
- VATを含む仕訳の入力

### VATを含む仕訳について

還付可能な付加価値税(VAT)またはこれに類似した税を課税する国で事業を行っている場合、VATを含む仕訳の入力が必要なことがあります。

F0411またはF03B11テーブルを更新せずに課税対象入力を記録するには、VAT付き仕訳(P09106)プログラムを使用します。たとえば、振込手数料を入力する場合などです。

住所録番号のフィールドを使用して、入力を従業員、仕入先、顧客または会社に関連付けることが可能です。処理オプションの設定によっては、各明細行(勘定科目)に住所録番号が必要な場合があります。デフォルトの住所録番号を見出し領域に入力できます。明細行で空白にした住所録番号にはこの番号が使用されます。

VATを含む仕訳を入力する際は、課税対象額または総額を指定できます。税および未指定の額(総額または課税対象額)は、税率/税域に基づいて計算されます。税目コードV、V+(複合税)またはVT(税のみ)を使用する必要があり、他の税目コードは使用できません。

税に指定されている勘定科目の行は1行のみの場合があるため、勘定科目に入力されているビジネスユニットに基づくデフォルト税率/税域は使用されません。ただし、勘定科目が課税対象として設定されていて、税率/税域がフォームで指定されていない場合は、勘定科目に設定されている税率/税域が使用されます。

VATを含む仕訳を入力すると、次の処理が実行されます。

- F0018テーブルが自動的に更新されます。  
仕訳を転記すると、税の処理オプションは無視されます。
- AAI項目GTxxxx(xxxxは税率/税域の相手勘定)で指定されている税科目の取引明細レコードがF0911テーブルに作成されます。

---

**注意:** 税の相殺仕訳は、VATを含む仕訳の転記時ではなく入力時に作成されます。

GTxxxx AAIに基づいて作成される追加仕訳は、VAT付き仕訳プログラムでは検討できません。この仕訳を検討するには、標準の仕訳入力プログラム(P0911)を使用する必要があります。F0911テーブルのALT5フィールドを次のように更新することで、手入力した仕訳と自動作成された仕訳が区別されます。

V

このコードで識別される仕訳は、税情報が指定されていて、VAT付き仕訳プログラムで入力された勘定科目です。

T

このコードで識別される仕訳は、AAI項目GTxxxxに基づいて自動で作成された税科目です。

O

このコードで識別される仕訳は、VAT付き仕訳プログラム(P09106)で入力された相手勘定です。

---

税情報が未指定の場合でも、「課税対象額」フィールドは更新されます。総額が課税対象額として使用されます。この仕訳行はF0018に反映されません。

VATを含む仕訳は、VATを含まない仕訳と同様に改訂できます。

- 仕訳が転記されない場合、税テーブルの既存のレコードが更新されます。
- 仕訳が転記される場合、税テーブルに改訂レコードが書き込まれます。

VAT付き仕訳プログラムを使用してモデル仕訳または逆仕訳を作成することはできません。

### (COL)コロンビア用のVATを含む仕訳

税目コードVおよびVTのみを使用できます。税域を使用して配賦を保存する必要がある場合は(税率/税域に税がない場合でも)、パーセントを使用しない相手勘定を使用してその地域を記録する必要があります。

産業および商取引税は、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの地域情報に指定されている経済活動パラメータに基づいて計算されます。この値は、「税付き仕訳入力」フォームの「支払項目」フィールドで変更できます。

### 例: VATを含む仕訳

次の例は、仕訳入力プログラム(P0911)を使用した同じ未転記取引を示しています。GTが使用されます。

仕訳入力 - 仕訳入力

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(E) ロー(R) ツール(T)

バッチ番号: 6120    モデル    パーセント    逆仕訳

伝票タイプ/No./会社: JE    3805    00070    元帳日付: 2005/06/30

摘要: Daily Bank Charges    元帳タイプ: AA    EUR

通貨: EUR    為替レート    基本通貨: EUR    外貨

レコード 1-4    グリッドのカスタマイズ

勘定科目No. *	金額	勘定科目名	補助元帳タイプ	補助元帳	補助元帳名	備考
7001.9250	100,000.00	Miscellaneous Expenses				
70.1240	15,000.00	VAT Recoverable				
70.1110.BBL	115,000.00-	Banque Bruxelles Lambert				

差異

仕訳入力

## 事前設定

JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの税AAIを設定します。

## VATを含む仕訳の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
税付き仕訳入力の処理	W09106C	「税処理およびレポート」(G0021)、「税付き仕訳入力」(COL)「Voucher Entry and Revisions」(G76C12)、「Journal Entries with taxes」	VATを含む仕訳レコードを検討および選択します。
税付き仕訳入力	W09106A	「税付き仕訳入力の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	VATを含む仕訳を追加および改訂します。

## VAT付き仕訳(P09106)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 必須住所番号

#### 1. 住所録番号

住所録番号フィールドへの入力をグリッドで必須にするには、「1」を入力します。ブランクにすると、エラーは設定されません。

## 仕訳入力MBFバージョン一時変更

1. バージョン 標準の仕訳処理(アプリケーションP0900049のバージョンZJDE0001)を一時変更する場合のバージョン番号を指定します。この変更は、システム全体のセットアップ担当者のみが行ってください。

## VATを含む仕訳の入力

「税付き仕訳入力」フォームにアクセスします。

「税付き仕訳入力」フォームの詳細グリッドに表示される「代替所属ビジネスユニット」、「職務タイプ」、「職階」、「従業員プール・グループ・コード」および「職務プール・グループ・コード」フィールドでは、勤務管理や外注管理などの他のJD Edwards EnterpriseOneシステムの取引をシミュレートできます。たとえば、間接費を使用している場合は、これらのフィールドを使用して間接費取引の修正仕訳を入力できます。

<b>課税対象額</b>	<p>関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナスの符号(-)を付けて入力します。</p> <p>「課税対象額」フィールドに金額を入力すると、総額および税額が計算されます。「総額」フィールドに金額を入力すると、課税対象額および税額が計算されます。</p>
<b>総額</b>	<p>総額を入力すると、課税対象額が計算されます。</p>
<b>税額</b>	<p>納税先に納める税額を入力します。これには、VAT、使用税、売上税(PST)などが含まれます。</p> <p>税額を変更すると、変更内容が税規則と照合されます。</p>
<b>税目コード</b>	<p>課税方法および総勘定元帳の収益勘定や費用勘定への配賦方法を制御するユーザー定義コード(00/EX)を入力します。</p> <p>Vで始まる税目コード(V、VTまたはV+)を使用する必要があります。その他の税目コードは無効です。</p>
<b>税域</b>	<p>共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、F4008に対して検証されます。請求書または伝票を作成すると、税目コードおよび税規則とともに税率/税域を使用して、税額と総勘定元帳の配賦金額が計算されます。</p>
<b>税トラッキング</b>	<p>総勘定元帳勘定科目の税をトラッキングするためにF0911を税情報で更新するかどうかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>1: 更新する。</p> <p>0: 更新しない。</p> <p>このフィールドに1の値を入力するには、勘定科目がF0901で課税対象として設定されている必要があります。</p>

## 税込みの請求書および伝票の改訂

税込みの転記済請求書または伝票の金額を変更するには、新しい総額を入力し、税額および課税対象額情報を削除します。税情報が再計算されます。取引に複数の税率がある場合は、デフォルト情報と異なる各支払項目の税情報を変更する必要があります。

また、自動で計算された税額を変更することもできます。売上税および使用税の場合、警告メッセージが表示されます。VAT税(税目コードV、BおよびC)の場合、取引に手で入力した税額は、各会社に設定されている許容範囲と照合されます。許容範囲を超えると、エラーまたは警告が表示されます。

転記済請求書または伝票の税情報は改訂できますが、転記済取引には税情報を追加できません。ただし、税のみを対象とする税目コード(ST、UT、VT、BTまたはCT)を使用して税情報を追加支払項目として入力することや、税のみの新しい取引を入力することは可能です。

税のみの情報を追加するには、「総額」フィールドではなく「課税対象額」フィールドに値を入力します。

改訂した取引を転記すると、F0018テーブルに改訂内容が反映されます。

---

**重要:** 税込みの請求書または伝票を改訂すると、金額のフィールドを改訂しようとしなくても、税額の再計算が試行されます。たとえば、税込みの請求書の請求書備考を改訂すると、請求書の税額および総額の再計算が試行されます。総額が課税対象額と税額の合計と等しくならない場合、税規則で設定された許容範囲によって警告またはエラー・メッセージが表示され、変更は却下されます。

金額を変更する必要がない場合は、支払期日や備考などの取引情報の改訂にスピード・リリース・プログラム(P03B114およびP0411S)を使用します。

---

### 支払伝票の分割

税込みの伝票を分割する際にスピード・リリース(P0411S)プログラムを使用すれば、処理オプションの設定によって、各支払項目の金額に比例して税額を分割するように指定することが可能です。この場合、各支払項目の税フィールドをクリアして税情報を指定する必要がなくなります。

#### 関連項目:

[第 4 章、「税テーブルの処理」、73ページ](#)

---

## 税込みのバッチ請求書および伝票の処理

この項では、税込みのバッチ請求書および伝票の処理の概要について説明します。

### 税込みの請求書および伝票のバッチ処理について

旧システムで入力された取引からの請求書および伝票の作成にバッチ処理を使用する際、取引に税情報を含める場合があります。追加の税情報を指定することを除き、税込みのバッチ請求書および伝票は、税抜きの場合と同様に処理します。

#### 税率/税域および税目コードのデフォルト値

税率/税域または税目コードをバッチ・テーブルに入力せず、デフォルト値がF0006、F03012またはF0401テーブルに存在する場合、適切な値を使用して税が計算されます。

---

**注意:** F0006テーブルには、「税率/税域」フィールドのみがあります。「税率/税域」フィールドの値がレコードのデフォルト値として提供されるようにするには、値を「税目コード」フィールドに指定する必要があります。

---

設定されている税のデフォルト値を使用しない場合は、バッチ請求書処理プログラム(R03B11Z1A)またはバッチ伝票処理プログラム(R04110Z)の「デフォルト」タブで該当の処理オプションを設定します。

### バッチ請求書および伝票の税情報の処理に必須のフィールド

税抜きの請求書および伝票の処理に必須のフィールドに加えて、税込みの請求書进行处理するには F03B11Z1 テーブルで、税込みの伝票进行处理するには F0411Z1 テーブルで、次の追加の税フィールドへの入力が必要です。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	入力する値/定義
課税対象額	ATXA	数値	15	取引の課税対象の金額を入力します。取引の総額全体が課税対象ではない場合は、取引の非課税部分を「非課税額」フィールド (ATXN) に入力する必要があります。「課税対象額」(ATXA)、「非課税額」(ATXN) および「税額」(STAM) フィールドの合計は、取引の総額に等しくなる必要があります。  「総額」フィールド (AG) を空白にすると、課税対象額 (ATXA) および非課税額 (ATXN) に基づいて総額が計算されます。
非課税額	ATXN	数値	15	取引の非課税の金額を入力します。課税対象額、非課税額および税額の合計は、取引の総額に等しくなる必要があります。
税額	STAM	数値	15	このフィールドにより、取引で計算される税の金額が識別されます。  このフィールドを空白にすると、「課税対象額」(ATXA)、「税目コード」(EXR1) および「税率/税域」(TXA1) フィールドの値に基づいて税額が計算されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	入力する値/定義
税率/税域	TXA1	文字	10	税率/税域により、税計算の率が指定され、納税先が定義されます。  このフィールドには、F4008テーブルにある値を入力してください。
税目コード1	EXR1	文字	1	このフィールドには、UDC 00/EX (税目コード)にある値を入力してください。すべての値は、会社別税規則と組み合わせて、税率/税域の設定に応じた税計算が実行されるようにハードコード化されています。
サービス/税日付	DSVJ	日付	6	この日付は、「税率/税域」フィールド (TXA1) で使用される有効日付に対応します。データベースと同じ日付形式で日付を入力します。  このフィールドをブランクにすると、元帳日付の値が使用されます。  別の方法として、このフィールドをブランクにして、DSVM (mm)、DSVD (dd)、DSVY (yy) および DSV# (cc) の各フィールドに月/日/年/世紀の形式で値を入力することもできます。「西暦上2桁」フィールド (DSV#) には年度の上2桁を入力します。たとえば、1999年の場合は「19」、2005年の場合は「20」と入力します。

## バッチ処理用の配賦情報

バッチ請求書またはバッチ伝票を処理する際は、F03B11Z1またはF0411Z1テーブルへの情報の入力に加えて、処理しているバッチ請求書または伝票に対応する勘定配賦情報をF0911Z1テーブルに入力する必要があります。配賦する金額は、請求書または伝票で使用する税目コードによって異なります。

また、税を総勘定元帳勘定科目別に調整する場合は、次の税情報も入力する必要があります。

- 税率/税域

このフィールドが未入力で、「税トラッキング」フィールドに「1」を入力した場合、勘定科目に設定されているデフォルト税率/税域が使用されます。

- 税目コード

- 税トラッキング

税をトラッキングするには「1」を入力します。勘定科目がF0901テーブルで課税対象として指定されている必要があります。指定されていない場合、このフィールドは無視されます。

## 外貨金額および税の処理

外貨金額に対する税は、国内通貨金額に対する税と同様に計算されます。外貨課税対象額を入力すると、外貨税額および外貨総額が計算されます。逆に、外貨総額を入力すると、外貨税額および外貨課税対象額が計算されます。外貨金額をF03B11Z1またはF0411Z1テーブルに指定する場合、F0911Z1テーブルに指定する配賦金額も外貨である必要があります。

---

## VATを含むオフライン仕訳およびバッチ仕訳の処理

この項では、VATを含むオフライン仕訳およびバッチ仕訳の処理の概要について説明します。

### VATを含むオフライン仕訳およびバッチ仕訳について

オフライン仕訳プログラムまたはバッチ仕訳プログラムを使用する場合、VAT税を含む仕訳を処理することがあります。オフライン仕訳またはバッチ仕訳を処理する際は、レコードをF0911Z1テーブルに作成した後で、そのレコードをR0911Z1プログラムで処理する必要があります（メニューによっては、このプログラムは「仕訳バッチ処理」または「オフライン仕訳のアップロード」と表示されます）。R0911Z1プログラムを実行すると、エラーがない場合、取引はF0911テーブルに反映されます。

正常に処理されたバッチは、処理オプションの設定により自動的に転記されるように指定することや、後で手動で転記することが可能です。取引を自動的に転記すると選択したかどうかにかかわらず、仕訳がF0911Z1テーブルで正常に処理されてF0911テーブルに作成されると、対応するレコードがF0018テーブルにも書き込まれます。

VATを含む仕訳は、VAT付き仕訳プログラム(P09106)の使用時と同様に処理されます。税抜きの仕訳の処理に必須のフィールドに加えて、税込みの仕訳を処理するには、次の表のフィールドへの入力が必要です。

### VATを含むバッチ仕訳の処理に必須のフィールド

次の表は、VATを含むバッチ仕訳に必須のフィールドの名前および内容を示しています。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	入力する値/定義
課税対象額	AA	数値	15	<p>課税対象額を入力すると、税目コードおよび税率/税域に基づいて税額および総額が計算されます。</p> <p>総額を入力すると、税目コードおよび税率/税域に基づいて課税対象額および税額が計算されます。</p> <p><b>注意:</b> 他の組合せのフィールドに入力すると、税率/税域、税目コードおよび設定されている税規則に基づいてその情報が検証されます。入力する税額は、税規則に設定されている許容限度内である必要があります。指定する税額を検証しないようにするには、許容限度を100%と指定するか、税規則を未設定にします。</p>
総額	AG	数値	15	.
税額	STAM	数値	15	.
税目コード1	EXR1	文字	1	VAT税目コード(V、V+またはVT)のみを入力します。その他の値は無効です。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	入力する値/定義
税率/税域	TXA1	文字	10	税率/税域により、税計算の率が指定され、納税先が定義されます。  このフィールドには、F4008テーブルにある値を入力してください。
税トラッキング	TKTX	文字	1	税情報をF0018Rテーブルに反映するには「1」を入力します。指定する勘定科目はF0901テーブルで課税対象として設定されている必要があります。設定されていない場合、仕訳の処理時に「税トラッキング」フィールドは0に変更され、F0018Rテーブルは更新されません。

### 税込みの外貨金額の処理

外貨金額に対する税は、国内通貨金額に対する税と同様に計算されます。外貨課税対象額を入力すると、外貨税額および外貨総額が計算されます。逆に、外貨総額を入力すると、外貨税額および外貨課税対象額が計算されます。国内通貨金額と外貨金額を同時に処理するには、「通貨モード」フィールド(CRCM)に「3」を入力します。指定した金額が処理され、通貨の為替レートの計算は省略されます。

## 第 4 章

# 税テーブルの処理

この章では、税(F0018)テーブルの更新処理の概要と、次の方法について説明します。

- 税テーブルへの取引の追加
- 税テーブルの取引の除去

---

## 税テーブルの更新処理について

生成した伝票および請求書は、総勘定元帳に転記して、相殺仕訳を作成し、勘定残高(F0902)テーブルを更新する必要があります。さらに、調整または報告する税が取引に含まれている場合は、税テーブルを更新する必要があります。取引タイプにより、税テーブルの更新方法が決まります。

- 税込みの請求書および伝票の場合、使用するバージョンの総勘定元帳転記レポート・プログラム(R09801)の該当する処理オプションを設定すると、税テーブルが更新されます。

税込みの請求書または伝票の各支払項目に対し、税テーブルにレコードが1つ作成されます。転記済支払項目を改訂して改訂内容を転記すると、その支払項目に対する追加レコードが税テーブルに生成され、「行番号」フィールドの値が増加します。

- 付加価値税(VAT)を含む仕訳の場合、取引の転記状況にかかわらず、取引の入力時に税テーブルが更新されます。

税込みの仕訳の各行に対し、税テーブルにレコードが1つ作成されます。VATを含む仕訳を改訂すると、改訂時に仕訳が転記された場合、改訂内容を表すレコードが書き込まれます。これ以外の場合は、既存のF0018レコードの情報が変更されます。

税テーブルの各レコードにはそれぞれの納税先、税率および税額用のフィールドがあるため、レポートを実行すると、税額合計を納税先別に確認できます。

---

## 税テーブルへの取引の追加

この項では、税テーブルの改訂(P0018)プログラムの使用方法の概要と、税テーブルへの取引の追加方法について説明します。

### 税テーブルの改訂プログラムについて

税テーブルの改訂プログラムは、税テーブルのレコードの検討、追加、削除および変更に使います。たとえば、総勘定元帳転記レポート・プログラム(R09801)のバージョンで税テーブルを更新するように処理オプションを設定していない場合、税テーブルの改訂プログラムを使用した税情報の手動入力が必要になることがあります。同様に、このテーブルからの取引の削除が必要な場合もあります。

文字PまたはRで始まる伝票（通常は伝票および請求書取引に使用）は改訂できません。税テーブルの請求書または伝票レコードは改訂できないため、次のいずれかの処理が必要です。

- 標準入力プログラムを使用して改訂を行った後、変更内容を転記して税テーブルを更新します。
- 新しい取引を税テーブルに追加して税額を調整します。

仕訳の課税対象額または非課税額を改訂し、「税」フィールドをクリアすると、税額が再計算されます。

**注意:** 税テーブルの取引に行った改訂は、当初取引には反映されません。

## 税テーブルへの取引の追加に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
税テーブルの処理	W0018A	「税処理およびレポート」(G0021)、「税テーブルの改訂」	税レコードを検討および選択します。
税テーブルの改訂	W0018C	「税テーブルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	税レコードを追加および改訂します。

## 税テーブルへの取引の追加

「税テーブルの改訂」フォームにアクセスします。

### 伝票タイプ/No./会社

当初伝票を識別する番号を入力します。当初伝票には、仕入先請求書、受注オーダー、請求書、仮受金、仕訳などの種類があります。

税目コードVの伝票を追加する必要がある場合は、F0911テーブルにある伝票タイプ、伝票番号および伝票会社を指定してください。

### サフィックス

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムおよび JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムの支払項目に対応するコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムおよび JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムでは、当初オーダーに対する複数の取引をこのコードで識別します。

購買オーダーでは、このコードは常に000になります。

1つのオーダーに対して複数の部分入荷がある受注オーダーの場合、最初の入荷を記録する確認書のサフィックスは000に、次のサフィックスは001、その次のサフィックスは002のようになります。

### 会社番号

このフィールドは必須です。

### 勘定科目コード

総勘定元帳の勘定科目を入力します。勘定科目コードには次のいずれかの形式を使用できます。

1: 構造化勘定科目(ビジネスユニット.主科目.補助科目)。

2: 25桁の自由形式の番号。

3: 8桁の略式ID番号。

4: スピード・コード。勘定科目の最初の文字は、勘定科目コードの形式を示しています。

勘定科目の形式は一般会計固定情報プログラム(P000909)で定義します。

<b>住所番号</b>	<p>従業員、応募者、加入者、顧客、仕入先、テナント、所在地などの、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの項目を識別する番号を入力します。</p> <p>このフィールドは必須です。</p>
<b>税目コード</b>	<p>課税方法および総勘定元帳の収益勘定や費用勘定への配賦方法を制御するユーザー定義コード(00/EX)を入力します。</p> <p>このフィールドは必須です。</p>
<b>税率/税域</b>	<p>共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、F4008テーブルに対して検証されます。請求書または伝票を作成すると、税目コードおよび税規則とともに税率/税域を使用して、税額と総勘定元帳の配賦金額が計算されます。</p> <p>このフィールドは必須です。</p>
<b>税日付</b>	<p>商品またはサービスの購入時、またはその課税時を示す日付を入力します。</p>
<b>元帳日付</b>	<p>取引を転記する会計期間を識別する日付を入力します。</p> <p>会社固定情報で各会計期間の日付範囲を指定します。期間は14まで指定可能です。通常、期間14は監査調整用です。PBCO(過去期間)、PYEB(前年度以前)、PACO(未来期間)、WACO(次年度以降)のメッセージに対して、このフィールドが検証されます。</p> <p>このフィールドは必須です。</p>
<b>行番号</b>	<p>購買オーダーやその他の伝票の行番号など、重複を識別する番号を入力します。通常、この番号はシステムによって割り当てられますが、場合によってはユーザーが一時変更することもできます。</p>
<b>非課税額</b>	<p>非課税となる金額を入力します。これは、製品が免税または税率がゼロであるために、売上税、使用税またはVAT税が課税されない取引の部分です。</p>
<b>課税対象額</b>	<p>課税対象となる金額を入力します。</p> <p>このフィールドは必須です。</p>
<b>税額</b>	<p>納税先に納める税額を入力します。これには、VAT、使用税、売上税(PST)などが含まれます。</p> <p>税額の入力は可能ですが、入力した金額が自動計算の金額と異なる場合、エラーが表示されることがあります。処理でエラーが発生しないようにするには、このフィールドをブランクにし、金額が自動で割り当てられるようにします。</p>
<b>原価小計</b>	<p>売掛管理および買掛管理の請求書(総)額を入力します。受注オーダーおよび購買オーダーの場合、単価に数量を掛けた値になります。</p> <p>課税対象額と税額の合計を入力します。このフィールドは必須です。</p>

---

## 税テーブルの取引の除去

不要となったレコードを削除するために、F0018テーブルの定期的な除去が必要な場合があります。税テーブルの除去(R0018PURGE)プログラムを実行すると、入力したデータ選択に基づいて税テーブルの全レコードが削除されます。

この項では、税テーブルの除去方法について説明します。

### 税テーブルの取引の除去

「税処理およびレポート」(G0021)の「税テーブルの除去」を選択します。

## 第 5 章

# 税調整リポジトリの更新

この章では、次の方法について説明します。

- 税調整リポジトリの更新
- 税調整リポジトリの検討

---

## 税調整リポジトリの更新

この項では、税調整リポジトリの更新処理の概要と、次の方法について説明します。

- 税調整リポジトリの更新プログラムの実行
- 税調整リポジトリの更新 (R0018R) の処理オプションの設定

### 税調整リポジトリの更新処理について

伝票および請求書を転記して税 (F0018) テーブルを更新した後は、税調整リポジトリの更新 (R0018R) プログラムを実行します。税額は、伝票および請求書取引の配賦と、付加価値税 (VAT) 付きで入力されたすべての仕訳の配賦に使用された課税対象の総勘定元帳勘定科目に配賦されます。この金額は、レポート作成のために税調整リポジトリ (F0018R) テーブルに保存されます。

---

**重要:** F0018R テーブルへのレコードの反映には、データ選択は使用しないでください。かわりに、税調整リポジトリの更新プログラムの処理オプションを使用してください。

---

### 総勘定元帳勘定科目別の税額の調整

税調整リポジトリの更新プログラムでは、次の処理を使用して税額が総勘定元帳勘定科目別に調整され、F0018R テーブルが更新されます。

1. 未処理レコード (「税処理フラグ」フィールド (PROCFL) が Y でないレコード) が F0018 テーブルで検索されます。
2. 指定された順序で次のキー・フィールドを使用して、対応する課税対象レコードが取引明細 (F0911) テーブルで検索されます。
  - 伝票番号
  - 伝票タイプ
  - 伝票会社
  - 元帳日付
  - 税率/税域
  - 税目コード

- 課税対象品目 No.
3. F0911テーブルのレコードが合計されます。
  4. 各勘定科目の金額を合計金額で割り、各F0911レコードの比率が決定されます。
  5. 比率にF0018テーブルの税額を掛けて、勘定科目ごとの税額が決定されます。
  6. 税率/税域と税目コードの各組合せに対して配賦が実行されます。
  7. F0018Rテーブルにレコードが作成されます。

---

**注意:** 税額はF0911テーブルのAAとCAの両方の元帳に書き込まれますが、テーブルF0018RにはAAの金額のみが反映されます。

---

8. F0018レコードが処理済 (PROCFLフィールドがY) に更新されます。

### 調整済取引の改訂

取引金額または総勘定元帳勘定科目を改訂するには、まずその対象をF0018テーブルに転記してから、税調整リポジトリの更新プログラムを再実行してF0018Rテーブルを更新する必要があります。改訂した取引を転記すると、その支払項目に対する新しいレコードがF0018テーブルに作成され、「行番号」フィールドの値が1つ増加します。税調整リポジトリの更新プログラムを再実行すると、次の処理が実行されます。

1. 未処理レコードがF0018テーブルで検索されます。
2. 同じキー・フィールドを持つ処理済レコードがF0018テーブルで検索され、PROCFLフィールドから1が削除されます。これにより、全レコードが新たな税計算の対象として考慮されるようになります。
3. 同じキー・フィールドを持つ全レコードがF0018Rテーブルから削除され、新しい比率の計算が可能になります。
4. 前述のステップ1から8の調整処理を再実行します。

### 例: 税調整リポジトリの更新

次の例は、テーブルに設定されている情報を使用してF0018Rテーブルが更新される方法を示しています。

#### 税率/税域の設定

次の表に、「税率/税域」の各フィールドと値を示します。

フィールド	値	値
税率/税域	G10	G20
納税先	4555	25551
相手勘定	A1	A2
税率	10%	20%

#### AAIの設定

次の表に、AAI項目と勘定科目を示します。

AAI項目	勘定科目
RTA1	1.4333
RTA2	1.4444
RC	1.1210

### 請求書の入力

税目コードVおよび2つの税率/税域を使用して、次の課税対象額の3つの支払項目を含む請求書を入力します。

#### 請求書: 11223 RI 00001

次の表に、「請求書の入力」の各フィールドと値を示します。

支払項目	総額*	課税対象額	税額*	税率/税域	税目コード	品目No.
001	1,100	1,000	100	G10	V	0
002	2,400	2,000	400	G20	V	0
003	3,300	3,000	300	G10	V	0

\* この金額は次のように計算されます。

- 総額 = 課税対象額 + 税額
- 税額 = 課税対象額 × 税率

**注意:** 請求書は手動で入力されたものであり、顧客売上の更新プログラム (R42800) で作成されたものではないため、「品目No.」フィールドは使用されず、更新されません。

請求書を次の総勘定元帳勘定科目および税率/税域に配賦します。

#### 勘定科目情報: 11223 RI 00001

次の表に、「勘定科目情報」の各フィールドと値を示します。

仕訳行No.	勘定科目コード	税トラッキング	配賦値	税率/税域	税目コード	品目No.
1	3.5010	Y	1,600	G10	V	0
2	3.5020	Y	1,400	G10	V	0
3	3.5030	Y	1,500	G20	V	0
4	3.5010	Y	500	G20	V	0
5	3.5040	Y	1,000	G10	V	0

税のタイプはVATであるため、配賦する金額は、請求書の総額に等しくなりません。金額は、請求書の課税対象額に等しくなります。

### レポートの転記

レポートを転記すると、勘定科目の金額が次のように更新されます。

勘定科目	記述	伝票タイプ	金額	
3.5010	売上高1	RI	.	- 2,100
3.5020	売上高2	RI	.	- 1,400
3.5030	売上高3	RI	.	- 1,500
3.5040	売上高4	RI	.	- 1,000
1.1210	売掛金勘定	AE	6,800	.
1.4333	未払VAT G10	AE	.	- 400
1.4444	未払VAT G20	AE	.	- 400

これに従い、F0018テーブルも次のように更新されます。

伝票番号	伝票タイプ	支払項目	課税対象額	税額	税率/ 税域	税目コード	処理済み フラグ
11223	RI	001	1,000	100	G10	V	.
11223	RI	002	2,000	400	G20	V	.
11223	RI	003	3,000	300	G10	V	.

### 税調整リポジトリの更新

税調整リポジトリの更新プログラムを実行すると、各支払項目に対して次の処理が実行されます。

1. テーブルF0018内で未処理 (PROCFLフィールドが1以外) の最初のレコードが検索されます。  
請求書11223、RI、001、G10、V
2. キー・フィールド (伝票番号、伝票タイプ、伝票会社、元帳日付、税率/税域、税目コードおよび課税対象品目No.) に基づき、対応するF0911レコードが検索されます。
  - 3.5010 (1,600)
  - 3.5020 (1,400)
  - 3.5040 (1,000)
3. レコードの金額が合計された後、税率/税域の合計金額のうちの各勘定科目のパーセントが計算されます。

G10
$1,600 + 1,400 + 1,000 = 4,000$ $(1,600 / 4,000) \times 100 = 40\%$ 、 $(1,400 / 4,000) \times 100 = 35\%$ 、 $(1,000 / 4,000) \times 100 = 25\%$

注意: この計算にはソフト丸めが実行されます。

4. パーセントに税額を掛けて、勘定科目ごとの税額が決定されます。

支払項目001 - G10
$0.40 \times 100 = 40$ 、 $0.35 \times 100 = 35$ 、 $0.25 \times 100 = 25$

注意: この計算にはソフト丸めが実行されます。

5. F0018Rテーブルが更新されます。

次の表に、F0018Rテーブルに生成されるレコードを示します。

伝票番号	伝票タイプ	支払項目	勘定科目	仕訳行	金額	税額	税率/税域	税目コード
11223	RI	001	3.5010	1.0	1,600	40	G10	V
11223	RI	001	3.5020	2.0	1,400	35	G10	V
11223	RI	001	3.5040	3.0	1,000	25	G10	V

6. F0018レコードの「処理済みフラグ」フィールド(PROCFL)がPに更新されます。

次の表に、F0018テーブルに生成されるレコードを示します。

伝票番号	伝票タイプ	支払項目	課税対象額	税額	税率/税域	税目コード	処理済みフラグ
11223	RI	001	1,000	100	G10	V	P
11223	RI	002	2,000	400	G20	V	.
11223	RI	003	3,000	300	G10	V	.

7. テーブルF0018内で未処理の2番目のレコード(請求書11223、RI、002、G20、V)が検索されます。
8. 対応するF0911レコードが検索されます。
- 3.5030 (1,500)
  - 3.5010 (500)
9. レコードの金額が合計された後、税率/税域の合計金額のうちの各勘定科目のパーセントが計算されます。

G20
$1,500 + 500 = 1,500$ $(1,500 / 2,000) \times 100 = 75\%$ 、 $(500 / 2,000) \times 100 = 25\%$

10. パーセントに税額を掛けて、勘定科目ごとの税額が決定されます。

支払項目002 - G20
$0.75 \times 400 = 300$ 、 $0.25 \times 400 = 100$

11. テーブルF0018Rが更新されます。

次の表に、F0018Rテーブルに生成されるレコードを示します。

伝票番号	伝票タイプ	支払項目	勘定科目	仕訳行	金額	税額	税率/税域	税目コード
11223	RI	001	3.5010	1.0	1,600	40	G10	V
11223	RI	001	3.5020	2.0	1,400	35	G10	V
11223	RI	001	3.5040	3.0	1,000	25	G10	V
11223	RI	002	3.5030	1.0	1,600	300	G20	V
11223	RI	002	3.5010	2.0	500	100	G20	V

12. F0018レコードの「処理済みフラグ」フィールド(PROCFL)がPに更新されます。

次の表に、F0018テーブルに生成されるレコードを示します。

伝票番号	伝票タイプ	支払項目	課税対象額	税額	税率/税域	税目コード	処理済みフラグ
11223	RI	001	1,000	100	G10	V	P
11223	RI	002	2,000	400	G20	V	P
11223	RI	003	3,000	300	G10	V	.

13. テーブルF0018内で未処理の3番目のレコードが検索されます。

請求書11223、RI、003、G10、V

14. 対応するF0911レコードが検索されます。

15. 3.5010 (1,600)

- 3.5020 (1,400)

- 3.5040 (1,000)

16. 最初と3番目の支払項目は税率/税域と税目コードが同じであるため、比率は同じになります。パフォーマンス上の理由から、再計算は行われません。

G10	
$1,600 + 1,400 + 1,000 = 4,000$ $(1,600 / 4,000) \times 100 = 40\%$ 、 $(1,400 / 4,000) \times 100 = 35\%$ 、 $(1,000 / 4,000) \times 100 = 25\%$	

17. パーセントに税額を掛けて、勘定科目ごとの税額が決定されます。

支払項目003 - G10	
$0.40 \times 300 = 120$ 、 $0.35 \times 300 = 105$ 、 $0.25 \times 300 = 75$	

18. テーブルF0018Rが更新されます。

次の表に、F0018Rテーブルに生成されるレコードを示します。

伝票 番号	伝票 タイプ	支払 項目	勘定 科目	仕訳 行	金額	税額	税率 / 税域	税目 コード
11223	RI	001	3.5010	1.0	1,600	40	G10	V
11223	RI	001	3.5020	2.0	1,400	35	G10	V
11223	RI	001	3.5040	3.0	1,000	25	G10	V
11223	RI	002	3.5030	4.0	1,500	300	G20	V
11223	RI	002	3.5010	5.0	500	100	G20	V
11223	RI	003	3.5010	6.0	1,600	120	G10	V
11223	RI	003	3.5020	7.0	1,400	105	G10	V
11223	RI	003	3.5040	8.0	1,000	75	G10	V

19. F0018レコードの「処理済みフラグ」フィールド(PROCFL)がPに更新されます。

次の表に、F0018テーブルに生成されるレコードを示します。

伝票 番号	伝票 タイプ	支払 項目	課税 対象額	税額	税率/ 税域	税目 コード	処理済み フラグ
11223	RI	001	1,000	100	G10	V	P
11223	RI	002	2,000	400	G20	V	P
11223	RI	003	3,000	300	G10	V	P

## 税調整リポジトリの更新プログラムの実行

「税調整」(G00217)の「税調整リポジトリの更新」を選択します。

## 税調整リポジトリの更新 (R0018R) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

この処理オプションでは、F0018テーブルから選択するレコードを指定します。このレコードを使用して、対応するレコードがF0911テーブルで検索されます。

伝票タイプ	F0018テーブルからレコードを選択するときに使用される伝票タイプを指定します。
税率/税域	F0018テーブルからレコードを取得するときに使用される税率/税域を指定します。
税目コード	F0018テーブルからレコードを選択するときに使用される税目コードを指定します。
元帳日付	F0018テーブルからレコードを選択するときに使用される元帳日付を指定します。入力した日付以降の元帳日付を持つレコードが選択されます。

## 税調整リポジトリの検討

この項では、税調整リポジトリの検討の概要と、税調整リポジトリの検討に使用するフォームについて説明します。

### 税調整リポジトリの検討方法について

税調整リポジトリの検討 (P0018R) プログラムを使用して税レコードを検討すると、F0018Rテーブルの全レコードが自動的に表示されます。QBE行を使用すると、表示されるレコードの数を制限できます。F0018Rテーブルのレコードは追加、削除または改訂できません。変更は、取引テーブルに行った後で、F0018Rテーブルに反映する必要があります。

### 税調整リポジトリのレコードの検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
税調整リポジトリの処理	W0018RA	「税調整」(G00217)、「税調整リポジトリの検討」	税調整レコードを検討します。

## 第 6 章

# VAT の 処 理

この章では、VAT（付加価値税）の用語および原則の概要について説明します。

---

### VAT の 用 語 お よ び 原 則 に つ い て

VATは、製造流通工程の各段階で納税先が課税する非累積税です。VATを処理する場合、次の用語および原則を理解しておく必要があります。

<p>アウトプットVAT</p>	<p>商品およびサービスの供給者は、VATを自社の正味価格に加算する必要があります。そして、商品の場合は請求書の発行日に、サービスの場合は支払の受取り日に、アウトプットVATを記録する必要があります。VATの金額は、該当の商品およびサービスの正味販売価格に特定の率を適用することで決定されます。</p> <p>アウトプットVATは次のように呼ばれる場合もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• AP仮払VAT</li> <li>• 還付可能VAT</li> <li>• 回収可能VAT</li> </ul>
<p>インプットVAT</p>	<p>インプットVATは、商品およびサービスの購入者が支払うVATです。</p> <p>購入者がアウトプットVATの対象となる場合、購入者はインプットVATをアウトプットVATと相殺することで、インプットVATを埋め合せることができます。インプットVATがアウトプットVATを超える場合は、納税先の方針に応じて、購入者はVAT残高を納税先への債権として次の報告期間へ繰り越すか、現金の還付を受けることができます。</p> <p>インプットVATは次のように呼ばれる場合もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• AR未払VAT</li> <li>• 控除可能VAT</li> </ul>
<p>還付不可インプットVAT</p>	<p>インプットVATは、次の対象では還付不可となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事業経営に必要ではない商品およびサービス</li> <li>• 接待に関連する費用</li> <li>• 人の輸送</li> <li>• 転換後に転売される石油系燃料および潤滑剤</li> <li>• 無償または著しく下げられた価格で提供される商品</li> <li>• 車の購入</li> <li>• 通常は還付の権利のない商品に関連するサービス</li> </ul>

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションでサポートしている国の多くには、VAT処理に関する国固有の情報がありません。サポートしている国のVATに関する情報は、各国のドキュメンテーションを参照してください。

## 付録 A

# Vertex Sales Tax Q SeriesシステムからJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアへのフィールドのマッピング

フィールド・マップでは、Vertexレジスタで印刷されるデータをJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアからSales Tax Q Seriesシステムに渡す際に使用されるフィールドを示します。データを保持するJD Edwards EnterpriseOneのフィールドと、データを受け取るSales Tax Q Seriesのフィールドの間には、1対1の関係があります。

またフィールド・マップでは、JD Edwards EnterpriseOneによってGeoCode(地理コード)が渡されるJD Edwards EnterpriseOne住所録のフィールドの選択階層も示します。この階層は、税目コードと、税率の決定に使用される住所によって異なります。

この章では、次のシステムのマップについて説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理およびJD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne調達管理

---

## JD Edwards EnterpriseOne買掛管理

次の各表に、買掛金元帳テーブルへのマッピングと、住所選択階層を示します。

### 買掛金元帳テーブル(F0411)

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
Invoice Date	RPDGJ(F0411)	伝票の元帳日付は、Vertexの「Invoice Date」フィールドの日付に等しくなります。
Line Item Extended Amt	RPATXA(F0411)	.
Quantity	1.0000	.
Line Item Number	RPSFX(F0411)	.
Transaction Type	1	Vertexでは1はPURCHとして記録されます。

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
Transaction Code	0	.
Register File Indicator	1またはNULL	.
Ship-To Address	RPTXA1 (F0411)	GeoCodeは、「住所選択階層」の階層に従って、伝票のビジネスユニットに割り当てられます。  F0411テーブルには1つのGeoCodeのみが保存されます。使用する住所は、Vertexで設定されている規則によって決定されます。
Ship-From Address	RPTXA1 (F0411)	GeoCodeは、「住所選択階層」の階層に従って、伝票の住所番号の仕入先マスター・レコード(F0401)に割り当てられます。  F0411テーブルには1つのGeoCodeのみが保存されます。使用する住所は、Vertexで設定されている規則によって決定されます。
Order-Acceptance Address	RPTXA1 (F0411)	GeoCodeは、「住所選択階層」の階層に従って、伝票の住所番号の仕入先マスター・レコード(F0401)に割り当てられます。  F0411テーブルには1つのGeoCodeのみが保存されます。使用する住所は、Vertexで設定されている規則によって決定されます。
Company Code	RPCO (F0411)	.
Division Code	NULL	.
Customer Code	RPAN8 (F0411)	Vertexの顧客コードは、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの仕入先住所録番号に等しくなります。
Customer Class	NULL	.
Product Code	NULL	.
Product Set Code	NULL	.
Component Code	NULL	.
Invoice Number	RPDOC (F0411)	伝票番号は、「Invoice Number」フィールドの値に等しくなります。

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
Invoice Control Number	NULL	.
User Area	PV ++ RPDOG ++ RPKCO	.
Store Code	NULL	.

## 住所選択階層

次の各表に、買掛管理の税目コード別の出荷先、出荷元およびオーダー承認を示します。

### 買掛管理、税目コードUまたはE

出荷先	出荷元	オーダー承認
<p>1. GeoCodeが伝票のビジネスユニットに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。GeoCodeがビジネスユニットに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>2. 伝票のビジネスユニットの住所番号について、GeoCodeが仕入先マスター・レコード(F0401)に割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。住所番号がビジネスユニットに割り当てられていない場合、またはGeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>3. 伝票のビジネスユニットの会社の住所番号について、GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>4. 住所番号が会社に割り当てられていない場合、またはGeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	<p>1. GeoCodeが伝票の住所番号の仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>2. GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	「出荷元」の階層と同様です。

## 買掛管理、税目コード

出荷先	出荷元	オーダー承認
<p>1. GeoCodeが伝票のビジネスユニットに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。GeoCodeがビジネスユニットに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>2. 伝票のビジネスユニットの住所番号について、GeoCodeが仕入先マスター・レコード(F0401)に割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。住所番号がビジネスユニットに割り当てられていない場合、またはGeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>3. 伝票のビジネスユニットの会社の住所番号について、GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>4. 住所番号が会社に割り当てられていない場合、またはGeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	<p>1. GeoCodeが伝票の住所番号の仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>2. GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	「出荷先」の階層と同様です。

## JD Edwards EnterpriseOne売掛管理

次の表に、売掛金元帳テーブルに対するVertexのフィールド、渡される値およびコメントを示します。

## 売掛金元帳テーブル(F03B11)

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
Invoice Date	RPDSVJ(F03B11)	.
Line Item Extended Amt	RPATXA(F03B11)	.
Quantity	1.0000	.
Line Item Number	RPSFX(F03B11)	.
Transaction Type	0	Vertexでは0はSALEとして記録されます。

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
Transaction Code	0	.
Register File Indicator	1またはNULL	.
Ship-To Address	RPTXA1 (F03B11)	F03B11テーブルでは、出荷先住所は、請求書の住所番号の顧客マスター・レコードに割り当てられているGeoCodeになります。  F03B11テーブルには1つのGeoCodeのみが保存されます。使用する住所は、Vertexで設定されている規則によって決定されます。
Ship-from Address	RPTXA1 (F03B11)	F03B11テーブルでは、出荷元住所は、「住所選択階層」の階層に従って請求書のビジネスユニットに割り当てられるGeoCodeになります。  F03B11テーブルには1つのGeoCodeのみが保存されます。使用する住所は、Vertexで設定されている規則によって決定されます。
Order-Acceptance Address	RPTXA1 (F03B11)	F03B11テーブルでは、オーダー承認住所は、「住所選択階層」の階層に従って請求書のビジネスユニットに割り当てられるGeoCodeになります。  F03B11テーブルには1つのGeoCodeのみが保存されます。使用する住所は、Vertexで設定されている規則に従って選択されます。
Company Code	RPCO (F03B11)	.
Division Code	NULL	.
Customer Code	RPAN8 (F03B11)	.
Customer Class	NULL	.
Product Code	NULL	.
Product Set Code	NULL	.
Component Code	NULL	.
Invoice Number	RPDOC (F03B11)	.
Invoice Control Number	NULL	.

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
User Area	RI ++ RPDOC ++ RPKCO	.
Store Code	NULL	.

## 住所選択階層

次の表に、売掛管理の売上税の出荷先、出荷元およびオーダー承認を示します。

### 売掛管理 - 売上税

出荷先	出荷元	オーダー承認
<p>1. GeoCodeが請求書の住所番号の顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>2. GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	<p>1. GeoCodeが請求書のビジネスユニットに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。GeoCodeがビジネスユニットに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>2. 請求書のビジネスユニットの住所番号について、GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。住所番号がビジネスユニットに割り当てられていない場合、またはGeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>3. 請求書のビジネスユニットの会社の住所番号について、GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>4. 住所番号が会社に割り当てられていない場合、またはGeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	「出荷元」の階層と同様です。

## JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理およびJD Edwards EnterpriseOneサービス管理

次の表に、請求明細ワークファイル・テーブルに対するVertexのフィールド、渡される値およびコメントを示します。

## 請求明細ワークファイル・テーブル (F4812)

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
Invoice Date	WDDSVJ (F4812)	.
Line Item Extended Amt	WDITXA (F4812)	.
Quantity	1.0000	.
Line Item Number	WDSFX (F4812)	.
Transaction Type	WDVVTY (F4812)	<p>JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理: 税決定基準テーブル・プログラム (P48127) で値が入力されない場合、値SERVICがデフォルトで提供されます。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理: 契約請求行明細プログラム (P5202) で値が入力されない場合、SERVICがデフォルトで提供されます。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOneサービス管理: このフィールドには、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理システムに入力されている取引に基づいて値が入力されます。</p>
Transaction Code	0	.
Register File Indicator	1	.
Ship-To Address	WDTXA1 (F4812)	<p>GeoCodeは、「住所選択階層」の該当の階層に従って選択されます。</p> <p>使用する住所は、Vertexで設定されている規則によって決定されます。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理およびJD Edwards EnterpriseOne契約請求管理では、3つの住所番号がすべて渡されます。</p>
Ship-From Address	WDTXGCSF (F4812)	<p>GeoCodeは、「住所選択階層」の該当の階層に従って選択されます。</p> <p>使用する住所は、Vertexで設定されている規則によって決定されます。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理およびJD Edwards EnterpriseOne契約請求管理では、3つの住所番号がすべて渡されます。</p>

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
Order-Acceptance Address	WDGCOA (F4812)	GeoCodeは、「住所選択階層」の該当の階層に従って選択されます。 使用する住所は、Vertexで設定されている規則によって決定されます。 JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理およびJD Edwards EnterpriseOne契約請求管理では、3つの住所番号がすべて渡されます。
Company Code	WDCO (F4812)	.
Division Code	NULL	.
Customer Code	WDAN80 (F4812)	.
Product Code	WDVVTC (F4812)	JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理: 税決定基準テーブル・プログラム (P48127) で値が入力されない場合、デフォルトはブランクになります。 JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理: 契約請求行明細プログラム (P5202) で値が入力されない場合、デフォルトはブランクになります。 JD Edwards EnterpriseOneサービス管理: このフィールドには、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理システムに入力されている取引に基づいて値が入力されます。
Product Set Code	NULL	.
Component Code	NULL	.
Invoice Number	WDDOCZ (F4812)	.
Invoice Control Number	NULL	.
User Area	NULL	.
Store Code	NULL	.

## 住所選択階層

次の表に、契約請求管理およびサービス請求管理の売上税の出荷先、出荷元およびオーダー承認を示します。

## JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理およびJD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理 – 売上税

出荷先	出荷元	オーダー承認
<p>1. GeoCodeが請求書の住所番号の顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>2. GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	<p>1. GeoCodeが請求書のビジネスユニットに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。GeoCodeがビジネスユニットに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>2. 請求書のビジネスユニットの住所番号について、GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。住所番号がビジネスユニットに割り当てられていない場合、またはGeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>3. 請求書のビジネスユニットの会社の住所番号について、GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>4. 住所番号が会社に割り当てられていない場合、またはGeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	「出荷元」の階層と同様です。

## JD Edwards EnterpriseOneサービス管理システム – 契約の売上税

次の表に、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理システムの契約の売上税の出荷先、出荷元およびオーダー承認を示します。

出荷先	出荷元	オーダー承認
<p>1. GeoCodeが契約明細行のサイト住所番号の顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>2. GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	<p>1. GeoCodeが契約明細行のビジネスユニットに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。GeoCodeがビジネスユニットに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>2. 契約明細行のビジネスユニットの住所番号について、GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。住所番号がビジネスユニットに割り当てられていない場合、またはGeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	<p>1. GeoCodeが契約見出しのビジネスユニットに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。GeoCodeがビジネスユニットに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>2. 契約見出しのビジネスユニットの住所番号について、GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。住所番号がビジネスユニットに割り当てられていない場合、またはGeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>

## JD Edwards EnterpriseOneサービス管理システム - サービス・オーダーの売上税

次の表に、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理システムのサービス・オーダーの売上税の出荷先、出荷元およびオーダー承認を示します。

出荷先	出荷元	オーダー承認
<p>1. GeoCodeがサービス・オーダーのサイト住所番号の顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>2. GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	<p>1. GeoCodeがサービス・オーダーの担当ビジネスユニットに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。GeoCodeが担当ビジネスユニットに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>2. サービス・オーダーの担当ビジネスユニットの住所番号について、GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。住所番号が担当ビジネスユニットに割り当てられていない場合、またはGeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	「出荷元」の階層と同様です。

## JD Edwards EnterpriseOneサービス管理システム - サービス・オーダーの使用税

次の表に、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理システムのサービス・オーダーの使用税の出荷先、出荷元およびオーダー承認を示します。

出荷先	出荷元	オーダー承認
<p>1. GeoCodeがサービス・オーダーの担当ビジネスユニットに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。GeoCodeが担当ビジネスユニットに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>2. サービス・オーダーの担当ビジネスユニットの住所番号について、GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。住所番号が担当ビジネスユニットに割り当てられていない場合、またはGeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	<p>1. GeoCodeがサービス・オーダーのサイト住所番号の仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>2. GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	「出荷先」の階層と同様です。

## JD Edwards EnterpriseOne 受注管理

次の表に、受注オーダー明細テーブルおよび受注オーダー見出しテーブルに対するVertexのフィールド、渡される値およびコメントを示します。

### 受注オーダー明細(F4211)および受注オーダー見出し(F4201)テーブル

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
Invoice Date	SDTRDJ (F4211)	.
Line Item Extended Amt	SDAEXP (F4211)	.
Quantity	SDSOQS	JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムに対しては、Vertexでは実績数量が使用されます。
Line Item Number	000	.
Transaction Type	0	Vertexでは0はSALEとして記録されます。
Transaction Code	0	.
Register File Indicator	1またはNULL	.
Ship-To Address	SDTXA1 (F4211)	F4211テーブルでは、GeoCodeは顧客の出荷先住所録番号に関連付けられます。
Ship-From Address	SHMCU (F4201) から取得	GeoCodeは、「住所選択階層」の階層に従って、明細の事業所の住所録番号に関連付けられます。
Order-Acceptance Address	SOMCU (F4211) から取得	GeoCodeは、「住所選択階層」の階層に従って、明細の事業所の住所録番号に関連付けられます。
Company Code	SDKCO (F4211)	.
Division Code	F0101の値	F0101カテゴリ・コードは、Quantum固定情報の事業所に関連付けられます。
Customer Code	SDSHAN (F4211)	.
Customer Class	F0101の値	F0101カテゴリ・コードは、Quantum固定情報で指定されているSHANフィールド(出荷先住所番号)に関連付けられます。

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
Product Code	在庫品目の場合、品目/事業所の製品カテゴリIDに関連付けられているカテゴリ・コードがQuantum固定情報で指定されます。  非在庫品目の場合、製品コードはオーダー・タイプと行タイプの組合せに基づいてF7307テーブルから取得されます。	.
Product Set Code	NULL	.
Component Code	NULL	.
Invoice Number	SDDOCO (F4211)	.
Invoice Control Number	NULL	.
User Area	SDDCTO ++ SDDOCO + SDKCO (F4211)	.
Store Code	NULL	.

## 住所選択階層

次の表に、出荷先、出荷元およびオーダー承認の住所選択階層を示します。

出荷先	出荷元	オーダー承認
<p>1. GeoCodeがオーダー明細行の住所番号の顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>2. GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	<p>1. GeoCodeがオーダー明細行の事業所に割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。GeoCodeが事業所に割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>2. オーダー明細行の事業所の住所番号について、GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。住所番号が事業所に割り当てられていない場合、またはGeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>3. オーダー明細行の事業所の会社の住所番号について、GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>4. 住所番号が会社に割り当てられていない場合、またはGeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	<p>1. GeoCodeがオーダー見出しの事業所に割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。GeoCodeがビジネスユニットに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>2. オーダー見出しの事業所の住所番号について、GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。住所番号が事業所に割り当てられていない場合、またはGeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>3. オーダー見出しの事業所の会社の住所番号について、GeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>4. 住所番号が会社に割り当てられていない場合、またはGeoCodeが顧客マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>

## JD Edwards EnterpriseOne 調達管理

次の各表に、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理およびJD Edwards EnterpriseOne住所録の次のテーブルに対するVertexのフィールド、渡される値およびコメントを示します。

- F43121
- F4301
- F4311
- F0101

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
Invoice Date	PRDGL (F43121)	.
Quantity	PRUREC (F43121)	この値は、受領した商品の数量に等しくなります。
Line Item Number	PRSFY (F43121)	.

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
Transaction Type	1	税目コードがUの場合、Vertexでは1はPURCHとして記録されます。 税目コードがSの場合、Vertexでは0はSALESとして記録されます。
Transaction Code	0	.
Register File Indicator	1	.
Ship-to Address	PHMCU (F4301) から取得	GeoCodeは、「住所選択階層」の階層に従って、オーダー明細行の事業所に割り当てられます。
Ship-from Address	PRTXA1 (F43121)	F43121テーブルでは、GeoCodeは、「住所選択階層」の階層に従って、オーダー明細行の住所番号の仕入先マスター・レコードに割り当てられます。
Order-acceptance Address	PDMCU (F4311) から取得	GeoCodeは、「住所選択階層」の階層に従って、オーダー見出しの事業所に割り当てられます。
Company Code	PRKCOO (F43121)	.
Division Code	F0101テーブルの値	この値は、Quantum固定情報に定義されている見出し事業所の住所に関連付けられます。
Customer Code	PRAN8 (F43121)	.
Customer Class	F0101テーブルの値	顧客クラスは、Quantum固定情報に定義されている仕入先住所番号に関連付けられている、F0101テーブル内のカテゴリ・コードです。
Product Code	在庫品目の場合、Quantum固定情報で指定されている品目/事業所の製品カテゴリ1Dに関連付けられているカテゴリ・コード。 非在庫品目の場合、製品コードは伝票タイプと行タイプの組合せに基づいてF7307テーブルから取得されます。	.
Product Set Code	NULL	.
Component Code	NULL	.

Vertexのフィールド	JD Edwards EnterpriseOneのフィールドまたは渡される値	コメント
Invoice Number	PRDOC (F43121)	このフィールドは、伝票照合 (P4314) 中に、購買オーダーに割り当てられている伝票番号で更新されます。
Invoice Control Number	NULL	.
User Area	PRDCTO + + PRDOC + + PRKCOO	.
Store Code	NULL	.

## 住所選択階層

次の表に、調達管理の使用税の出荷先、出荷元およびオーダー承認を示します。

### JD Edwards EnterpriseOne調達管理 - 使用税

出荷先	出荷元	オーダー承認
<p>1. GeoCodeがオーダー明細行の事業所に割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。GeoCodeがビジネスユニットに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>2. オーダー明細行の事業所の住所番号について、GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。住所番号が事業所に割り当てられていない場合、またはGeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>3. オーダー明細行の事業所の会社の住所番号について、GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>4. 住所番号が会社に割り当てられていない場合、またはGeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	<p>1. GeoCodeがオーダー明細行の住所番号の仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>2. GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>	<p>3. GeoCodeがオーダー見出しの事業所に割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。GeoCodeがビジネスユニットに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>4. オーダー見出しの事業所の住所番号について、GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。住所番号が事業所に割り当てられていない場合、またはGeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、次のステップに進みます。</p> <p>5. オーダー見出しの事業所の会社の住所番号について、GeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられている場合は、そのGeoCodeを選択します。</p> <p>6. 住所番号が会社に割り当てられていない場合、またはGeoCodeが仕入先マスター・レコードに割り当てられていない場合は、エラーを設定します。</p>



## 付録 B

# JD Edwards EnterpriseOne 税処理レポート

この付録では、税処理レポートの概要について説明し、次の情報を提供します。

- 全レポートの一覧表
- 主なレポートの詳細

## JD Edwards EnterpriseOne 税処理のすべてのレポート

次の表に、税処理レポートをレポートID順に示します。1つの国に4つ以上のレポートが適用される場合、レポートは国別に個別のテーブルにリストされます。

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R0018P 税明細/集計	このプログラムを使用して、取引の明細を税 (F0018) テーブルからリストし、各税率/税域、各伝票タイプの合計を会社別に表示します。	「税処理およびレポート」(G0021)、 「税明細/集計」
R0018P1 税集計レポート/付加価値税	このプログラムを使用して、各税率/税域、各会社の合計のみを印刷します。	「税処理およびレポート」(G0021)、 「税集計レポート/付加価値税」
R0018P2 売上税	このプログラムを使用して、取引の明細をF0018テーブルから印刷し、各税率/税域、各伝票タイプの合計を会社別に表示します。	「税処理およびレポート」(G0021)、 「売上税」
R0018P7 付加価値税例外レポート(納税先別)	このレポートを使用して、ユーザーが入力した税額が自動計算の税額と異なる取引を識別します。このレポートには、各金額、金額の差異および差異パーセントが表示されます。	「税処理およびレポート」メニュー (G0021)、 「付加価値税例外レポート(納税先別)」
R0018R01 略式ID別調整済み税レポート	このプログラムを使用して、F0018R テーブルの各取引(伝票番号別に合計された取引)を略式ID別に印刷します。  合計はレポートには印刷されません。	「税調整」メニュー (G00217)、 「略式ID別調整済み税レポート」

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R0018R02 税域別調整済み税レポート	このプログラムを使用して、F0018Rテーブルの各取引(伝票番号別に合計された取引)を税率/税域別に印刷します。  合計はレポートには印刷されません。	「税調整」メニュー(G00217)、「税域別調整済み税レポート」
R00320 税仕訳	このプログラムを使用して、VAT額を調整のために収益および費用勘定別に印刷します。	「税処理およびレポート」(G0021)、「税仕訳」

## JD Edwards EnterpriseOne税処理の主なレポート

一部のレポートについて、処理オプションの情報などをより詳細に説明します。この付録では、これらのレポートをレポートID順に示します。

### R0018P - 税明細/集計レポート

税明細/集計レポート(R0018P)には、取引の明細がF0018テーブルからリストされ、各税率/税域、各伝票タイプの合計が会社別に表示されます。

**注意:** ユーザーが入力した税額の値が自動計算の税額と異なる場合は、税額一時変更カラム(TO)に\*が表示されます。

#### 仮定通貨を使用したレポート作成

このレポートには、仮定通貨処理を使用できます。この処理では、会社の基本通貨以外の通貨で税額を印刷できます。この税レポートの仮定通貨処理は、為替レート計算の逆換算禁止方法に従っています。これは、EMUメンバー通貨に対する法的要件です。この税レポートでは、金額は別の通貨で入力されたものとして印刷されますが、税テーブルへの金額の書込みや反映は行われません。

#### EU加盟国間のレポート作成

このレポートには、EU加盟国間フラグの値用のカラムがあります(カラム見出しはIC)。取引にEU加盟国間の税が含まれる場合、このカラムにYが表示されます。またこのレポートでは、EU加盟国間の税の合計が個別に表示されます。

#### データ選択およびデータ順序

このレポートには4つのバージョンがあり、データ選択およびデータ順序は各バージョンで異なります。任意のバージョンのデータ選択を変更できますが、データ順序は変更しないでください。レポートの合計は、設定されているデータ順序によって異なります。データ順序を変更すると、予期せぬ結果が生じます。

### 税明細/集計(R0018P)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 税レポート

1. 明細レコード 明細レコードが読取り済であることを示すフラグを設定するには、「1」を入力します。

## 仮定通貨

1. 通貨コード 仮定通貨を使用したレポート作成のための通貨コードを入力します。このオプションを設定すると、システムに保存されている通貨以外の通貨で金額を印刷できます。金額はこの仮定通貨に換算されて印刷されます。この処理オプションを空白にすると、金額はデータベースに保存されている通貨で印刷されます。
2. 日付 仮定通貨の現行為替レートを処理する基準日を入力します。空白にすると、システム日付が使用されます。

## 日付

1. 開始日付、2. 終了日付 開始日付または終了日付を入力します。

## R0018P1 – 税集計レポート/付加価値税

取引の明細情報が不要な場合は、税集計レポート/付加価値税レポート(R0018P1)を印刷できます。このレポートでは、各税率/税域、各会社の合計のみが表示されます。

### EU加盟国間のレポート作成

前述のカラムに加えて、税集計レポート/付加価値税レポートには、EU加盟国間のレポート作成のための次のカラムもあります。

- EU加盟国間の課税対象額
- EU加盟国間の税

## 税集計レポート/付加価値税(R0018P1)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 税レポート

1. レコード 明細レコードが読取り済であることを示すフラグを設定するには、「1」を入力します。

## 仮定通貨

1. 通貨コード 仮定通貨を使用したレポート作成のための通貨コードを入力します。このオプションを設定すると、システムに保存されている通貨以外の通貨で金額を印刷できます。金額はこの仮定通貨に換算されて印刷されます。空白にすると、金額はデータベースに保存されている通貨で印刷されます。
2. 日付 仮定通貨の現行為替レートを処理する基準日を入力します。空白にすると、システム日付が使用されます。

## 日付

1. 開始日付、2. 終了日付 開始日付または終了日付を入力します。

## R0018P2 - 売上税

売上税レポート(R0018P2)には、取引の明細がF0018テーブルから表示され、各税率/税域、各伝票タイプの合計が会社別に表示されます。

売上税レポートの印刷を選択すると、次のレポートも追加で処理および印刷されます。

- 納税先別の税集計レポート(R0018P3)

このレポートでは、各税率、各会社の納税先別の合計のみが印刷されます。

- 納税先別の税明細レポート(R0018P5)

このレポートでは、各納税先、各税率の各取引が印刷され、各会社の納税先別の合計が表示されます。

納税先別の税集計レポートおよび納税先別の税明細レポートには、処理オプションはありません。このレポートのデータ選択を変更するには、新しいバージョンの売上税レポート(R0018P2)を作成する必要があります。新しいバージョンで、必要なデータ選択を設定し、バージョンをチェックインし、バージョンをローカルで実行します。

売上税レポートには、実行するR0018P3およびR0018P5レポートのバージョンを指定する処理オプションがあります。

## 売上税(R0018P2)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### UBEバージョン

1. 納税先別の税集計レポートのバージョン 納税先別の税集計レポート(R0018P3)の標準の呼出しを一時変更するには、一時変更バージョン番号を入力します。ブランクにした場合、ZJDE0001がデフォルトになります。

2. 納税先別の税明細レポートのバージョン 納税先別の税明細レポート(R0018P5)の標準の呼出しを一時変更するには、一時変更バージョン番号を入力します。ブランクにした場合、ZJDE0001がデフォルトになります。

## R0018P7 - 付加価値税例外レポート(納税先別)

付加価値税例外レポート(納税先別)(R0018P7)を実行して、ユーザーが入力した税額が自動計算の税額と異なる取引を識別します。このレポートには、各金額、金額の差異および差異パーセントが表示されます。

### 仮定通貨を使用したレポート作成

このレポートには、仮定通貨処理を使用できます。この処理では、会社の基本通貨以外の通貨で税額を印刷できます。この税レポートの仮定通貨処理は、為替レート計算の逆換算禁止方法に従っています。これは、EMUメンバー通貨に対する法的要件です。この税レポートでは、金額は別の通貨で入力されたものとして印刷されますが、税テーブルへの金額の書込みや反映は行われません。

## データ選択

このレポートのデータ選択は、税目コードV (VAT) のみに設定されています。ただし、このデータ選択を変更し、任意またはすべての税目コードに対してレポートを実行することが可能です。レポートに表示される合計は、設定されているデータ順序によって異なります。このため、このレポートのデータ順序は変更しないでください。

## 付加価値税例外レポート(納税先別)(R0018P7)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 仮定通貨

1. 通貨コード  
仮定通貨を使用したレポート作成のための通貨コードを入力します。このオプションを設定すると、システムに保存されている通貨以外の通貨で金額を印刷できます。金額はこの仮定通貨に換算されて印刷されます。空白の場合、金額は基本通貨で印刷されます。
2. 日付  
仮定通貨の現行為替レートを処理する基準日を入力します。空白にすると、システム日付が使用されます。

## R00320 - 税仕訳

ヨーロッパ全体の一般的な商慣行では、VATは収益および費用勘定別にトラッキングおよび調整されます。

各取引を課税対象または非課税として分類することで、VATを収益および費用勘定別にトラッキングおよび調整できます。また、各取引の分類には様々な理由を設定できます。取引の税情報は、F0018テーブルに保存されます。

税仕訳プログラムを実行し、VATレポートを印刷します。このレポートには、税テーブルのレコードのうち、データ選択および処理オプションの基準を満たす全レコードが表示されます。

税仕訳レポート(R00320)は取引の明細レポートであり、最大で5つのカスタム・カラムを指定でき、最大で12の異なる税率/税域を表すことができます。また、カラムの金額が課税対象額か税額かも指定できます。税仕訳のユーザー定義コード(UDC)(00/VJ)に、レポートに印刷する税率/税域を表すコードを設定し(最大5つ)、カラム番号(1から5)を「特殊取扱」フィールドに指定します。処理オプションでは、カラム見出しテキストを指定でき、税額と課税対象額のどちらをカラムに印刷するかを制御できます。

たとえば、税率/税域がニューヨークの課税対象額を最初のカラムに、オンタリオの課税対象額を2番目のカラムに、ケベックの課税対象額を3番目のカラムに、などの指定が可能です。

VATレポートを印刷して、受注に対する税または購買に対する税を検討できます。受注または購買に対する税を指定するには、伝票タイプをデータ選択で指定します。たとえば、購買のVATレポートを印刷するには、伝票タイプPVを指定します。

VATレポートの順序は、テーブルF0018の任意のフィールドを使用して設定できます。最も一般的なレポートの順序は次のとおりです。

1. 会社
2. 伝票タイプ
3. 伝票番号



「特殊取扱」フィールドの値が3の場合、GMYの金額がレポートのカラム3に印刷されます。

**7. カラム4の上部見出し、  
8. カラム4の下部見出し**

4番目のカラムの見出しの上部と下部のタイトルを指定します。各カラムには、定義可能な上部および下部見出しがあります。

金額は、カラム番号に対応する値がUDC(00/VJ)の「特殊取扱」フィールドに指定されている税率/税域から取得されます。たとえば、UDC値ITLの「特殊取扱」フィールドの値が4の場合、ITLの金額がレポートのカラム4に印刷されます。

**9. カラム5の上部見出し、  
10. カラム5の下部見出し**

5番目のカラムの見出しの上部と下部のタイトルを指定します。各カラムには、定義可能な上部および下部見出しがあります。

金額は、カラム番号に対応する値がUDC(00/VJ)の「特殊取扱」フィールドに指定されている税率/税域から取得されます。たとえば、UDC値SPNの「特殊取扱」フィールドの値が5の場合、SPNの金額がレポートのカラム5に印刷されます。

## 処理

### 1. 総額の計算

“総額 = 商品金額 + VAT”という定義を使用して、レポートに表示される総額の計算方法を指定します。総額の計算方法は、取引に入力した税目コードによって異なります。たとえば、税目コードがVT(税のみ)の場合、総額は税額に等しくなります。税目コードがVの場合、総額は、入力した値に応じて、(課税対象額 + 非課税額 + 税額)、(課税対象額 + 税額)または非課税額のみになります。値は次のとおりです。

#### ブランク

総額は、(課税対象額 + 税額)と非課税額のうち、該当する方の額として計算されます。

1

総額は、該当する場合、(課税対象額 + 非課税額 + 税額)として計算されます。



# JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。  JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne 供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。  JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne 売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne 買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。  “ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

<b>BPEL</b>	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
<b>BPEL PM</b>	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
<b>ビルド構成ファイル</b>	ANTスクリプトを生成するプログラムで使用される、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
<b>ビルド・エンジニア</b>	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
<b>ビルド・プログラム</b>	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
<b>ビジネス・アナリスト</b>	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
<b>ビジネス関数</b>	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます(在庫照会、作業オーダー発注など)。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック(Credit Check)や在庫照会(Item Availability)などがあげられます。
<b>ビジネス関数イベント・ルール</b>	“ネームド・イベント・ルール(NER)”の説明を参照してください。
<b>ビジネス・サービス</b>	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
<b>ビジネス・サービス・アーティファクト</b>	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
<b>ビジネス・サービス・クラス・メソッド</b>	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
<b>ビジネス・サービス構成ファイル</b>	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertieなど(他にもある)の構成ファイルです。
<b>ビジネス・サービス相互参照</b>	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
<b>ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ</b>	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
<b>ビジネス・サービス開発環境</b>	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
<b>ビジネス・サービス開発ツール</b>	JDeveloperという名前でも知られています。
<b>ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト</b>	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

<b>ビジネス・サービス・フレームワーク</b>	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
<b>ビジネス・サービス・ペイロード</b>	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ</b>	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール</b>	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
<b>ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ</b>	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
<b>ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化</b>	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ・キー</b>	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ</b>	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用されるユーティリティAPIです。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ値</b>	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
<b>ビジネス・サービス・リポジトリ</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
<b>ビジネス・サービス・サーバー</b>	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
<b>ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の一つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
<b>ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート</b>	Cビジネス関数で使用される、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
<b>ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ</b>	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
<b>ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト</b>	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
<b>ビジネス・ビュー</b>	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOneテーブル(複数可)から、特定の列を選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定の行を選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
<b>セントラル・オブジェクトのマージ</b>	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
<b>セントラル・サーバー</b>	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。

<b>チャート</b>	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
<b>チェックイン・リポジトリ</b>	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
<b>コネクタ</b>	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間でロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
<b>相殺/相手勘定</b>	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
<b>コントロール・テーブル・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
<b>コントロール・テーブルのマージ</b>	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
<b>関連データ</b>	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
<b>コスト割当</b>	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
<b>原価要素</b>	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
<b>資格証明</b>	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
<b>相互参照ユーティリティ・サービス</b>	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
<b>セグメント間編集</b>	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
<b>通貨再換算</b>	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
<b>cXML</b>	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
<b>データベース資格証明</b>	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
<b>データベース・サーバー</b>	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

<b>データ・ソース・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
<b>期間パターン</b>	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
<b>指定通貨</b>	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
<b>デプロイメント・アーティファクト</b>	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
<b>デプロイメント・サーバー</b>	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
<b>明細情報</b>	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
<b>ダイレクト接続</b>	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
<b>DNT (Do Not Translate)</b>	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
<b>2重価格設定</b>	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
<b>重複した公開ビジネス・サービス承認レコード</b>	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
<b>埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス</b>	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
<b>編集コード</b>	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
<b>編集モード</b>	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
<b>編集ルール</b>	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
<b>電子データ交換 (EDI)</b>	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
<b>埋込みイベント・ルール</b>	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
<b>従業員ワーク・センター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
<b>エンタープライズ・サーバー</b>	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

<b>ESB (Enterprise Service Bus)</b>	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
<b>EnterpriseOne管理者</b>	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
<b>EnterpriseOne資格証明</b>	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
<b>EnterpriseOneオブジェクト</b>	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
<b>EnterpriseOne開発クライアント</b>	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
<b>EnterpriseOne拡張機能</b>	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
<b>EnterpriseOneプロセス</b>	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
<b>EnterpriseOneリソース</b>	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
<b>環境ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
<b>エスカレーション・モニター</b>	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
<b>イベント・ルール</b>	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
<b>明示的トランザクション</b>	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
<b>公開されたメソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
<b>施設、事業所</b>	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
<b>略式コマンド</b>	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
<b>ファイル・サーバー</b>	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、ネット

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
<b>最終モード</b>	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
<b>基盤</b>	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBjがあげられます(この他にもあります)。
<b>FTPサーバー</b>	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに回答するサーバーです。
<b>見出し情報</b>	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
<b>HTTPアダプタ</b>	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
<b>インスタンス化</b>	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
<b>統合開発者</b>	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
<b>インテグレーション・ポイント(IP)</b>	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
<b>インテグレーション・サーバー</b>	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
<b>整合性テスト</b>	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
<b>インターフェイス・テーブル</b>	“Zテーブル”の説明を参照してください。
<b>内部メソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
<b>インタオペラビリティ・モデル</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
<b>エラー表示の有効化</b>	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
<b>IServerサービス</b>	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
<b>代替ラベル</b>	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
<b>Javaアプリケーション・サーバー</b>	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
<b>JDBNET</b>	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

<b>JDEBASEデータベース・ミドルウェア</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
<b>JDECallObject</b>	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
<b>jde.ini</b>	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
<b>JDEIPC</b>	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
<b>jde.log</b>	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
<b>JDENET</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
<b>JDeveloperプロジェクト</b>	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
<b>JDeveloperワークスペース</b>	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
<b>JMSキュー</b>	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
<b>リスナー・サービス</b>	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
<b>ローカル・リポジトリ</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
<b>ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
<b>ロケーション・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
<b>ロジック・サーバー</b>	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
<b>差し込み印刷ワークベンチ</b>	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
<b>手動コミット・トランザクション</b>	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
<b>マスター・ビジネス関数(MBF)</b>	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
<b>マスター・テーブル</b>	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
<b>照合伝票</b>	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
<b>メディア・ストレージ・オブジェクト</b>	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
<b>メッセージ・センター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
<b>メッセージング・アダプタ</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>メッセージング・サーバー</b>	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
<b>中間層BPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
<b>監視アプリケーション</b>	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
<b>ネームド・イベント・ルール (NER)</b>	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
<b>Nota Fiscal</b>	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
<b>Nota Fiscal Factura</b>	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
<b>オブジェクト構成マネージャ (OCM)</b>	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
<b>オブジェクト・ライブラリアン</b>	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
<b>オブジェクト・ライブラリアンのマージ</b>	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
<b>オープン・データ・アクセス (ODA)</b>	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

<b>出力ストリーム・アクセス(OA)</b>	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>パッケージ</b>	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
<b>パッケージ・ビルド</b>	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
<b>パッケージ・ロケーション</b>	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下のサブディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
<b>パッケージ・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
<b>パスコード・ディレクトリ</b>	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
<b>パターン</b>	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
<b>計画ファミリ</b>	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
<b>優先プロファイル</b>	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
<b>プリント・サーバー</b>	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
<b>プリステイン環境</b>	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
<b>処理オプション</b>	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。
<b>本稼働用環境</b>	ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。
<b>本稼働レベルのファイル・サーバー</b>	品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。
<b>本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス</b>	本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。
<b>プログラム一時修正 (PTF)</b>	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。
<b>プロジェクト</b>	JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。
<b>プロモーション・パス</b>	ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。  11>21>26>28>38>01  このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。
<b>プロキシ・サーバー</b>	企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。
<b>公開ビジネス・サービス</b>	EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。
<b>公開ビジネス・サービス識別情報</b>	関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。
<b>公開ビジネス・サービスのWebサービス</b>	J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。
<b>パブリッシュ済テーブル</b>	マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。
<b>パブリッシュ</b>	パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。
<b>プル・レプリケーション</b>	JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先マシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクリイバとしてセットアップされます。プル・サブスクリイバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクリイバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。

<b>QBE</b>	Query by Example (例示照会)の略語です。JD Edwards EnterpriseOneでは、QBE行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
<b>リアルタイム・イベント</b>	外部システムで使用するためにEnterpriseOneのアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
<b>リフレッシュ</b>	新規リリースやPTF/累積アップデート・リリース(B73.2やB73.2.1など)に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアまたはそのサブセット(テーブルや業務データなど)を修正する機能です。
<b>レプリケーション・サーバー</b>	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
<b>Rt-Addressing</b>	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
<b>規則</b>	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
<b>見積オーダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。  JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
<b>Secure by Default</b>	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
<b>SSL (Secure Socket Layer)</b>	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSLを使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
<b>SEI実装</b>	サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)を宣言するメソッドを実装するJavaクラスです。
<b>選択項目</b>	JD Edwards EnterpriseOneメニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して[Enter]キーを押します。
<b>シリアライズ</b>	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
<b>サーバーワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
<b>サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)</b>	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言するJavaインターフェイスです。
<b>SOA</b>	Service Oriented Architectureの略語です。
<b>ソフトコーディング</b>	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
<b>ソース・リポジトリ</b>	HTTPアダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
<b>スポット・レート</b>	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

<b>スペックのマージ</b>	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
<b>スペック</b>	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
<b>スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
<b>SSL証明書</b>	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
<b>オフライン処理</b>	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
<b>サブスクリバ・テーブル</b>	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシュ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリバ・マシンの識別に使用されます。
<b>スーパークラス</b>	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
<b>補足データ</b>	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
<b>テーブル・アクセス管理(TAM)</b>	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
<b>テーブル変換ディレクタ</b>	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>テーブル変換</b>	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>テーブル・イベント・ルール</b>	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
<b>ターミナル・サーバー</b>	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
<b>3ステップ処理</b>	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

<b>3方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
<b>トランザクション処理(TP)モニター</b>	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
<b>トランザクション処理方法</b>	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です(開始、コミット、ロールバック、取消など)。
<b>トランザクション・セット</b>	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション(電子データ交換の標準ドキュメント)です。
<b>トリガー</b>	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
<b>トリガーイベント</b>	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
<b>2方向認証</b>	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
<b>2方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
<b>ユーザー識別情報</b>	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
<b>ユーザー一時変更のマージ</b>	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
<b>値オブジェクト</b>	データ構造がデータを渡すのとよく似たように入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開(公開ビジネス・サービスで使用)か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
<b>差異</b>	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。  JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
<b>公開ビジネス・サービスのバージョン</b>	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
<b>バージョン・リストのマージ</b>	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
<b>ビジュアル・アシスト</b>	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
<b>用語一時変更</b>	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
<b>wchar_t</b>	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

<b>Webアプリケーション・サーバー</b>	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
<b>Webサーバー</b>	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
<b>WSDL (Web Service Description Language)</b>	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
<b>WSIL (Web Service Inspection Language)</b>	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
<b>Webサービス・プロキシ基盤</b>	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・レコード</b>	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート</b>	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
<b>WHERE句</b>	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
<b>Windowsターミナル・サーバー</b>	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
<b>ウィザード</b>	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
<b>ワークベンチ</b>	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエンリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
<b>作業日カレンダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
<b>ワークフロー</b>	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス(ワークフロー)では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
<b>ワークグループ・サーバー</b>	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
<b>XAPIイベント</b>	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
<b>XML CallObject</b>	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLディスパッチ</b>	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLリスト</b>	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLサービス</b>	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLトランザクション</b>	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
<b>XMLトランザクション・サービス(XTS)</b>	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
<b>Zイベント</b>	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
<b>Zテーブル</b>	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
<b>Zトランザクション</b>	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

# 索引

## 数字/記号

- (00/EX) 3
- 00/EX(税目コード) 3
- 70/TI(税ID検証) 24
- AAI, 参照: AAI(自動仕訳)
- AAI(自動仕訳)
  - GTxxxx 33
  - PCVATP 33
  - PTVATD 33
  - PTxxxx 33
  - RTxxxxx 33
  - VATおよび売上税を含む購買オーダーの税計算 15
  - VATおよび売上税を含む在庫品目の税計算 15
  - VATおよび売上税を含む受注オーダーの税計算 18
  - VATおよび売上税を含む伝票および請求書の税計算 18
  - VATおよび売上税を含む非在庫品目の税計算 16
  - VATおよび使用税を含む伝票の例 22
  - VAT用の設定 33
  - 売上税(S)を含む購買オーダーの例 5
  - 売上税(S)を含む受注オーダーの例 7
  - 売上税(S)を含む伝票および請求書の例 8
  - 会計システム用の設定 32
  - 使用税(U)を含む購買オーダーの例 8
  - 使用税(U)を含む伝票の例 10
  - 使用税および売上税を含む購買オーダーの例 19
  - 税の設定の概要 31
  - 付加価値税(V)を含む購買オーダーの例 11
  - 付加価値税(V)を含む受注オーダーの例 13
  - 付加価値税(V)を含む伝票および請求書の例 14
  - 免税の取引用の設定 23
- AAI(自動仕訳)(P0012) 32
- Customer Connection Webサイト xii
- F0018R(税調整リポジトリ) 47, 77
- F0018(税)
  - 更新の概要 73
  - レコードの除去 76
  - レコードの追加、変更および削除 73
- P0006(ビジネスユニットの検討と改訂) 42
- P0012(AAI(自動仕訳)) 32
- P0018R(税調整リポジトリの検討) 84
- P0018(税テーブルの改訂) 73
- P0022(税規則) 25
- P09106(VAT付き仕訳)
  - 概要 63
- P0910(VAT付き仕訳)
  - 処理オプション 65
- P4008(税率/税域) 38
  - 概要 35
- P40950(流通AAI) 33
- P4314(伝票照合) 54
- PeopleCodeの表記規則 xiv
- R0018P1(税集計レポート/付加価値税)
  - 概要 105
  - 処理オプション 105
  - ナビゲーション 103
- R0018P2(売上税)
  - 概要 106
  - 処理オプション 106
  - ナビゲーション 103
- R0018P7(付加価値税例外レポート(納税先別))
  - 概要 106
  - 処理オプション 107
  - ナビゲーション 103
- R0018PURGE(税テーブルの除去) 76
- R0018R01(略式ID別調整済み税レポート)
  - ナビゲーション 103
- R0018R02(税域別調整済み税レポート)
  - ナビゲーション 104
- R0018R(税調整リポジトリの更新)
  - 概要 77
  - 処理オプション 84
- R0018(税明細/集計)
  - 概要 104

処理オプション 104  
 ナビゲーション 103  
 R00320(税仕訳)  
   概要 107  
   処理オプション 108  
   ナビゲーション 104  
 R09801(総勘定元帳への転記) 47  
 VAT, 参照: 付加価値税  
   インプット 86  
   還付不可インプット 86  
 VAT付き仕訳(P09106)  
   概要 63  
   処理オプション 65  
 Vertex Sales Tax Q Series  
   F03B11テーブルへのマッピング 90  
   F0411テーブルへのマッピング 87  
   F4211およびF4201テーブルへのマ  
   ッピング 97  
   F4812テーブルへのマッピング 92  
   売掛管理レコードの住所選択階層 92  
   買掛管理レコードの住所選択階層 89  
   契約請求管理およびサービス請求管  
   理レコードの住所選択階層 94  
   受注管理レコードの住所選択階層 98  
   調達管理および住所録のテーブルへ  
   のマッピング 99  
   調達管理レコードの住所選択階  
   層 101

## あ

アプリケーションの基礎 xi

## い

イギリス  
   VAT登録番号の例 44  
   税規則の設定 29  
 イタリア  
   VAT登録番号の例 43  
   税ID検証 43  
   税ID検証の一時変更 45  
   インプットVAT 86

## う

売上税(R0018P2)  
   概要 106  
   処理オプション 106  
   ナビゲーション 103

## お

オランダ  
   VAT登録番号の例 44  
 オーストリア  
   VAT登録番号の例 43

## か

会社  
   税規則の設定 25  
 カナダ  
   税のみの取引の入力 58  
   還付不可VAT, 参照: 付加価値税  
   還付不可インプットVAT 86  
   関連ドキュメンテーション xii

## き

共通フィールド xvi

## け

警告 xv

## こ

ご意見 xvi  
 購買オーダー  
   VATおよび売上税の税計算の例 15  
   VATおよび使用税の税計算の例 22  
   売上税(S)の例 5  
   外貨建て取引の税計算 50  
   使用税(U)の例 8  
   使用税および売上税の税計算の  
   例 19  
   税情報の入力 56  
   税の概要 54  
   デフォルト税情報の設定 41  
   付加価値税(V)の例 11  
   免税の例 23  
   留保金のリリース 55  
 顧客  
   デフォルト税情報の設定 41  
 ご要望 xvi  
 コロンビア(VATを含む仕訳) 64

## し

仕入先  
   デフォルト税情報の設定 41  
 受注オーダー  
   VATおよび売上税の税計算の例 18  
   売上税(S)の例 7  
   外貨建て取引の税計算の例 52

- 税コード別または税率別の行の集計 55
- 税情報の入力 56
- 税の概要 54
- デフォルト税情報の設定 41
- 付加価値税(V)の例 13
- 使用税
  - AAIの設定 33
  - VATおよび使用税を含む購買オーダーの税計算の例 19
  - VATおよび使用税を含む伝票の税計算の例 22
  - 購買オーダーの税計算の例 8
  - 税目コード 3
  - 伝票の税計算の例 10
- 仕訳
  - F0018テーブルの更新 73
  - VAT付きの入力 63
  - バッチ処理 70
  - 付加価値税 70
  - 変更した金額に対する税計算 74
- す
- スウェーデン
  - VAT登録番号の例 44
- スペイン
  - 税ID検証 43
  - 税ID検証の一時変更 45
- せ
- 税
  - VATを含む仕訳 63
  - 購買オーダーおよび受注オーダーへの入力 54
  - 在庫品目用の計算 5
  - 請求書および伝票への入力 57
  - 税調整リポジトリの更新
    - 概要 77
    - 支払項目 80
    - 総勘定元帳勘定科目別の調整 77
    - 調整済取引の改訂 78
    - 例 78
    - レコードの検討 84
  - 総勘定元帳勘定科目別のトラッキング 49
  - 総勘定元帳勘定科目への金額の配賦 77
  - 非在庫品目用の計算 6
- 更新の概要 73
- レコードの除去 76
- レコードの追加、変更および削除 73
- 税ID検証
  - 一時変更 45
  - 概要 43
  - 有効化 45
- 税ID検証(70/TI) 24
- 税域別調整済み税レポート(R0018R02)ナビゲーション 104
- 税規則
  - 税計算の例 27
- 税規則(P0022) 25
- 「税規則の改訂」フォーム 30
- 請求書
  - F0018テーブルの更新 73
  - VATおよび売上税の税計算の例 18
  - 売上税(S)の例 8
  - 外貨建て取引の税計算 50
  - 税込みの請求書の改訂 66
  - 税の入力 57
  - 税レコードの改訂 74
  - バッチ処理 67
  - 付加価値税(V)の税計算の例 14
  - 丸め 58
  - 「請求書の入力」フォーム 59
- 税計算
  - VATおよび売上税を含む購買オーダー 15
  - VATおよび売上税を含む受注オーダー 18
  - VATおよび売上税を含む伝票および請求書 18
  - VATおよび使用税を含む購買オーダーの例 22
  - 売上税(S)を含む購買オーダー 5
  - 売上税(S)を含む受注オーダー 7
  - 売上税(S)を含む伝票および請求書 8
  - 外貨金額のバッチ処理 70
  - 許容規則の設定 26
  - 購買オーダーの外貨金額 50
  - 受注オーダーの外貨金額 52
  - 使用税(U)を含む購買オーダー 8
  - 使用税(U)を含む伝票 10
  - 使用税および売上税を含む購買オーダーの例 19
  - 仕訳の税額の改訂 74
  - 税規則 26
  - 税規則の設定 25

- 請求書入力 57
  - 請求書の外貨金額 50
  - 請求書の外貨金額の例 51
  - 税目コードの概要 3
  - 伝票入力 57
  - 伝票の外貨金額 50
  - 付加価値税(V)を含む購買オーダー 11
  - 付加価値税(V)を含む受注オーダー 13
  - 付加価値税(V)を含む伝票および請求書 14
  - 丸め 58
  - 免税の購買オーダーおよび受注オーダーの例 23
  - 例 27
  - 割引額および税額に対する規則 27
  - 税込金額への課税の計算
    - VATおよび売上税を含む購買オーダー用の計算式 15
    - VATおよび売上税を含む受注オーダー用の計算式 18
    - VATおよび売上税を含む伝票および請求書用の計算式 19
    - 使用税および売上税を含む購買オーダー用の計算式 20
  - 税集計レポート/付加価値税(R0018P1)
    - 概要 105
    - 処理オプション 105
    - ナビゲーション 103
  - 税仕訳(R00320)
    - 概要 107
    - 処理オプション 108
    - ナビゲーション 104
  - 税調整リポジトリ(F0018R) 47, 77
  - 税調整リポジトリの検討(P0018R) 84
  - 税調整リポジトリの更新(R0018R)
    - 概要 77
    - 処理オプション 84
  - 税テーブルの改訂(P0018) 73
  - 「税テーブルの改訂」フォーム 74
  - 税テーブルの除去(R0018PURGE) 76
  - 税の設定
    - AAI(自動仕訳) 31
    - 会計AAI 32
    - 税規則 25
    - 税目コード 3
    - 税率/税域 35
    - 転記プログラム 47
    - 取引入力のデフォルト値 41
    - 納税先 24
    - ユーザー定義コード 24
    - 流通AAI 33
  - 製品ガイド
    - 注文 xii
  - 税明細/集計(R0018P)
    - 概要 104
    - 処理オプション 104
    - ナビゲーション 103
  - 税目コード
    - VATおよび売上税を含む購買オーダーの例 15
    - VATおよび売上税を含む受注オーダーの例 18
    - VATおよび売上税を含む伝票および請求書の例 18
    - VATおよび使用税を含む購買オーダーの例 22
    - Vertex Sales Tax Q Seriesの階層 89
    - 売上税(S)を含む購買オーダーの例 5
    - 売上税(S)を含む受注オーダーの例 7
    - 売上税(S)を含む伝票および請求書の例 8
    - 概要 3
    - 還付不可VAT 37
    - 使用税(U)を含む購買オーダーの例 8
    - 使用税(U)を含む伝票の例 10
    - 使用税および売上税を含む購買オーダーの例 19
    - 付加価値税(V)を含む購買オーダーの例 11
    - 付加価値税(V)を含む受注オーダーの例 13
    - 付加価値税(V)を含む伝票および請求書の例 14
    - 免税の例 23
  - 税率/税域
    - 設定 35
    - 有効期限 36
  - 税率/税域(P4008)
    - 概要 35
    - 処理オプション 38
  - 「税率/税域の改訂」フォーム 39
  - 前提知識 xi
- そ
- 総勘定元帳勘定科目

税情報 46  
 税の調整 70  
 総勘定元帳への転記(R09801) 47  
 相互参照 xv  
 ソフト丸め 58

## ち

注意 xv  
 注意事項 xv

## つ

追加ドキュメンテーション xii

## て

伝票 23  
 2方向照合の税 6  
 2方向伝票照合の税計算 13  
 3方向照合の税 5  
 F0018テーブルの更新 73  
 VATおよび売上税の税計算の例 18  
 VATおよび売上税を含む在庫品目の  
 税計算 15  
 VATおよび売上税を含む非在庫品目  
 の税計算 16  
 VATを含む在庫品目の税計算 11  
 VATを含む非在庫品目の税計算 12  
 外貨建て取引の税計算 50  
 使用税(U)の例 10  
 使用税を含む在庫品目の税計算 8  
 使用税を含む非在庫品目の税計  
 算 9, 10  
 税込みの改訂伝票 66  
 税の入力 57  
 税レコードの改訂 74  
 バッチ処理 67  
 非在庫品目の2方向照合の税計  
 算 17  
 非在庫品目の税 6  
 付加価値税(V)の税計算の例 14  
 丸め 58  
 伝票照合  
 税情報の入力 54  
 伝票照合(P4314) 54  
 伝票照合時の税情報の入力 54  
 「伝票入力 - 支払情報」フォーム 61  
 デンマーク  
 VAT登録番号の例 45

## と

ドイツ  
 VAT登録番号の例 44  
 税規則の設定 29  
 ドキュメンテーション  
 関連 xii  
 最新版 xii  
 ダウンロード xii  
 ドキュメンテーションのダウンロード xii

## ひ

ビジネスユニット  
 デフォルト税情報の設定 41  
 ビジネスユニットの検討と改訂  
 (P0006) 42  
 表記規則 xiv  
 品目  
 VATおよび売上税を含む在庫品目の  
 税計算 15  
 VATおよび売上税を含む非在庫品目  
 の税計算 16  
 VATを含む在庫品目の税計算 11  
 VATを含む非在庫品目の税計算 12  
 在庫品目の税の記録 5  
 使用税および売上税を含む在庫品目  
 の税計算の例 20, 21  
 使用税および売上税を含む非在庫品  
 目の税計算の例 21  
 使用税を含む在庫品目の税計算 8  
 使用税を含む非在庫品目の税計算 9  
 税コード別または税率別の行の集  
 計 55  
 税の概要 54  
 税率/税域 36  
 非在庫品目の税の記録 6

## ふ

フィンランド  
 VAT登録番号の例 44  
 付加価値税  
 AAIの設定 33  
 F0018テーブルの更新 73  
 VATおよび売上税を含む購買オーダー  
 の税計算の例 15  
 VATおよび売上税を含む受注オーダー  
 の税計算の例 18  
 VATおよび売上税を含む伝票および  
 請求書の税計算の例 18

- VATおよび使用税を含む購買オーダーの税計算の例 19
- VATおよび使用税を含む伝票の税計算の例 22
- 還付不可VATの概要 36
- 還付不可VATの例 37
- 許容規則 26
- 繰延VATのAAI 33
- 購買オーダーの税計算の例 11
- 購買オーダーの留保金の計算 55
- 受注オーダーの税計算の例 13
- 仕訳の入力 63
- 仕訳のバッチ処理 70
- 税目コード 3
- 転記先の勘定科目の階層 32
- 伝票および請求書の税計算の例 14
- 付加価値税例外レポート(納税先別)(R0018P7)
  - 概要 106
  - 処理オプション 107
  - ナビゲーション 103
- フランス
  - 税ID検証の一時変更 45

へ

- ベルギー
  - 税ID検証の一時変更 45

よ

- ヨーロッパ
  - 税ID検証の一時変更 45
  - 税IDの検証 43

り

- 略式ID別調整済み税レポート(R0018R01)
  - ナビゲーション 103
- 流通AAI(P40950) 33

れ

- 連絡先情報 xvi